三條石大街	二、〇〇〇	一、〇〇〇	二、七〇〇	一、三〇〇
三官廟大街	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、七〇〇	一、三〇〇
普樂大街	二、〇〇〇	一、〇〇〇	二、三〇〇	一、三〇〇
開口大街	二、〇〇〇	一、〇〇〇	二、三〇〇	一、〇〇〇
周公祠一帶	一、三〇〇	八〇〇	一、七〇〇	一、〇〇〇
營門東大街	一、三〇〇	八〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇
北開大街	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、七〇〇	一、三〇〇
營門內大街	一、三〇〇	一、〇〇〇	二、一〇〇	一、三〇〇
營門西一帶	二、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、一〇〇
竹林村	一、〇〇〇	八〇〇	一、〇〇〇	八〇〇
王家墳地大街	一、〇〇〇	六〇〇	一、〇〇〇	六〇〇
平均	一、三五二	九〇〇	一、八八	一、一〇八
△第四警所				
北城根簡家胡同一帶	二、〇〇〇	一、三〇〇	二、〇〇〇	一、三〇〇
針市街	三、〇〇〇	二、一〇〇	三、三〇〇	二、二〇〇
火神廟	三、三〇〇	一、三〇〇	二、七〇〇	一、三〇〇
肉市口	二、三〇〇	一、三〇〇	二、三〇〇	一、三〇〇
二道街一帶	二、三〇〇	一、三〇〇	二、三〇〇	一、三〇〇
金華園大街	二、〇〇〇	一、三〇〇	二、一〇〇	一、三〇〇
金華園河沿	二、〇〇〇	一、三〇〇	二、〇〇〇	一、三〇〇
大溝頭一帶	二、〇〇〇	一、三〇〇	二、〇〇〇	一、三〇〇
小楊莊東一帶	一、三〇〇	三〇〇	一、三〇〇	三〇〇

河北大街より大胡同北口に通ずる要道、華北製革公司、鐵工廠等多し
金鑑橋より南運河に沿ひ河北大街に至る住宅街
三條石街より三官廟街に至る小賣商店街
北營門より大胡同に通ずる北運河に沿ふ街
木廠の木材置場多し
三條石大街の後部、倉庫及古物店集中す
南を開口大街に接す、倉庫、雜貨問屋等あり
營門東大街の東南、下級娯樂地
商店街
北營門より津浦西站に通ずる要道
營門西大街以北生生紡織廠あり
竹林村以西、津浦西站に臨む殆ど空地
舊城外、住宅街
東端北門外大街、商店街なるも現在空家多し
針市街に連る、閩粵會館あり商店街
針市街に連る、商店街
肉市口の西、回教徒住家多し
南端針市街、北は龍王廟大街に至る、染屋多し
東端南運河、回教徒住家多し
東端竹竿巷、住宅街
南運河に沿ふ、回教徒住家多し

河沿二馬路	一、六〇〇	一、三〇〇	一、九〇〇	一、六〇〇
牛閣大街	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇
龍王廟	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	八〇〇
欄口一帶	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇
藥王廟	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	一、三〇〇
黑家大院	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
徐家冰窖	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
糧店街清安胡同一帶	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
小夥巷	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	一、三〇〇
九道灣大街	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇
大夥巷南小營圍一帶	二、〇〇〇	一、三〇〇	二、三〇〇	一、三〇〇
大夥巷石牌樓口一帶	一、七〇〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇
老々店河沿	一、三〇〇	一、〇〇〇	二、三〇〇	一、〇〇〇
吳家胡同	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇
先春園公所胡同	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇
呂家胡同	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇
韋陀廟西街	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇
陶家胡同	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇
青德巷前流水溝	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇
白寺後紅坑沿一帶	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇
太平街	二、三〇〇	一、三〇〇	二、三〇〇	一、三〇〇
雙街口一帶	二、〇〇〇	一、〇〇〇	二、三〇〇	一、〇〇〇
梁家嘴一帶	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇
梁家嘴後窪	八〇〇	六〇〇	八〇〇	六〇〇

南運河に沿ふ、回教徒住家多し
東端北開內大街、回教徒の住家多し
津浦西站に通ずる要道、福星麵粉公司あり、回教徒多し
回教徒の住家多し
右同
住宅街
住宅街
住宅街
住宅街
住宅街
住宅街
商店街
住宅街
住宅街
住宅街
住宅街
住宅街
住宅街
住宅街
住宅街
東端太平街大夥巷、西端雙街口、住宅街
商店街、市立小學校あり
商店街
住宅街
民豐麵粉公司あり、豚その他家畜の飼養多し

路名	三七年上半年地價 最高	三七年上半年地價 最低	三八年現在地價（五月）（單位＝一畝當り、元） 最高	三八年現在地價（五月）（單位＝一畝當り、元） 最低	備考
朱家花園	一,〇〇〇	七〇〇	一,〇〇〇	七〇〇	住宅街
平均	一,六九七	一,二四七	一,九七七	一,二三六	
△第五警所					
鹽市口大街	二,七〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	二,三〇〇	商店街
西頭灣子一帶	二,七〇〇	二,〇〇〇	二,八〇〇	二,一〇〇	竹商多く從つてその置場多し
雙廟街一帶	二,三〇〇	一,七〇〇	二,八〇〇	一,八〇〇	住宅街
賀家樓後一帶	二,三〇〇	一,三〇〇	二,三〇〇	一,三〇〇	住宅街
吳家大院怡和斗店一帶	二,〇〇〇	一,二〇〇	二,一〇〇	一,二〇〇	住宅街
場院大街	二,〇〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一,〇〇〇	早朝魚類市場となる。住宅街
魚市大街一帶	二,〇〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一,〇〇〇	住宅街
大德福街三美里一帶	二,〇〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一,〇〇〇	北洋燒寸公司あり
蒲包店大街一帶	二,〇〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一,〇〇〇	住宅街
雙廟後街一帶	一,三〇〇	一,〇〇〇	一,三〇〇	一,〇〇〇	東端に濟安自來水公司、西端に河北第三監獄あり
小西關大街一帶	二,〇〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一,〇〇〇	住宅街
習藝所東大街	二,〇〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一,〇〇〇	本區の西端にして南運河に連り德州行內河航行船寄航す
教場大街	二,〇〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一,〇〇〇	
平均	二,一四六	一,二六二	二,三二六	一,三四六	
總平均	二,一七三	一,三三九	二,三四五	一,三九四	
華街第四警區地價					
△第一警所					
大經路	三,五〇〇	二,五〇〇	五,〇〇〇	四,〇〇〇	金綱橋より天津總站に通ずる幹線道路

路名	三七年上半年地價 最高	三七年上半年地價 最低	三八年現在地價（五月）（單位＝一畝當り、元） 最高	三八年現在地價（五月）（單位＝一畝當り、元） 最低	備考
二經路	三,〇〇〇	二,〇〇〇	四,〇〇〇	三,〇〇〇	大經路の西、第二條縱路、住宅區にして辯護士事務所多し
三經路	二,八〇〇	一,三〇〇	三,三〇〇	二,二〇〇	二經路の西、第三條縱路、住宅區
天緯路	三,〇〇〇	二,三〇〇	三,三〇〇	二,三〇〇	舊市政後部の第一條橫路住宅街なるも現在空家多し
地緯路	三,〇〇〇	二,三〇〇	三,三〇〇	二,三〇〇	天緯路の北、住宅區
元緯路	二,三〇〇	一,八〇〇	二,〇〇〇	一,八〇〇	地緯路の北、大經路より新開河に達す東側一部に商店あり
黃緯路	二,〇〇〇	一,三〇〇	二,三〇〇	一,三〇〇	元緯路の北、大經路より小王莊に通ず、工業學院及第一公園あり
宇緯路	一,三〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一,〇〇〇	黃緯路の北、住宅區
平均	二,九一三	二,〇〇八	三,六二五	二,七一三	
△第二警所					
西窪街	二,六〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	二,三〇〇	天緯路より新開河開口に達す恒源紗廠あり
東窪街	二,六〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	二,三〇〇	地緯路より四經路に達す河北高等法院あり
楊橋大街	二,〇〇〇	一,三〇〇	二,三〇〇	二,〇〇〇	恒源紗廠後部の職工街空地多し
平均	二,四〇〇	一,八三三	二,八三三	二,三三三	
△第三警所					
堤頭前街	二,〇〇〇	一,三〇〇	二,三〇〇	一,三〇〇	北運河と新開河の合流點三吉麵粉公司あり
堤頭後街	一,七〇〇	一,〇〇〇	一,九〇〇	一,一〇〇	北運河に臨む住宅區
辛莊前街	一,三〇〇	九〇〇	一,五〇〇	一,〇〇〇	黃緯路に通ず、空地多し
辛莊後街	一,八〇〇	一,〇〇〇	一,八〇〇	一,一〇〇	
小王莊大街	一,二〇〇	八〇〇	一,四〇〇	一,〇〇〇	
平均	一,三六〇	一,〇〇〇	一,七六〇	一,〇八〇	
△第四警所					
北門外大街	二,〇〇〇	一,六〇〇	二,三〇〇	一,八〇〇	津浦線以北、商店兼住宅街

北營門一帶	一、八〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	北營門內外同義莊一帶住宅區
大紅橋	二、〇〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	子牙河に架せられたる大紅橋附近一帶住宅區
新河北大街	一、八〇〇	一、四三五	二、三五〇	一、五〇〇	同義莊より邵家園子に至る大街、住宅區
平均				一、六五〇	
△第五警所					
西沽大街	一、三〇〇	九〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇	大紅橋を越えて北運河に沿ふ街、丹華燒寸公司あり
西沽一帶	一、〇〇〇	六〇〇	一、一〇〇	八〇〇	北洋大學跡あり、每春桃花の名所となる
西沽田地	一一〇	一〇〇	三五〇	一一〇	西沽村外
西于王莊子	一、〇〇〇	三五〇	一、一〇〇	七〇〇	墓地多く、住家稀少
西于王莊田地	一〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇	西于王莊外
平均	七三〇	四四〇	八三〇	五四二	
△第六警所					
蓆廠大街	一、一〇〇	六〇〇	一、三〇〇	七〇〇	北運河東岸、住宅街
蓆廠一帶	九〇〇	一〇〇	一、〇〇〇	三〇〇	蓆廠村外、殆ど田地及墓地
白廟	一、〇〇〇	三〇〇	一、〇〇〇	三〇〇	蓆廠の北、田地多し
東于莊子	一、〇〇〇	三〇〇	一、〇〇〇	三〇〇	津浦線引込線西北、蓆廠東部の部落
法政橋一帶	六〇〇	一〇〇	七〇〇	二〇〇	呂律路に續く、法商學院、師範學校に近し、荒地多し
平均	九四〇	三四〇	一、〇四〇	四四〇	
總平均	一、〇七〇	一、二三	二、一四五	一、三五〇	

麻類收穫豫想竝相場

＝三井洋行調査＝

June（青麻又は黃麻）（年產額は治安最良と見ての集貨見込數量）

產地別	平年作	本年度豫想	治安最良と見ての集貨數量
	擔	擔	擔
楊柳青	七三〇〇	三三〇〇	無
獨流	三三〇〇	無	無
王家口	二〇〇〇〇	一〇〇〇〇	二〇〇〇〇
史各莊	七三〇〇		
蘇橋	三三〇〇	一六八、七三〇	四〇〇〇〇
勝芳	三〇〇〇〇		
超北口	一五〇〇〇	七〇〇〇	
端村	三三〇〇		
娘娘宮			
北河筋			
北倉			
宣興埠	二〇〇〇〇	五〇〇〇	三〇〇〇〇
落垈			
廊坊			
東河筋			

（紅麻又は線麻と稱す）各地年產額及治安最良と見ての集貨見込數量

（天津在荷を含まず）

產地別	本年作	本年度豫想	治安最良と見て集貨見込數量
	擔	擔	擔
順德第一圍	八〇〇〇	八〇〇〇	七〇〇〇
泰安第一圍	三五〇〇〇	四〇〇〇〇	一四〇〇〇
豁安第一圍	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	二五〇〇〇
蔚州第一圍	三五〇〇〇	四〇〇〇〇	三〇〇〇〇
計	九八〇〇〇	一〇八〇〇〇	六六〇〇〇

青麻事變前三箇年の相場（單位元）

年別	月別											
昭和十年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
同十一年	—	—	—	—	—	—	七三五	六八〇	七三五	九三〇	九三〇
同十二年	二一〇〇	一〇三〇	二一〇〇	二一〇〇	—	二一三〇	二二六〇	二二六〇	二三〇〇	二三七〇	二三七〇
	二三六〇	二三一〇	二三〇〇	二三〇〇	—	—	—	—	—	—	—

青麻事變後本年十月迄の相場（單位元）

年別	月別											
昭和十二年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
	—	—	—	—	—	—	二三〇〇	二三七〇	二四〇〇	二三七〇	二四七〇	二五八〇

昭和十三年　一五・二〇　一五・二〇　一六・三〇　一六・三〇　一七・六〇　一七・三〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇

紅麻事變前三箇年の相場（單位元）（天津渡値）

年別	月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
昭和十年		—	—	三七・二〇	三七・二〇	—	—	三九・〇〇	三九・〇〇	四〇・〇〇	四〇・〇〇	四〇・〇〇	四〇・〇〇
同十一年		—	三八・七〇	三七・二〇	—	—	—	三四・三〇	三三・三〇	三三・三〇	三三・三〇	三三・三〇	三三・三〇
同十二年		—	三六・三〇	三六・七〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—

紅麻事變後本年九月迄の相場（單位元）（天津渡値）

年別	月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
昭和十二年		—	—	—	—	—	—	三七・二〇	三七・二〇	三七・二〇	三七・二〇	三七・二〇	三七・二〇
同十三年		四〇・〇〇	四一・〇〇	四一・〇〇	四三・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四二・〇〇	四〇・〇〇	—	—	—	—

十月線麻行市高低

	低	高
上等	五八元	六五元
中等	四〇元	四五元
下等	三六元	三八元

石家莊の物價表（新民會調査）

品目	單位	小賣値
米類		
西質	一包	二五・五〇
仰光	同	二二・五〇
清水	同	二四・〇〇
仁川	一袋	一三・五〇
安東	一包	—
麥粉		
陽和樓	一袋	五・六五
綠師子	同	五・六五
紅師子	同	五・五五
藍師子	同	五・一〇
雜穀類		
小米	一斗	一・五〇
綠豆	同	一・七五
黑豆	同	一・〇〇
黃豆	同	一・一五

品目	單位	小賣値
白糖	一斤	〇・二六
鹽	十斤	一・〇三
燃料類		
煤炭	百斤	二・〇〇
石油	桶	七・一〇
汽油	一包	〇・一三
發火	同	〇・三五
燐ローソク	百斤	一・八〇
薪		
雜項		
中華綿花	一斤	〇・四〇
白市布	一尺	〇・一五
白粗布	同	〇・〇七
茶葉	一斤	一・六〇
燒酒	同	〇・四〇
黃酒	同	〇・二四
蔬菜類		
白菜	十斤	〇・三〇
茄子	同	〇・二〇
葱	同	〇・二〇
韭	同	〇・五〇
馬鈴薯	同	〇・八〇
甘藷	同	〇・二〇
白蘿蔔	同	〇・二〇
南瓜	同	〇・二〇
北瓜	同	〇・二〇
東瓜	百頭	〇・二五
蒜	十斤	二・〇〇
洋葱	同	一・〇〇
洋白菜	同	〇・三〇
綠豆芽	同	一・二〇
蓮根	同	
肉類		
豚肉	一斤	〇・三二
羊肉	同	〇・三五
牛肉	同	〇・四〇
鷄肉	一羽	〇・八五
鷄卵	百個	二・五〇
調味品		
醬油	一斤	〇・三二
酢	同	〇・〇六

石家莊飲食店組合新値段表

＝十月一日實施＝

品目	單位	小賣値
酒		
內地酒		
カフエー		
ビール		
サイダル		
飲食店		
酒		
內地酒	七〇（錢）	
カフエー	六〇	
ビール	八〇	
サイダル	四五	
飲食店	七〇	
酒	四〇	
クテル	七〇	—
洋酒	六〇	—

ミルク	二五	二〇	
コーヒー	二五	二〇	
紅茶	二五	二〇	
コーコア	三〇	二〇	
付出し	三〇	三〇	
テスモノ	時價	同	
カキツ	七〇	六〇	
魚類	時價	同	
ハムサラダ	七五	七〇	
ヤサイサラダ	六〇	六〇	
オムレツ	五〇	四〇	
フルーツ	時價	同	
チキンライス	六〇	五〇	
カレイライス	五五	五〇	
オムライス	六〇	五〇	
ランチ	一二〇	一〇〇	
ホワイトライス	二〇	一五	
親子丼	四五	三〇	
キヤキ	一二〇	一〇〇	
内丼		五〇	
煮付		時價	
ゼンザイ		一五	
肉うどん		三〇	
王子うどん		三〇	
定食		五〇	

唐山十月由旬日用品物價（單位元）

名稱	單位	十一至十五平均價格	十六至二十平均價格
酒高粱	每石	九・一〇	九・三八
米高粱	同	一一・五八	一一・七六
小米	同	一四・〇八	一四・二〇
糯米	同	一四・五四	一四・六〇
黑豆	同	一〇・三二	一〇・〇五
麵粉	每袋	五・九〇	五・九〇
玉蜀黍	每石	一二・〇〇	一二・〇〇
大米	每包	二二・八〇	二二・八〇
猪肉	每斤	〇・四〇	〇・四〇
牛肉	同	〇・三〇	〇・三〇
鶏卵	每隻	〇・五〇	〇・五〇
白菜	每枚	〇・〇二八八	〇・〇三二
豆芽菜	每斤	〇・〇三	〇・〇三
葱	同	〇・〇四	〇・〇四
馬鈴薯	同	〇・〇三	〇・〇四
韮	同	〇・〇六	〇・〇六
食鹽	同	〇・一〇	〇・一〇
白砂糖	每百斤	二三・〇〇	二三・〇〇
綿布	每疋	一二・六四	一二・二八
棉花	每斤	〇・六〇	〇・六八四
石炭	每斛	〇・四七	〇・四七

木炭	每百斤	七・九二	七・八八
薪	每百個	一二・〇〇	一一・八〇
石油	每箱	六・五〇	六・五〇
燐寸	每箱	三八・〇〇	三八・〇〇

青島棉花輸出協會　南眞永商店、三和洋行、南海棉行、伊藤棉行、日比野棉行、山東棉紡、瀛華洋行、高橋商會、東洋棉花、大青洋行等の十二商社を以て四月七日準備金五十萬圓第一回拂込十二萬五千圓の協會設立許可申請願を總領事館に提出、四月二十一日附許可となつたもので最近資本金五十萬圓の株式會社に改組問題を起した。

天津電氣工事組合　昭和十二年七月二十四日正式許可を得て設立されたもで十月上旬メムバーは左の如くである。（△印組合長）

△伍賀電氣商會　義昌洋行
京津電氣公司　天津洋行
太平洋行　隆興洋行
河北電氣工業社　共立電氣工業社
國際電業社　青山電機商會

簡易保險支那側郵便局に委託　北支在留邦人の簡易保險加入者は相當數に達するが北支より內地への送金は手數料手續などの點より加入者側に非常な不便あるため厚生省保險院と北支郵政總局との話合によつて十月から支那側郵便局では在留邦人簡易保險事務の委託運營をなすことになり保險加入の勸誘その他一部の事務は民團が委託される筈である。

北京商工會議所　明治四十年十二月十一日創立以來三十二年の歷史を有する在北京商工團體であつた北京商工會はさきに北京商工會議所が開始されたので存在の必要性を失ひ十月二十八日解散式を行つた。

天津日支石炭販賣業者

△郵商側

三菱公司	法界二號路四二
三井洋行	日界山口街一
泰信洋行	法界五號路四〇
萬長泰	日界福島街三四
加藤洋行	日界旭街一一
增田洋行	日界松島街二一
松昌洋行	日界旭街四
山玉號	日界旭街四二
旭東公司	日界花園街一五
三昌洋行	日界壽街六

通天館同盟生命保險株式會社　東京市麻布區霞町一番地
利根川電氣株式會社　東京市麻布區霞町一番地
成瀬商會　東京市麻布區霞町一番地
利根川製作所　東京市麻布區霞町一番地
日本電氣株式會社　東京市麻布區霞町一番地
日本電氣通信機株式會社　東京市麻布區霞町一番地
日本電氣計器株式會社　東京市麻布區霞町一番地
日本電氣工業株式會社　東京市麻布區霞町一番地
日本電氣興業株式會社　東京市麻布區霞町一番地
日本電氣商事

同興順	盧保和	小賣	三〇〇元	
厚記煤棧	高敬賢	卸賣	三〇〇元	
永義公司	穆叔愚	同	二、〇〇〇元	
捷成公司	賈子均	同	二、〇〇〇元	
義興灰煤棧	張仲祥	同	五〇〇元	
公興久	王警韓	小賣	二、〇〇〇元	
宏昌煤棧	李煥祿	卸賣	一、〇〇〇元	
玉慶成	張玉慶	同	五、〇〇〇元	
民生煤棧	華智民	同	二、〇〇〇元	
韓記東號	楊泰華	同	三〇〇元	

天津華商九月中開店狀況

九月中開店數は二三軒で本年七月の二二八軒に比し三軒增、同八月の二一八軒に比し十三軒增といふ漸增で九月中閉店數は三十軒で七月に比し八軒增、八月に比し九軒增加である。

種類別	商店名	代表者	資本金	所在地
洋雜貨	德和公司	朱立三	五〇〇	河北影
醬油	中國津々醬油	陳文辰	八〇〇	玉皇閣前
提花工廠	宏豐工廠	張士農	一、〇〇〇	西關掩骨
雜貨	益記號	尤冠英	五〇〇	估衣街賈胡同
米麵	和豐祥	孟繁昌	二、〇〇〇	北門東一
採桑材	振豐號	蔡忠傑	五〇〇	針市街東
電池	大明工廠	張恒發	五〇〇	北馬路樂安里
刀剪鐵舖	德合號	孫秉乾	五〇〇	北馬路六五
染房	義成染坊	劉作舟	一、〇〇〇	酒店旁胡同一三
針織地毯	華祥針織工廠	羅彼泉	一、〇〇〇	小王庄楊橋街豪成里二
土葯店	奎記號	倪壁臣	五〇〇	南市慎德里二一
理髮	浩然理髮館	王輔廷	五〇〇	呂緯路八四
魚業	三興魚舖	張興懋	五〇〇	金鋼橋沿
米麵	永順成	賈風田	一、〇〇〇	緯馱廟大街三一
綠姑舖	福興泰	李松亭	一、〇〇〇	北馬路商會對過百號
土膏店	合記號	江廣潤	五〇〇	建物大街慎德里二〇號
灰煤	成興順	呂耀河	五〇〇	河北八馬路日緯路轉角
鞋帽作坊	天中華	徐玉堂	五〇〇	針市街板橋胡同二號
旅館	公記泰英旅館	李硯亭	一、〇〇〇	建物大街一二三
彈棉花	德泰號	徐熙庭	五〇〇	小王莊大街七七
熟皮底	善豐硝皮廠	丁月塘	六〇〇	大夥巷福興順胡同
顏料	德盛和	師達三	一、六〇〇	官濠大街一五
土膏店	景記號	王錫二	一、〇〇〇	宮北大街七一
綿花莊	恒記棉衣莊		五〇〇	特一區一所杭州路
棉花店	寶盛和		五〇〇	楊家花園西街壽康里
殘慶金化合物	日商同和公司收發部	楊振書	一、〇〇〇	南門內南大寺

磨刀廠	仁利磨刀廠	鄭士貴	五〇〇	南門內大街八五
鐵廠	瑞興泰鐵舖	王瑞五	一、五〇〇	北營門西馬路二一七
茶食店	福興公	高質彬	五、〇〇〇	針市街四四
普通雜貨	大興普圓	李少渠	一、一〇〇	趙家場大街七七
眼鏡	寶明齋	劉星閣	五〇〇	
絲織品	福利興工廠	呂殷琴	二、〇〇〇	南小道子二二
煤棧	九昌煤棧	趙雨田	二、〇〇〇	月緯路三馬路三七
米麵舖	泰源永	魏獻廷	一、五〇〇	西南城角四六
灰煤廠	韓記北號灰煤	于伯英	一、五〇〇	獅子林電燈房
皮履舖	大豐泰	庚餘普	二、〇〇〇	估衣街三一
碾米	普利號	王荒五	一、〇〇〇	小劉庄厚德里三四
雜糧	同豐泰	田紹武	五〇〇	南營門大街三五
棉布	宏祥織布工廠	劉承九	六〇〇	天海路營廳里七七

臨時政府實業部組織大綱

（四月十三日公布）

第一條　實業部は全國の實業行政事務を管理す

第二條　實業部に左記各局を置く

總務局、農林局、工商局、漁牧局、鑛業局、勞工局、合作局

第三條　總務局は左記事項を掌る

一、文書の收發分配撰擇及び保存事項
二、部令公布事項
三、典守印信事項
四、職員の任免進退事項
五、統計の編製整理事項
六、出版物の編輯刊行事項
七、本部經費の豫算決算會計事項
八、直轄各機關の經費及び會計稽核事項
九、本部官產及び官有物の保管事項
一〇、本部の庶務及び其の他各局に屬せざる事項

第四條　農林局は左記事項を掌る

一、農業林業の保護監督奬勵及び改良事項
二、農產物及び絲蠶事項
三、耕地整理及び水利事項
四、氣候の測驗及び天災蟲害の豫防と善後事項
五、官有荒地の處分事項
六、官有林及び保安林事項
七、農會及び農業林業各團體事項
八、農會及び外國農業團體事項
九、農用器具と種子の改良及び紹介奬勵事項

一〇、其の他農林業一切の事項

第五條　工商局は左記事項を掌る

一、工商業保護監督奬勵及び改良事項

二、國營工商業事項

三、工商業團體事項

四、工廠の監督及び檢査事項

五、工人の保護及び教育事項

六、工商業の調査及び商品陳列檢査試驗事項

七、度量衡の製造檢査及び推行事項

八、交易所及び各種公司設立の核准及び監督事項

九、商標特許及び專賣事項

一〇、保險運送外國貿易事項

一一、商業調査及び統計事項

一二、會計師の登記及び試驗監督事項

一三、商埠商港の經營事項

一四、駐外商務官の指揮監督事項

一五、其の他工商業の一切事項

第六條　漁牧局は左記事項を掌る

一、漁牧の保護監督及奬勵事項

二、漁牧機關及び漁牧團體の監督事項

三、水產畜產の改良奬勵事項

四、漁稅の擬定事項

五、家畜改良及び衛生事項

六、水產牧畜種子の試驗檢査及び改良事項

七、獸疫檢査及び防除事項

八、其の他漁牧の一切事項

第七條　鑛業局は左記事項を掌る

一、國營鑛業の籌設及び管理事項

二、鑛業の監督保護奬勵事項

三、鑛業の特許及び撤銷事項

四、鑛業登記事項

五、鑛區稅の擬定及び徵收事項

六、鑛業爭議事項

七、鑛業普務事項

八、鑛業調査及び統計事項

九、鑛區勘定及び鑛質分析事項

一〇、鑛業用地事項

一一、地質調査事項

一二、其の他鑛業の一切事項

第八條　勞工局は左記事項を掌る

一、勞工團體の監督事項

二、勞工生活の改良及び保障事項

三、工廠鑛廠衛生設備の指導監督及び檢査事項

四、工人知識の增進事項

五、工事失業及び傷害救濟事項

六、勞働保險事項

七、勞資爭議事項

八　工人の工作能率及び服務狀況の考査事項

九、勞工移殖及び國外勞工保護事項

一〇、國際勞工事項

一一、勞工統計事項

一二、其の他勞工一切の事項

第九條　合作局は左記事項を掌る

一、合作社の監督事項

二、合作事業の計畫及び促進事項

三、合作事業の指導及び視察事項

四、合作委会の調劑事項

五、合作人才の訓練事項

六、合作事業の調査統計事項

七、其の他合作社一切の事項

第十條　實業部に總長を設け本部の事務を綜理し所屬職員及び機關を監督す

第十一條　實業部に次長一人を設け總長を輔助し部務を處理す

第十二條　實業部に秘書長一人秘書四人を設け部務會議及び長官の交辦せる事務を分掌す

第十三條　實業部に參事四人乃至六人を設け本部の法令を擬議審核す

第十四條　實業部に局長七人を設け各局事務を分掌す

第十五條　實業部に科長十五人科員三十六人を設け各局に分配し所屬各科事務を辦理す

第十六條　實業部に技監一人或は二人、技正四人乃至八人、技士四人乃至八人、技佐八人乃至十六人を設け長官の命を受け技術事務を辦理す

第十七條　實業部辦事細則は別に之を定む

第十八條　本大綱は公布の日より之を施行す

看板は……衣笠看板製作所へ
廣告は……衣笠廣告社へ
建築塗裝は……衣笠塗裝部へ

貿易

概況

事變前の支那對外貿易は國民政府において狂奔につとめた輸出促進、輸入抑壓の效果が著々現はれつゝあつたに拘はらず近年世界的經濟恐慌、國內農民の疲弊等內外諸種の原因錯綜したために衰退の情勢にありたといふの外はない。而して北支那のそれもまたもちろんこれと同樣の傾向を辿り來つた。ことに北支貿易は滿洲國に依存することが中南支より大きかつたために滿洲における市場の喪失によつて他地方に比しより多くの打擊を蒙つた。つまり滿洲事變を契機として北支貿易は輸出入ともに極めて不振の狀態に陷つたのである。昨年日支事變の勃發とともに支那沿岸航行遮斷等が行はれたゝめに支那對外貿易は文字通り停止の狀態を辿つたが天津港における輸出入貿易のみは逐次活況を示し來つたことは別項の如くである。一方冀東特殊貿易も本年廢止されたが右に關してはその項目に讀る。

支那の貿易と事變

世界經濟恐慌の深化は、列國をして、內には關稅障壁を、外には貨幣價値の切り下げによる商品ダンピングを行はしめた。この他國の犧牲に俟つて自國を恐慌から離脫せんとする貿易戰は複雜な國際關係を生じ、世界的軍擴競爭の機相を帶びるに至つた。今事變はかゝる軍擴氣運の昂揚過程に於いて勃發した。事變前支那の半植民地經濟機構は世界的な爲替戰爭に取り殘され、從つて支那全土は先進諸國の商品市場と化し、一九三〇年以來支那の貿易バランスは、第一表に見るごとく急激に惡化してゐる。

第一表支那累年純貿易額（單位百萬元）

年次	輸入	輸出	入超額
一九二五年	一、二四二	八七六	三六六
一九二六年	一、四七三	九二四	五五九
一九二七年	一、二九八	九八〇	三一八
一九二八年	一、三三〇	一、〇四七	四八三
一九二九年	一、六二〇	一、〇七〇	五五〇
一九三〇年	一、三三三	九四四	三九九
一九三一年	二、〇〇二	九二五	一、〇七七

一九三二年	一、五二四	五六九	九五五
一九三三年	一、三四五	六二二	七二三
一九三四年	一、〇三〇	五三五	四九五
一九三五年	九一九	五七六	三四三
一九三六年	九四三	七〇六	二三六

第二表支那海關稅率引上表

年次	平均稅率（%）	備考
一九二九年	八・四七	自主關稅設定（二月）
一九三〇年	一〇・三七	金單位制採用（二月）
一九三一年	一四・〇九	一部輸入稅改正（一月）
一九三二年	一四・四五	砂糖類高率引上（三月）人絹織物類引上（八月）
一九三三年	一九・七四	全般的引上（五月）
一九三四年	二二・二七	全般的引上
一九三五年	二七・二三	

第一表に於いて見られる一九三一年を限度として入超額が減少して居るのは、かゝる經濟破綻の危機を克服するために第二表のごとき逐次の海關稅率の引上げが行はれたゝめでである。

輸入稅率の引上に次いで一九三五年末には幣制改革を敢行し銀の影響から離脫した管理通貨制度を完成した。輸入稅率の引上は國內工業の發展を促し、新通貨制度の確立は、南京政府の經濟的政治的全國統一の作用を助けこれらは支那の資本主義國家としての第一歩を踏み出さしめるものではあつたが、其の一面英米資本主義に對する支那の金融財政上の從屬を强化し、他面日本との對立を益々決定的なものたらしめ、今次事變の重大な要因をなすに至つた。

第三表によつて列國の對支貿易戰（輸入）を見れば、滿洲國獨立以前の日、英、米の順位は事變後において米、日、英の順となり一九三五年以後にあつては、米、日、獨、英と變遷して、米獨の進出が顯著となつてゐる。これを輸出にみてもほゞ同樣の變遷があり、その順位は米、日、獨、英となつてゐるが、輸出入總額においては獨逸が英國を凌駕して第三位を占めてゐる。

獨國別に輸出入品を檢討することは、列國が支那に何を要求したか、或ひは支那經濟建設、對外所屬關係が如何なるものであつたか等々を考察する上に役立つことではあるが、併し今事變は既往の貿易關係を大幅に更改しつゝあるので、こゝには事變前年度の商品別對外輸出入額表を掲げて參考に供する程度にとゞめよう。

一九三六年度支那對外商品別輸出額並百分比

品別	價額 千元	百分比 %	對前年額の百分比 %
桐油	七五、三六八	一〇、四〇	一六、四六
生絲	四五、三四七	六、二四	一〇七、七四
卵及卵製品	四一、八〇二	五、九二	一三〇、三五
金屬	四一、三〇五	五、八五	一三〇、三九
皮革	四〇、三〇一	五、七四	一七、四一
茶	三〇、六六一	四、二四	一〇三、五〇
棉花	二八、一九七	三、九九	二九、七五
メリヤス及刺繍品	二五、三七七	三、四五	一四八、九八
豚毛	二五、三〇三	三、五九	一五五、九六
雜穀及其製品	二四、七二一	三、四一	一三一、〇三
羊毛駝毛	二一、一九九	三、〇一	一一六、六一
胡麻	一八、五六〇	二、六四	二一一、九六
鑛石	一五、四三七	二、一九	二九、七六
絹織物	一三、九九八	一、八四	九六、二三
綿絲	一三、三五七	一、七六	六四、五三
麻	一二、七二五	一、六六	一、九八一
石炭	一二、〇二五	一、七七	一六七、四一
落花生油	一一、〇一二	一、五六	一〇三、二一
落花生	一〇、九三八	一、五五	五五、八一
動物の腸	一〇、八九三	一、四四	一二〇、五二
煙草	九、九〇一	一、四〇	一二、九九
果實	一〇、二五七	一、四四	一四、九六
蔬菜	九、四一三	一、三三	一二二、七五
綿布	八、九六九	一、二八	一七二、九八
家畜	七、七四七	一、〇九	九五、三三
麥稈帽及麥稈眞田	六、三五三	〇、九〇	七七、六七
瓮	五、二七九	〇、七五	九五、五一
毛	五、二五一	〇、七四	一四、七二
蓆	一三、三四七	一、六六五	—
其他輸出商品	一六、六五五	一〇〇、〇〇	一三三、五六
總額	七〇五、七四一		

以上三六年度輸出表による前年度對比價格の著增の原因は、世界貿易が漸やく回復期に入つたことゝ、支那對外爲替相場の低落、支那生產事業の發展等が擧げられるが、著增輸出品中の桐油は主として米國に、皮革は米、日、獨へ、豚毛は米、日へ輸出された。

又、次の輸入商品別表に於いては一部の商品を除く殆んどが減少してゐるが、減少率の最も大なる米麥等は支那農作物の豐作によるものであり、綿布、砂糖、人絹糸等は密輸入及特殊貿易が旺んなために統計には示されてゐないことによる。

一九三六年度對外商品別輸入額並百分比

品別	價額 千圓	百分比 %	對年額の百分比 %
五種金屬及鑛石	四七、九二一	一一、四七	一〇〇、七六
機械（工具を含む）	二六、三二八	六、三七	七四、九〇
化學產品及藥品	二三、九六〇	五、五一	一二、九四
車輛	二三、三二九	五、五六	一四〇、八九
雜類金屬製品	二〇、六七五	四、九六	一〇九、七四
染料、塗料、顏料	一八、二〇四	四、三七	八九、二三
石油	一七、五八五	四、二三	八五、六一
紙	一六、九五八	四、〇七	八〇、九八
棉花	一六、〇〇五	三、八四	七〇、二三
毛及毛織物	一三、九六三	三、二一	一八、一六
木材	一三、八一五	三、〇八	六七、四四
米	一一、八八六	二、八五	二三、三五
ガソリン	一〇、〇四七	二、四一	九四、四九
砂糖	九、〇六六	二、一八	五九、九一
麻及其製品	七、九四八	一、九一	一〇、九八
魚介海產	七、八四六	一、八九	七、四九
煙草	七、七〇〇	一、八五	一三〇、一五
液體燃料	七、一五六	一、七五	六八、八二
ゴム及其製品	七、〇六四	一、七〇	一二八、〇五
絹品	五、三四一	一、二八	四六、六二
麥	五、一三一	一、二六	二六、四九
人絹絲	三、三三八	〇、八一	八四、三六
石鹽	二、九一四	〇、七〇	六六、三四
炭	二、八四四	〇、六八	六二、六二
小麥粉	二、〇六六	〇、四九	六二、八二
其他商品	九一、三二六	二、九四	—
總計	四一六、三八八	一〇〇、〇〇	八三、〇七

右の表によつて見れば、輸入額の高位を占むるものは五種金屬、機械、化學品及藥品、車輛、雜類金屬製品等の生產用材、交通用材等であつて、支那經濟が全く外國資本主義に依存してゐることを物語つて居り、而もこれらの機械、生產用材等が在支外國資本によつても多分に使用せられて居るであらう點も考へられるのであつて、蔣政權の全國統一經濟建設の行衛とも言ふべきものが推されるわけであるが左に事變前最近五箇年間のこれら重要資材の變遷を示す。

最近五箇年間重要資材輸入額變遷表（%）

第一位	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
棉花	二一、四五	米 二一、二二	米 九六、〇	一〇、二五	五種金屬 一二、四七

第二位	米	二一〇、九九	棉花	七三〇	棉花	八、七六	五種金屬
第三位	綿布	六九一	五種金屬	七二〇	米	六、三八	機械
第四位	石油	四、七六	小麦	六、三四	機械	四、五四	車輛
第五位	五種金屬	四、七〇	石油	六、四九	化學品及藥品	四、〇四	紙
第六位	小麦	四、九三	綿布	四、三二	石油	三、八六	石

五種金屬	九、四五	機械	六、三七	砂糖	一三、六一八 (一)	絹、人絹及同製品	一〇、〇三一 (十)
機械	七、〇六	化學品及藥品	四、五五	車輛	四、五四 (十)	油脂類	六、八〇七 (十)
車輛	四、一八	雜類金屬製品	四、九六	紙及同製品	三、七〇一 (十)	化學製品	三、七四〇 (十)
染料類料	四、一〇	石油	四、三七	雜金屬製品	二、四二〇 (十)	車輛及船舶	二、三三一 (一)
				棉花及綿絲	一、二〇九 (一)	麻及同製品	一三、九二一 (十)
				木材	一〇、三九九 (十)	其他	五、〇四四 (十)
				合計	六〇、〇一四 (一)		一四七、〇一四

輸入重要資材中金屬及鑛物、機械及工具等の著しい增大は、經濟建設用、日本紡績工場の北支における新、增設等に原因し、油脂類の增大は航空路、自動車路の急激な施工等により、雜品は主として軍需關係品であり、以上の物資が何れも多かれ少なかれ軍備施設に關係のあることは言ふまでもない。その他羊毛類、砂糖、絹、人絹類

の增大は、前年度の密輸、特殊貿易に對し部分的に國民政府の防止策が奏功してゐたことを示すものである。

一九三七年上半期主要類別輸出額

(單位千元)

品別	輸出額	前年同期比較增減
紡織纖維	八〇、八九九 (十)	三七、八一四
動物及同製品	六一、九六〇 (十)	一五、一九八
皮革	四四、〇七四 (十)	一五、三七一
織絲類	二五、一七七 (十)	三、九三三
絲布	二三、六八三 (十)	六八四
茶	二、四四三 (十)	二、一四一
油蠟類	九、七〇二 (十)	一四、二六四
金屬及鑛物	四八、七五一 (十)	二三、八四五
種子類	二六、三二五 (十)	五四、七四
雜品	一三、三六〇 (十)	二、三六五
穀類及穀粉	二三、二五六 (十)	二、六二六
其他	六七、五七八 (十)	一七、五三三
合計	四八二、八五九 (十)	一五〇、二四七

右の中主要輸出品は何れも著增してゐるが、紡織纖維の增加は、日本が北支綿の改良、輸出奬勵を積極的に行つたゝめであり、油蠟類は主として米、獨への桐油輸出增大によるもの、同品及動物並に其の製品の輸出增加は軍需貿易の波に乘つてゐることを示すものである。

左に事變直前上半期の支那對外國別輸出入額を掲げることゝする。

一九三七年上半期對外國別輸入額

(單位千元)

國別	輸入額	總額中に占める割合	前年同期比較增減
米國	一二五、三八六 (十)	一九・〇〇 (十)	三三、四六一
日本	一二五、三六五 (十)	一九・〇〇 (十)	四五、一八九
獨逸	九〇、三八三 (十)	一四・九一 (十)	一二、一九一
英國	六八、八一一 (十)	一一・三三 (十)	一三、九七五
蘭領印度	四八、七六六 (十)	八・〇三 (十)	一九、〇三九
ベルギー	一七、八一一 (十)	二・九三 (十)	五、三三四
佛領印度支那	一五、五四五 (十)	二・五六 (十)	四、八一一
カナダ	一三、三六六 (十)	二・〇三 (十)	六、八七〇
濠洲	一一、〇〇九 (十)	一・八一 (十)	一、〇五七
英領印度	一〇、四六一 (十)	一・七三 (十)	七、五八六
シヤム	一〇、一九 (十)	一・六八 (十)	二、三五四
香港	九、七二〇 (十)	一・六〇 (十)	一、一三八
關東州	七、三三三 (十)	一・二一 (十)	一、六七六
佛蘭西	六、六三三 (十)	一・〇九 (十)	五、一〇〇
伊太利	六、三一一 (十)	一・〇四 (十)	九六〇
チエツコ	五、九三九 (十)	〇・九八 (十)	二、四〇五

一九三七年前半期對外國別輸出額

（單位千元）

國別	輸出額	總額中占める割合	比前年同期增減
英國	一三五、六〇一	三・三	五四、七三四
和蘭	六六、六六三	一三・九	一、八六〇
佛蘭西	六五、一三五	一三・〇七	二〇、四六〇
英國	四五、九三一	九・一〇	三、四四四
滿洲國	三六、一三六	七・四九	八、九三四
日本	一六、六一一	三・四一	一、四九四
香港	一〇、六六八	二・二〇	三、三四八
米國	一〇、一二四	二・一〇	三、三七一
其他共合計	九、四六四	一・九六	三六、三三五
總計	四六、〇一四	100・00	一四、六四四

支那の貿易は今次事變を通じて大きな歴史的な轉換を要請されてゐることは言ふまでもない。日貨排斥、廢米依存の風潮は國民政府と共に各地に興隆せしめられ、日滿支相互依存の眞正經濟圏を目指す貿易がこれに代つて登場すべく、その機能は既に、上海港に特に天津港對日滿貿易には最も敏感にあらはれて來てゐるが、そのことに就いては後述することゝして、こゝには事變によつて一度壊滅を來くられた全支貿易が事變下にあつて如何なる樣相を呈したかの概要を次の諸表によつて觀ふことゝする。

昭和十三年第一四半期全支主要港別總輸出入額（單位＝千港幣金單位千元）

＝支部作成＝

港名	輸入 昭和十三年一月至三月 金單位	元	百分數	輸入 昭和十三年一月至三月 金單位	元	百分數	輸出 昭和十三年一月至三月 金單位	元	百分數	輸出 昭和十三年一月至三月 金單位	元	百分數
天津	一三、六六六	二、六三三	二三・四	九、三六六	一、三三三	七・八	一四、四六三	五、四四四	二六・四	四、六六一	一、六三四	八・四
青島	四、六六六	一、八六六	八・一	三、四四四	一、四四四	六・四	一、一四四	四四四	二・一	一、一一一	四四四	一・一
上海	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一
廣東	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一
汕頭	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一
廈門	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一
福州	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一
寧波	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一
汕頭	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一	一、一一一	一、一一一	一・一
廣東

雷州	二三一	四九九	〇・二一	一・一〇五	四八九	〇・八一	三二七	一四三	〇・一四	二八五	〇・一〇	一・〇五	四八九	〇・八一	三二七	一四三	〇・一四	二八五	〇・一〇	一・〇五	四八九	〇・八一	三二七	一四三	〇・一四
拱北	三五一	七九一	〇・三四	四〇五	二・三四	一・一七一	五一九	〇・八七	八五八	五三一	〇・三五	九〇一	〇・三一	一・一九二	八五八	五三一	〇・三五	九〇一	〇・三一	一・一九二	八五八	五三一	〇・三五	九〇一	〇・三一
江門	三〇二	四五六	〇・一九	二九五	六七六	六一五	二七三	〇・四五	六九七	三〇四	〇・二五	六一五	二七三	〇・四五	六九七	三〇四	〇・二五	六一五	二七三	〇・四五	六九七	三〇四	〇・二五	六一五	二七三
其他六稅關	六一、七〇四	一三九、一八五	六〇〇・〇一	一八、〇九五	四一、四八五	一五・六六	六六、七五八	二九、五九六	四九、七一	四四、四七三	一九、四〇四	一八・五三	一五・六六	六六、七五八	二九、五九六	四九、七一	四四、四七三	一九、四〇四	一八・五三	一五・六六	六六、七五八	二九、五九六	四九、七一	四四、四七三	一九、四〇四
南支十八稅關小計	一〇一、七〇〇	二三一、八四〇	一〇〇・〇〇	二一八、五五五	二七一、八四六	一〇〇・〇〇	五九、五五〇	一〇〇・〇〇	二三九、九八一	一〇四、七一三	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	五九、五五〇	一〇〇・〇〇	二三九、九八一	一〇四、七一三	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	五九、五五〇	一〇〇・〇〇	二三九、九八一	一〇四、七一三	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	五九、五五〇
合計																									

昭和十三年第一四半期全支主要國別總輸出入額

（一海關金單位＝一三年一月二、二五三銀元二月二、二五五銀元、三月二、二五八銀元
一二年一月二、二八六銀元二月二、二九三銀元、三月二、二九七銀元）

（單位＝千海關金單位千元）

＝支研作成＝

輸入

	昭和十三年一月至三月			昭和十二年一月至三月			昭和十三年一月至三月			昭和十二年一月至三月		
	金單位	元	百分數	金單位	元	百分數	金單位	元	百分數	金單位	元	百分數
日本（朝鮮產品を含む）	八、三四六	一八、八三一	八・二三	三三、八二三	五三、三一九	一九・三五	一七、三三三	七六、八〇	一二・九〇	一六、八一一	一六・〇五	一・六〇
關東州	一、五四六	三、四八八	一・五〇	一、三四四	二、一四三	一・八九	二、一〇七	一、一〇七	一・八六	二、一三三	二・〇四	一・二〇
香港	二、三四一	五、二八〇	二・二八	二、一四三	五、一四一	五三、八七五	二、三八五五	四〇、一二	三四、〇七八	一四、八七〇	一四・二〇	〇・八六
澳門	一四二	三二一	〇・一四	七一	一六四	三三、三四四	一、四一九	二・四八	三、三三三	八三三	八・三三	〇・七七
英領印度（含緬甸）（海峡植民地）（新嘉坡）	一、四八五	三、三三五	一・四四	一、七五九	三、九七七	一・四七	一、三五七	二・六三	二、三三三	五、〇一六	三・〇九	二・五六
蘭領印度・暹羅	七二二	一、一九〇	〇・五六	一、七五二	四、〇一七	一・八八	一、九四八	三・二七	四、三九五	二、三二四	二・二二	一・一二
英領ボルネオ	五九	一三三	〇・〇六	二九六	六七七	〇・二五	三	一	三	一	一	一
佛領印度支那	五三四八	二、〇〇五五	五・二〇	二、四四二	二八、四四九	一〇・四六	九〇五	〇・七二	一、九四五	八四八	〇・八一	〇・五五
暹羅	二、一八六	四、九三五	一・二三	一、二八八	二、九五五	一・〇九	一、一七七	〇・八八	一、二七七	五五七	〇・五五	〇・五五
比律賓	五四一六	二、二二五	〇・二七	四〇七	一、〇〇七	〇・四〇	二、九六九	一、三一七	二、二一	一、〇五八	一・〇一	〇・九八
合計	二二三	四八〇	〇・二一	一〇〇	一、一〇〇	〇・四〇	七四八	三三三	〇・五六	二、三四七	一、〇二四	〇・九八

輸出

濠太剌利	一、二二七	二、七四六	一・一八	二、二六六	五、三三四	〇・四九	一、一七	四三三	〇・三二	一、九二	四三三	〇・三二	一、一七	五一四	〇・四九	一、九二	四三三	〇・三二	一、一七	五一四	〇・四九	一、九二	四三三	〇・三二	一、一七
米國	二〇、九五五	四七、二六七	二〇・三九	二三、八三七	五四、七六六	二〇・三七	一四、〇三〇	六、二三九	一〇・四六	一四、〇三〇	六、二三九	一〇・四六	二三、八三七	五四、七六六	二〇・三七	一四、〇三〇	六、二三九	一〇・四六	二三、八三七	五四、七六六	二〇・三七	一四、〇三〇	六、二三九	一〇・四六	二三、八三七
加奈陀	七七六	一、七四九	〇・七五	二、三二一	三、八六〇	〇・五七	一八七	四二七	〇・三三	一八七	四二七	〇・三三	二、三二一	三、八六〇	〇・五七	一八七	四二七	〇・三三	二、三二一	三、八六〇	〇・五七	一八七	四二七	〇・三三	二、三二一
英國	九、八六二	二二、三三一	九・八〇	二、九九九	五、一九六	二・〇五	二、七〇八	五、〇五二	二・二八	二、七〇八	五、〇五二	二・二八	九、九九九	二二、三三一	九・八〇	二、七〇八	五、〇五二	二・二八	九、九九九	二二、三三一	九・八〇	二、七〇八	五、〇五二	二・二八	九、九九九
佛國	五、一九六	二、七〇八	二・三五	一、三七二	二、三三一	一・〇五	一、三七二	二、三三一	一・〇五	一、三七二	二、三三一	一・〇五	一、三七二	二、三三一	一・〇五	一、三七二	二、三三一	一・〇五	一、三七二	二、三三一	一・〇五	一、三七二	二、三三一	一・〇五	一、三七二
獨逸	一八、一九八	四三、三三五	一八・一八	二六、七〇七	三八、三〇六	一・六七	二、七七八	六、一六三	二・七六	二、七七八	六、一六三	二・七六	一八、一九八	四三、三三五	一八・一八	二六、七〇七	三八、三〇六	一・六七	二、七七八	六、一六三	二・七六	二、七七八	六、一六三	二・七六	一八、一九八
白耳義	三、八三三	八、六二三	三・四七	三、一二七	七、一六八	〇・三二	一四三	二六八	〇・一四	一四三	二六八	〇・一四	三、一二七	七、一六八	〇・三二	一四三	二六八	〇・一四	三、一二七	七、一六八	〇・三二	一四三	二六八	〇・一四	三、一二七
和蘭	四四〇	九九三	〇・四三	六二五	一、〇四三	〇・二五	一、〇四三	二、一九九	〇・四三	六二五	一、〇四三	〇・二五	四四〇	九九三	〇・四三	六二五	一、〇四三	〇・二五	四四〇	九九三	〇・四三	六二五	一、〇四三	〇・二五	四四〇
諾威	三八三	八六五	〇・三七	四三一	一、〇〇一	〇・四四	四三一	一、〇〇一	〇・四四	四三一	一、〇〇一	〇・四四	三八三	八六五	〇・三七	四三一	一、〇〇一	〇・四四	三八三	八六五	〇・三七	四三一	一、〇〇一	〇・四四	三八三
伊太利	三三六八四	六、〇六九	三五・九〇	一、一九三	二、七五六	一・〇一	三四四	一、〇一	〇・六四	三四四	一、〇一	〇・六四	一、一九三	二、七五六	一・〇一	三四四	一、〇一	〇・六四	一、一九三	二、七五六	一・〇一	三四四	一、〇一	〇・六四	一、一九三
瑞西	六五六	一、〇四七九	〇・六四	七五六	一、七三四	〇・六四	一、六八〇〇	二、七〇七	〇・五九	一、六八〇〇	二、七〇七	〇・五九	七五六	一、七三四	〇・六四	一、六八〇〇	二、七〇七	〇・五九	七五六	一、七三四	〇・六四	一、六八〇〇	二、七〇七	〇・五九	七五六
埃太利	七三一	一、六四九	〇・七一	六九八	一、六八〇	〇・五九	六九一	一、六八〇	〇・五九	六九一	一、六八〇	〇・五九	七三一	一、六四九	〇・七一	六九八	一、六八〇	〇・五九	七三一	一、六四九	〇・七一	六九八	一、六八〇	〇・五九	七三一
瑞典	九一七	四〇六	〇・四〇	一二八	二九三	〇・二五	一二八	二九三	〇・二五	一二八	二九三	〇・二五	九一七	四〇六	〇・四〇	一二八	二九三	〇・二五	九一七	四〇六	〇・四〇	一二八	二九三	〇・二五	九一七
丁抹	二六	五八	〇・〇二	一三三	三、二四三	一・〇五	一三三	三、二四三	一・〇五	一三三	三、二四三	一・〇五	二六	五八	〇・〇二	一三三	三、二四三	一・〇五	二六	五八	〇・〇二	一三三	三、二四三	一・〇五	二六
埃及	一三三	二三八	〇・〇五	一、四三八	三、三四三	一・〇五	一三三	三、三四三	一・〇五	一三三	三、三四三	一・〇五	一三三	二三八	〇・〇五	一、四三八	三、三四三	一・〇五	一三三	二三八	〇・〇五	一、四三八	三、三四三	一・〇五	一三三
モロッコ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他諸國	二、八〇七	五、三三一	二・八〇	一、八〇二	二、八二五	一・八〇	一、一七二	二、六四六	一・一七	一、一七二	二、六四六	一・一七	二、八〇七	五、三三一	二・八〇	一、八〇二	二、八二五	一・八〇	一、一七二	二、六四六	一・一七	一、一七二	二、六四六	一・一七	二、八〇七
合計	一〇二、七七〇	二三二、八四〇	一〇〇・〇〇	二八、五五五	二七一、八四六	一〇〇・〇〇	一三四、二六八	五九、五五〇	一〇〇・〇〇	一三四、二六八	五九、五五〇	一〇〇・〇〇	一〇二、七七〇	二三二、八四〇	一〇〇・〇〇	二八、五五五	二七一、八四六	一〇〇・〇〇	一三四、二六八	五九、五五〇	一〇〇・〇〇	一三四、二六八	五九、五五〇	一〇〇・〇〇	一〇二、七七〇

昭和十二年五月全支主要港別總輸入額

（單位＝千海關金單位千元）

＝支研作成＝

輸入

	昭和十三年五月			昭和十二年五月			昭和十三年五月			昭和十二年五月		
	金單位	元	百分數	金單位	元	百分數	金單位	元	百分數	金單位	元	百分數
天津	二、八四〇	二六、八五九	二五・九九	三三、九三四	一二、九五五	一八・三四	八〇一八	三一・三四	一三・六八一	六〇三三	一七四六	一・七四

輸出

青島	廣東	福州	汕頭	廈門	寧波	蘇州	杭州	沙市	蕪湖	漢口	宜昌	沙市	重慶	萬縣	梧州	龍州	蒙自	騰越	思茅	總計
北支	六港小計	一〇〇·〇〇	三一·六四	四·〇四	二〇·六〇	一〇六·一〇	一·六四	二二·四六	一·六〇	四·〇四	二·〇六	一·四一	一·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	一〇一·二一
支他	十九港小計	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一
合計	南支十八稅關小計	一〇〇·〇〇	三一·六四	四·〇四	二〇·六〇	一〇六·一〇	一·六四	二二·四六	一·六〇	四·〇四	二·〇六	一·四一	一·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	一〇一·二一
	其他大稅關	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一
	江關	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一
	關北	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一
合計		一〇〇·〇〇	三一·六四	四·〇四	二〇·六〇	一〇六·一〇	一·六四	二二·四六	一·六〇	四·〇四	二·〇六	一·四一	一·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	〇·〇一	一〇一·二一

昭和十三年五月全支主要國別總輸出入額（單位＝千港幣金單位千元）

（一港幣金單位は昭和十三年五月一一·一二六〇銀元十二年五月一一·一一六八銀元）

＝支所作成＝

國別	輸入 昭和十三年五月 金單位	元	百分數	輸入 昭和十二年五月 金單位	元	百分數	輸出 昭和十三年五月 元	金單位	百分數	輸出 昭和十二年五月 元	金單位	百分數
英本國（含關東州）	七〇·〇一	一五·六六	三·二一	一〇六·六九	一四·三七	三·八一	一一·七一九	五六·六六	三·一〇	一〇·六九七	四·七一七	一五·六一
香港	一·一五六	二·五三一	五·四二	五·六六	八·五一	〇·七一	一·一四一	六·五一	二·四八	一·四九一	六·五一	二·五六
蘭印	九·九六	二·三五八	五·〇〇	六〇·八	一·一四一	一·六八	一八·五九九	八·二三六	三·三六	九·八六八	一·二四一	一一·六〇
印度（含緬甸）	一·三六九	三〇·六一一	四·一一	六·三九	一·〇三六	一·〇六	一·一四〇	四·八九	一·九三	一·二六二	五·六一	一·六一一
海峽植民地（含新嘉坡）	三·三一	二·四〇	〇·九七	五·三一	一·一六一	一·〇六	一·三五八	五·七七	二·一九	一·七三六	六·一	二·一〇
佛領印度支那	一·三一	一·三〇	〇·一一	二·九	一·三一	〇·一一	—	—	—	—	—	—
蘭領印度	一·三一一	三·三六	四·二七	二·八七	六·六九	六·三九	四·八一	一·一三	〇·八一	五·九八	一·六一	〇·七六
菲律賓	二·三一一	六·一七一	八·二〇	九·八八	一二·一四一	二·〇一	四·四〇	一·九五	〇·七七	四·四四	一·〇九	〇·六〇
英領馬來	一·一六九	二·六三一	三·五一	一·一〇一	二·三一一	二·四六	一·三四	一·四九	〇·七一	一·三一一	一·四一	〇·九六
暹羅	一·九八	一·四三一	〇·七九	一·三九	一·三一一	二·四六	一·九九一	一·八一一	〇·九一	一·四一一	一·〇一	〇·九一
蒙古	一·三一一	二·六一一	三·一一	一·一一一	二·一一一	二·一一	一·一一一	一·一一一	〇·一一一	一·一一一	一·一一一	〇·一一一
總計	一〇〇·〇〇	三一·六四	四·〇四	二〇·六〇	一〇六·一〇	一·六四	二二·四六	一·六〇	四·〇四	二·〇六	一·四一	一·〇一

米國	六、五二一	一四、七一五	一九・五五	八、六七一	一九、六六五	一七、六八	五、七六八	二、五五二	一〇〇四	二五、七五七	一二、三五七	三、八七	一・二八	〇・五八	〇・五四	〇・五二	〇・二九	一二、三五七	一〇・四	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・二二
加奈陀國	二、九一〇	六、五七七	八・七四	九、四四	二、〇二八	一・八二	四、九一三	三、三五	一〇八	九・三五	八・七四	九・二〇	一・〇二	〇・二七	〇・二七	〇・二七	〇・二七	〇・二七	〇・二七	〇・二七	〇・二七	〇・二七	〇・二七	〇・二七	〇・二七	〇・二七	〇・二七	〇・二七	〇・二七
英佛國	三、三四	七、三四	一・〇〇	五、六〇五	一、六六二	一、〇〇二	一、一二、八四	一、二五	二、二一四	二、〇六	二、三五七	一、〇三九	四、〇九	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八
獨逸國	三、一五九	七、一三九	九・四七	七、五八四	一七、二〇〇	三、三〇〇	四、二四一	一、八七七	八六	七、二八	九、二五二	四、〇四	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八
白耳義	三四二	七五三	一・〇三	一四五五	二六六	二九九	一九五	一五一	一〇四	一七六	四〇四	一七六	一、一九四	三一	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八	一、六八
和蘭	二六六	六〇〇	〇・八〇	四〇〇	四〇七	二七七	一五七	一〇七	一九	一〇三	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一
諾威	三三五	四八五	〇・五五	四〇七	九〇七	一四〇五	四四	一三四	六	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
伊太利	一二六	二六五	〇・五五	六一九	一、〇四〇	一、〇四一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一
瑞西	四六九	一、〇六〇	一・四一	三三八	一九	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
埃及	一〇四	三三四	〇・三一	三五〇	四九七	四八	二七七	一四〇	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
丁抹	二	二四	〇・〇三	四八	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四
瑞典	二四四	五五九	〇・七〇	四九七	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四
モロッコ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
及其他諸國	一〇四	一、〇七六	一・〇三	二、五九九	二、五八七	五五、八八七	五五、二九	一、一四三	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六	五五、六
合計	三三、二九九	七五、二三五	一〇〇〇	四九、〇六	二二、一九〇	一〇〇〇〇	五七、四三八	一〇〇〇〇	二五、四三	七八、三六六	三四、五三三	一〇〇〇〇	二、五五二	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

一九三八年上半期の全支對外貿易

＝新政府管下の増加＝

海關統計に據れば一九三八年上半期（自一月至六月）の全支對外貿易は、輸入四億四千四百七萬一千六百三十四元、輸出三億二千二百六十萬五千九百三十一元で、之を昨年同期に比すれば輸入に於て一億六千百九十四萬五千元、輸出に於て一億六千二十五萬三千元の減少を示現した。本年一月より六月迄の全支對外輸出入貿易額を月別に表示とする左の如くである。

（單位千元、輸出入共純貿易額）

	輸入 本年	輸入 昨年	輸入 一昨年	輸出 本年	輸出 昨年	輸出 一昨年
一月	五七、〇九〇	七七、〇七七	四三、〇九八	八二、二〇六		

二月	七二、三六九	八五、四一三	四〇、九一三	八五、一〇〇	七二、四三〇	七五、一〇〇	一〇八、七五五	五七、一〇〇	一〇〇〇〇	二五、七五七	一二、三五七	三、八七	一・二八	〇・五八	〇・五四	〇・五二	〇・二九	一二、三五七	一〇・四	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・二二
三月	九九、二六〇	一〇九、一三五	五〇、一五三	七五、七六一	七四、三八六	一四〇、八四〇	一四四、〇四七	一四、〇四一	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
四月	六七、〇一八	一一〇、九九一	五五、六三九	七八、三三七	四四四、〇七二	一〇〇〇〇	四九、〇六六	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
五月																													
六月																													
合計	四四四、〇七二	六〇六、〇一七	三三、六〇六	四八、八五九																									

又之を主要國別に統計すれば左の如くである。

（單位千元、輸出入共總貿易額、日本は朝鮮・臺灣を含む、その他は屬領を含まず）

一九三八年自一月至六月

	輸入 金額	輸入 百分率	輸出 金額	輸出 百分率
日本國	六四、一〇三	一四・三七	六〇、〇〇五	一八・六〇
英國	三九、八六一	八・九二	二三、二二八	七・一九
米國	八六、一八二	一九・二八	三一、六七七	九・八二
獨逸國	六四、七四八	一四・四九	三三、三九七	一〇・二五
其他諸國	一九一、八九三	四二・九四	一八四、五六二	五七・一五
總貿易額	四四四、〇七二	一〇〇・〇〇	三二三、九一九	一〇〇・〇〇
（純）	—	—	六〇六、〇一七	—

一九三八年上半期全支對外貿易（單位國幣千元）

＝滿鐵調査月報作成＝

年月	輸出入總額	輸出額	輸出再輸出額	輸入額	輸入再輸入額	純輸出額	純輸入額	出超入超
昭和十一年上半期	七九六、七〇二、八九七	三三三、五六八、九五六	一、六三七、六〇五	四六〇、六三七、四九九	八五七、四八七	三三二、七二一、四六九	四五九、〇〇〇、二四〇	— 二六、二八八、七七五
同　下半期	八五八、六四〇、二三八	三七三、二二一、九五九	一、三四〇、八七五	四八三、八八五、三六九	一九二、〇二五	三七三、〇二九、九三四	四八二、五四四、四九四	— 一〇九、五一四、五六〇
昭和十二年上半期	一、〇九二、五九五、七六八	四八三、〇一四、三六四	一、二一〇、五六、六六三	六〇七、二二〇、六六八	一、五五、一一三	四八二、八五九、二五一	六〇六、〇一四、九六五	— 一二三、一五五、七一四
同　下半期	七〇六、七六九、九五八	三五五、七五五、五五四	一、六四二、一三一	三四九、〇一三、一七三	三五九、一〇〇	三五五、五九六、四五四	三四七、三七一、〇四二	— 八、〇二五、四一二
昭和十三年上半期	七七二、九三三、三七五	三二三、九一九、三七九	二、八一四、四三九	—	—	—	—	—

昭和十三年	昭和十一年上半期 輸入	昭和十一年上半期 輸出	同 下半期 輸入	同 下半期 輸出	昭和十二年上半期 輸入	昭和十二年上半期 輸出	同 下半期 輸入	同 下半期 輸出	昭和十三年上半期 輸入	昭和十三年上半期 輸出	同 十三年一月 輸入	同 十三年一月 輸出	同 二月 輸入	同 二月 輸出	同 三月 輸入	同 三月 輸出	同 四月 輸入	同 四月 輸出
日本	三五〇三	三三三四七	八六四六	三六六九三	二七〇四	三四〇〇一〇	一八六九	一〇三三	—	—	一四三五七	一六七	六六四〇	一六六六	一〇三五一	一〇三五一	一六六六	一六六六
關東州	八六一四	三五七五七	一〇三四	一五九三	一〇七四〇	一五九三	一〇七四〇	一五九三	—	—	一六六	一五六	一〇三四	一〇三四	一〇七〇	一〇七〇	一〇七〇	一〇七〇
蘇聯邦	一六六九九	八五五七	一〇三五	一〇七四〇	一〇三四	一〇七四〇	一〇三四	一〇七四〇	—	—	一〇三五	一〇三五	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
香港	四七七八	八五六二	一〇七四	一〇七四〇	一〇七四	一〇七四〇	一〇七四	一〇七四〇	—	—	一〇七八	一〇七四〇	一〇七四	一〇七四〇	一〇七四	一〇七四〇	一〇七四	一〇七四〇
印度領	一八八九九	一〇七七七	九七七四	七三三四	一〇四六三	一〇四六三	一〇四六三	一〇四六三	—	—	一〇四三	一〇四〇	九三八	九七〇	一〇四三	一〇四三	一〇四三	一〇四三
蘇佛領支那印	三九元元	一〇七四四	一〇四六三	一〇四六三	一〇四六三	一〇四六三	一〇四六三	一〇四六三	—	—	九一	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
印度領	一九三三	元九七七	三〇四	三〇四	三〇四	三〇四	三〇四	三〇四	—	—	三〇四	三〇四	三〇四	三〇四	三〇四	三〇四	三〇四	三〇四
暹羅	一九九〇	一一五三三	一〇六一	一〇六一	一〇六一	一〇六一	一〇六一	一〇六一	—	—	一四七	一四七	一四六	一四六	一四七	一四七	一四七	一四七
民海峽植地	四七三六〇	四六六六	三四六三	三四六三	三四六三	三四六三	三四六三	三四六三	—	—	一一五五	一一五九	一一四三	一一四三	一一五八	一一五八	一一四三	一一四三
英吉利	三七三一	三四六六	三五六六一	三五六六一	三五六六一	三五六六一	三五六六一	三五六六一	—	—	四〇四〇	四〇〇〇	三六六九	三六六九	三六六九	三六六九	三六六九	三六六九

昭和十三年

一九三八年上半期全支主要國別貿易（單位國幣千元）

＝滿鐵調査月報作成＝

昭和十一年上半期 輸入	昭和十一年上半期 輸出	同 下半期 輸入	同 下半期 輸出	昭和十二年上半期 輸入	昭和十二年上半期 輸出	同 下半期 輸入	同 下半期 輸出	昭和十三年上半期 輸入	昭和十三年上半期 輸出	昭和十三年一月 輸入	昭和十三年一月 輸出	同 二月 輸入	同 二月 輸出	同 三月 輸入	同 三月 輸出	同 四月 輸入	同 四月 輸出	同 五月 輸入	同 五月 輸出	同 六月 輸入	同 六月 輸出
一〇三七	一〇三五	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四

昭和十三年

昭和十一年上半期 輸入	昭和十一年上半期 輸出	同 下半期 輸入	同 下半期 輸出	昭和十二年上半期 輸入	昭和十二年上半期 輸出	同 下半期 輸入	同 下半期 輸出	昭和十三年上半期 輸入	昭和十三年上半期 輸出	昭和十三年一月 輸入	昭和十三年一月 輸出	同 二月 輸入	同 二月 輸出	同 三月 輸入	同 三月 輸出	同 四月 輸入	同 四月 輸出	同 五月 輸入	同 五月 輸出	同 六月 輸入	同 六月 輸出
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四
一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	—	—	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四	一〇三四

七月中全支貿易

＝八月二十五日總稅務司署發表＝

全支七月中の貿易概況は左の如くである。(括弧内は前月および前年同期との比較)

純輸入　六七、〇七四千元　(六%減)　(四五%減)
純輸出　七七、二六三千元　(三%增)　(一二%減)
出超　一〇、一八九千元

これを主要品別に見ると前月に比し著しく增加したものは輸入における綿布類、毛織類、人絹、機械工具、金屬製品、石炭、木材、化學藥品等、輸出における桐油、茶、葉煙草、石炭、アンチモニー、錫、雜品等であり、反對に減少の著しいものは輸入における棉花、麻類、米、麥粉、雜穀、藥劑、香料、石油等で輸出においては皮類、棉花等である。今之を國民政府と新政權統治下の兩地域に二大別すれば次の通りで、國民政府統治下の地域においては輸出增、輸入減、新政權統治下の地域においては輸出減、輸入增の傾向が注目されるが貿易總額は後者が前者の二倍半に達してゐる。(單位千元)

國民政府統治下

六月總輸入　二〇、四八九
同總輸出　二四、九四一
七月輸入　一二、五三三
同輸出　二八、〇一六

新政權統治下

六月總輸入　五一、六六二
同總輸出　四九、四九五
七月輸入　五五、二〇二
同輸出　四八、三〇〇

一九三八年七月全支主要國別輸出入額

(括弧内は前年同月との比較增減率)

輸入

日本	一九、七一〇	(九分減)
英國	五、八四九	(三割八分減)
米國	一〇、七六六	(五割三分減)
獨逸	八、〇八九	(六割減)
香港	一、五九三	(一割七分減)
關東州	五、一二五	(三十二割四分增)

輸出

日本	一四、四六五	(七割一分增)
英國	五、五七一	(六割一分減)
米國	七、二一〇	(七割二分減)
獨逸	六、三八〇	(一割五分減)
香港	二四、六六六	(十三割一分增)
關東州	三、七〇三	(十九割四分割)

主要港別輸出入額

(括弧内は前年同月との比較增減率)

輸入

天津	三三、二五九	(七割六分增)
青島	三、六八四	(二割九分減)
上海	二四、七〇〇	(六割八分減)
其他北支港	四、五七七	
合計	五五、一〇一	(四割五分減)
漢口	三〇七	(九割二分減)
九龍	四、七六九	(三割六分增)
廣東	三、七五二	(五割一分增)
汕頭	一、二三六	(七割九分減)
其他中南支港	二四四八	
合計	二三、五三三	(四割一分減)

輸出

天津	一八、七九八	(四割七分增)
青島	四、八三一	(三割五分增)
上海	二〇、一〇二	(六割二分減)
其他北支港	四、五六八	
合計	四八、三〇四	(三割三分減)
漢口	四	(九割九分減)
九龍	六、五二九	
廣東	九、六三八	(十一割六分增)
汕頭	三、四五三	(十一割增)
其他中南支港	九、三九九	
合計	二九、〇二四	(七割一分增)

金銀の移動

金輸入	一〇九千金單位
金輸出	なし
銀輸入	なし
銀輸出	一五、九九〇千元(一一、〇七八千元增、中廣東よりの輸出八、八三六千元)

なほ一月から七月末までの銀輸出は本年七千三百七十二萬元、昨年同期五千四百九十七萬四千元、そのうち本年廣東からの輸出は四千四百六十一萬九千元、昨年上海からの輸出は四千九十五萬八千元である。

外國航路船舶の出入

七月中の外國航路船舶出入は六、三八七隻、二四、五四八千噸にして前月に比し隻數は五七隻を增加せるも噸數に於ては一〇三千噸の減少であつた。

八月中全支貿易（單位千元）

＝總稅務處發表＝

純輸入	七七、一一〇
純輸出	八〇、二〇四
國府統治下	
總輸入	一八、二八五
總輸出	三二、三五二
新政府統治下	
總輸入	五九、八一七
總輸出	四七、九一三
對日本	
總輸入	二三、八二五
總輸出	一〇、〇四一

全支貿易に對する北支貿易の地位

全支貿易に對する從來の北支貿易の地位を左の表によつて見れば、總額においては二〇%を占めてゐる程度である。輸出入別に見れば一五%前後の輸入に對し、輸出においては二七%に上昇して居り、この輸入よりも輸出のパーセンテイジーの高いことは、本年一月關稅改正と共に消滅した冀東特殊貿易が作用してゐたことは勿論であるが、又一面資材地北支の特質をも示してゐるのである。

全支貿易額中の北支貿易額と百分比

類別及年別	全支 百萬元	北支 百萬元	百分比 %
總額			
一九三二年	二、一二一	四二八	二〇・二七
一九三三年	一、九七一	三五七	一八・一二
一九三四年	一、五七五	二九八	一八・九〇
一九三五年	一、五〇一	三一〇	二〇・六四
一九三六年	一、六五一	三三二	二〇・一二
一九三二年	五六九	一六三	二八・六九
一九三三年	六一二	一五二	二四・八七
一九三四年	五三六	一三六	二五・三四
一九三五年	五七六	一六〇	二七・七〇
一九三六年	七〇七	一九一	二七・〇四
輸入			
一九三二年	一、五四二	二六四	一七・一六
一九三三年	一、三五九	二〇五	一五・〇六
一九三四年	一、〇三九	一六二	一五・五七
一九三五年	九二五	一五〇	一六・二四
一九三六年	九四五	一四一	一四・九二

次に全支對北支貿易に對する事變の影響を知るために左に全支主要港別本年度並に前年度各上半期の輸出入額表を掲げる。

事變下全支主要港別輸出入額變遷表（單位千元）

	一九三八年上半期 輸入（金額）	輸入（百分率）	輸出（金額）	輸出（百分率）	總額（金額）	總額（百分率）	一九三七年上半期 輸入（金額）	輸入（百分率）	輸出（金額）	輸出（百分率）	總額（金額）	總額（百分率）
上海	一〇六、六五七	二三・八七	七三、〇四九	三三・六二	一七九、七〇五	二三・二五	二三六、八二〇	五六・九二	五一・五七	六二、九〇九	五五・七五	
天津	九五、九八九	二一・四八	八二、〇六一	二五・四一	一七八、〇五〇	二三・四五	五六、三八四	九・二九	八五、二七八	一七六、六六二	一三・四八	
青島	七、三三八	一・六四	八、二七七	二・五六	一五、六一五	二・一〇	三一、八〇〇	五・二四	四二、七五二	八、八五	七四、五五二	七・〇五
漢口	一、七五九	〇・三九	二七三	〇・〇九	二、〇三二	〇・二四	二〇、七〇九	三・四一	四、二七八	〇・九九	二四、三八六	二・一五
廣東	三七、九九一	八・五〇	六〇、三〇三	一八・六七	九八、二九四	一三・五九	一八、四八二	三・〇四	二六、九〇四	五・五七	四五、三八六	四・三一
九龍	一三三、二六一	二七・三六	一三、二三九	四・一〇	一三五、五〇〇	一五・七三	三三、四四〇	五・三四	三、五六〇	〇・七四	三六、〇〇〇	三・〇四
汕頭	二六、六二八	五・九六	一五、七九二	四・八九	四二、四二〇	五・四三	一九、三〇一	三・一八	一四、四一二	二・九八	三三、七一三	三・〇八

右の表によれば北支二港の中青島は漢口に次いで輸出入共半ば壞滅に瀕し事變渦中にあつたことを示してゐる。それに反し夙に治安を回復した天津港は輸入においては九・二九%から一躍二一・四八%と事變前の額を遙かに凌駕し、輸出においては昨年上半期の八五、二七八千元より幾分減少し八二、〇六一千元となつてゐる。

又事變下における全支對北支貿易樣相を見る地方別輸出入額は左の如くであるが、一應事變の渦中の外に置かれてゐた南支を除いては北支貿易の回復は極立つてをり中支との地位は顚倒するに至つた。勿論治安の恢復に從つて上海港は從前の重要地位を取り返し漢口陷落の曉には中支方面一擧の活況は言ふまでもないところであるが事變は北支貿易の地位上昇のために決定的な役割をもつたことも否めない。

事變下支那對外貿易額（單位千圓）

輸入

年月別	總額	北支	中支 日本軍占領地諸港	中支 其他	南支
一九三七年 一—三月	二七二、八四六	三九、三〇四	一七四、七二〇	一六、三三七	四二、四八五
同 四—六月	三三五、三七五	五五、一〇一	二〇八、六三一	一三、四六〇	五八、一八三
同 七—九月	二四四、四六七	三三、三三八	一三二、四八七	一五、二〇〇	四五、五四二
同 一〇—一二月	一三四、五四六	一九、一四七	三四、二四〇	七、八六九	七三、二九〇
一九三八年 一—三月	二三二、八四〇	三五、八七二	五二、八〇五	三、九七八	一三九、一八五
同 四—六月	二二五、〇四六	八五、〇二二	五三、八五一	一、九〇九	七四、二七四
同 七月	六七、七三五	三〇、三四〇	二四、七〇〇	七〇四	四二、九九一
（前年七月）	（二四、三六六）	（一九、七四七）	（八〇、八六九）	（六、三五八）	（一七、三九一）
輸出					
一九三七年 一—三月	二三九、九八一	六八、六五五	二二六、一七〇	六八三	四四、四七三
同 四—六月	二四三、〇四三	七三、四八〇	二二四、五六〇	三、八一七	四二、二七六
同 七—九月	二〇二、二六二	三九、八〇九	一〇五、五四九	四、六四六	五一、二五八
同 一〇—一二月	一五四、四九四	三三、七九七	五〇、九五八	六四二	六九、〇九七
一九三八年 一—三月	一三四、二六八	三三、二〇九	三三、六九八	六〇三	六六、七五八
同 四—六月	一八八、六五一	七六、〇八六	三九、三五一	三四八	七三、八六六
同 七月	七七、三一六	二八、一六七	二〇、一〇三	一三七	二八、九〇九
（前年七月）	（八八、八二三）	（一八、三一八）	（五三、五九五）	（三、八八七）	（一三、〇二二）

（註）北支諸港は凡て日本軍占領地帶

事變と北支貿易

概　說

事變下における北支貿易の面貌は事變前に比し甚しく異なるものとなつた。

支那は一九二五年日本の好意的な援助により關稅自主權を獲得し、一九三〇年日支關稅協定が成立したが、滿洲事變後の一九三三年該協定滿期となるや、高率の排日關稅を實施した。その後一九三五年にも報復的な稅率引上が行はれたが、これらの關稅政策は北支における冀東特殊貿易の端となり、蓋いては今事變の誘因ともなつた。

事變はかゝる日支協力に俟つ東亞經濟建設を阻害する排日關稅政策を變改したことは言ふまでもない。日支依存の旗幟を高らかに掲げて事變下に成立した新政權は、本年一月二十二日に第一回關稅改正を斷行し、六月一日には中北支に一率に適用する第二回の改正關稅が實施されるに至つた。その詳細は關稅の項において述ぶることゝするが、一月の改正によつて一九三六年以來つゞけられて來た冀東特殊貿易は解消され、第二回の改正は國民政府の排日關稅を一九三一年の親日關稅にまで引き戻してしまつた。一方臨時政府は三月十日中國聯合準備銀行を創設新幣制を施行、六月十日には南方券の北支流通を禁止し八月八日には中國、交通兩北方券一割切下げを斷行して國民政府と相通ずる法幣とのリンク切斷を强化、更に年内に中國聯銀の外國爲替基金の設定を實現し、國幣の貿易通貨たる機能を擴充すると共に、第三國に於ける輸出入爲替リンク制による貿易統制の全面的强化に努むることゝなつてゐる。

事變前における北支貿易は對外貿易と言ふよりも中南支依存の貿易であつた。事變は併しこの中南支依存の北支貿易に代らしむるに日滿、北支、圓ブロック内貿易の道を執らしめた、その全貌は事變收拾の非常時局貿易の影濃くして未だ十分に顯はれてはゐないが、北支民衆生活の中南支依存が、日本依存に傾いた現在の方向は今後益々强化されて行くべく、豐富なる北支資材の日本への供給、日本商品の消化となつて、日支依存の濃度は愈々强められることゝならう。

北支六港輸出入額の推移

本年上半期（五月迄）の北支六港貿易の大要は左の如く

である。

貿易高總計

本年	一五六、七〇三、〇〇〇元
前年同期	一九六、五二二、〇〇〇元
（減）	三九、八一九、〇〇〇元

これを輸出入別に見れば左の如し。

輸入	八八、五〇三、〇〇〇元
（增）	一一、二五四、〇〇〇元
輸出	六八、二〇〇、〇〇〇元
（減）	五一、〇七〇、〇〇〇元

即ち輸出においては四割二分以上を減じたことになりそのために前年同期に四千二百二萬四千元の出超であつたものが逆に本年は二千三十萬三千元の入超に一轉した、月別輸出入の趨勢は次表の如くである。

一九三八年前期北支貿易額（單位千元）

輸入

月別	金額	前年同期
一月	五、五九八	二七、三〇五
二月	一一、〇四七	一二、五五六
三月	一九、二二五	一四、四九〇
四月	二〇、九八九	一七、三三四
五月	三一、六四四	二〇、六一〇
合計	八八、五〇三	七七、二四九

輸出

月別	金額	前年同期
一月	九、五七九	二七、三〇五
二月	五、四二六	一九、九六九
三月	一一、三九六	二一、三七九
四月	二〇、三一八	二七、三二三
五月	二一、四八一	二三、二九四
合計	六八、二〇〇	一一九、二七三

右二表によれば輸入は二月以來漸次增大し四月には二千萬元に達したが五月にはさらに三千百六十四萬元に飛躍してゐるが右增加の主要原因は麥粉の輸入激增と綿布類の輸入增加とによるものである。

一方輸出は二月に五百萬元臺に低下したが三月以降再び盛返し漸次增大してはゐるものゝ各月いづれも前年の輸出高には及んでゐない。右は米棉安によつて棉花の對日輸出が伸張しえなかつたことゝ石炭、鹽等の物資輸出が十分に恢復の度を高めえなかつたことによるのに外らぬ。これを要するに上半期北支輸出貿易は、輸出は例月恢復の度著しきものありとは言ひながら未だ前年のそれに及ばず、輸入のみめざましい增加を示して事變下貿易

の跛行性を描いたものであるがこれを北支六港別貿易高の比較に見れば次表の如くで青島の復舊遲々たるに反し天津のみは各月共に獨占的推移を示してゐる。

一九三八年前期北支六港別貿易額（單位千元）

輸入

港別	一月	二月	三月	四月	五月	累計	百分比	前年同期	百分比
天津	四、五三八	八、四四八	一六、三三七	一六、三三七	二六、八五九	七二、七一九	八二・一六	四五、五一九	五七・六三
青島	一五	四七二	四四一	一、一二四	一、八〇四	三、九九〇	四・五一	二六、三六二	三・二一
芝罘	五〇六	三四二	九七八	二、三三二	一、四四五	五、四九三	六・二一	二、八〇三	三・六六
秦皇島	三四〇	一、六八七	一、四四三	一、〇七七	一、三五五	五、九〇二	六・六七	一、三七九	一・七八
龍口	—	—	—	七	二	一九	〇・〇二	八二	一・〇六
威海衛	五五	九八	二六	三二	一六九	三八〇	〇・四三	三六三	〇・四六
合計	五、五九八	一一、〇四七	一九、二二五	二〇、九八九	三二、六四四	八八、五〇三	一〇〇・〇〇	七七、二四九	一〇〇・〇〇

輸出

港別	一月	二月	三月	四月	五月	累計	百分比	前年同期	百分比
天津	六、二六六	四、二三三	八、八〇五	一六、六六七	一八、二二	五四、一二三	九九・三六	七二、三六三	五九・八三
青島	—	一九六	九二	一、一二四	四六四	二、一八二	三・二〇	三六、二五五	三〇・四九
芝罘	一、五四二	三九六	七六四	一、〇七七	一、八八一	五、六六〇	八・三〇	四、三三三	三・六二
秦皇島	一、四四五	五五〇	一、四四〇	八九九	七八八	五、二二三	七・六六	四、二四一	三・五五
龍口	四	一	一七	二四四	一七五	三二	〇・四七	一、四七五	一・二三
威海衛	三二	五〇	一七八	一〇一	五三	六九三	一・〇一	一、六三五	一・二七
合計	九、五七九	五、四二六	一一、三九六	二〇、三一八	二一、四八一	六八、二〇〇	一〇〇・〇〇	一一九、二七三	一〇〇・〇〇

即ち天津は輸入において八二%、輸出において七九%を占め前年同期輸出入共に六〇%に満たなかつたのに較べれば著しい躍進であつて北支六港貿易の大部分は天津港によつて獨占されてゐると言ふも過言ではない。これに反し青島港の衰退はその創痍未だ生々しきものありとは云へ前年において三〇%餘を占めてゐたものが本年僅か輸入において四%五一、輸出において三%二〇を占むるに過ぎぬ。龍口は從來ともに問題となりえぬ貿易港であつたが本年の成績は青島と同樣で一層比重を低めてゐる。青島、龍口の衰微に比し芝罘、秦皇島の進出には注目すべきものあり、右は從來青島港から輸出入されてゐたものゝ一部を肩替りしたものと見るべく秦皇島は冀東貿易解消の結果として輸出入ともに顯著な增加を示してゐる。青島將來の復舊は論の餘地なきところであるが今後秦皇島の進出は石炭、鹽等の重要物資積出港として輸出方面に相當の地位を占むることは論の餘地ないところであり輸入も冀東方面の開發と共に重要性を增すであらう。

ともあれ本年前期五月迄乃至上半期の貿易を知るためにはその總額の過半數を占むる天津港の輸出入狀態中心にこれを見るの外なく以下同港の貿易に就き統計並記述を進めることにする。

天津港輸出入額の推移

(第一表) 天津貿易額累年比較

(單位百萬元)

	總計	輸出	輸入	入出超
一九三一年	三〇九・三	一三九・〇	一七〇・三	(一)三一・三
一九三三年	二〇九・三	八八・五	一二〇・八	(一)三二・三
一九三四年	一七七・七	八一・〇	九六・七	(一)一五・七
一九三五年	一八四・四	九一・二	九三・二	(一)二・〇
一九三六年	二六五・四	一二七・八	一四七・六	(一)二九・八
一九三七年	二五二・九	一二八・九	一二四・〇	(十)四・九

(註) 冀東密輸入推定額は、一九三五年八百萬元、一九三六年七千五百萬元、一九三七年四千萬元として正常輸入額に加算せり。

右表によれば昨年度は約五百萬元の出超であるがこのうちには日本からの軍需品並に軍需扱ひ特定品の輸入は全然計算されてゐない。次の第二表によつて見るに輸出では依然米國が首位にあるが一九三六年下期以來獨逸の躍進はめざましく昨年度も引續き英國を凌ぎ第三位にある。輸入に關しては日本の地位は牢乎たるものであるが獨逸の進出振りも著しいものがある。

(第二表) 天津港に於ける列强の地位と貿易收支尻 (單位 百萬元)

(括弧內數字は順位を示す。)

	日本			英國			米國			獨逸		
	輸出	輸入	入出超	輸出	輸入	入出超	輸出	輸入	入出超	輸出	輸入	入出超
一九三一年	三三・八(1)	二三〇・〇(1)	(一)一九六・二(3)	一三九・九(3)	一三八・八(4)	(十)〇・一(4)	四三・二(2)	二九・二(2)	(十)一四・〇(4)	一四六・六(4)	一三・四(3)	(一)八・八(1)
一九三三年	三五・八(1)	二一・五(1)	(一)一四・五(1)	一〇六・三(3)	八・一(3)	(十)二・四(3)	三五・八(1)	二一・九(2)	(十)一二・九(4)	三八・八(4)	七・二(4)	(一)三・四(3)
一九三四年	三三・七(1)	一四・五(1)	(一)一九・二(2)	九・一(3)	九・三(3)	(一)〇・二(3)	三一・一(1)	一六・三(2)	(十)一四・八(4)	四四・四(4)	九・一(4)	(十)四・七(4)
一九三五年	三五・五(1)	一三・〇(1)	(一)二二・五(2)	九・四(3)	九・四(4)	—	三六・三(1)	二二・〇(2)	(十)二四・三(3)	八・〇(4)	一〇・六(3)	(一)二・六(3)
一九三六年	三二・二(2)	二七・八(1)	(十)四・三(1)	一〇・三(4)	六・四(4)	(十)三・七(1)	四四・二(1)	八・八(3)	(十)三五・四(1)	一〇・九(3)	二・四(2)	(一)〇・五(2)
一九三七年	二六・六(2)	三一・〇(1)	(一)二・四(4)	一〇・〇(4)	八・〇(4)	(十)二・〇(2)	三七・五(1)	九・八(3)	(十)四七・七(3)	一六・六(3)	一五・四(2)	(十)一・二(4)

右の通り輸出部面においては、一九三一年を除いて米國が第一位を占め一九三五、六年と日本がこれに迫りつつあつたが昨年度は爲替管理による輸入制限を强行した爲め一九三六年に比し約三百萬元の減少を示し、對米輸出額五千七百五十萬元に對比すればほゞ二分の一に過ぎない。一方獨逸輸出は一九三五年來逐年增加の一途を辿り昨年度は約一千六百六十萬元と同國の最高記錄に達し英國を遙かに引き離し日本の地位に迫りつゝある。輸入部面においては、依然日本が王座を占めてゐるが英米の輸入は累年減少傾向にある。昨年度は一九三六年に比較して兩者とも多少回復してはゐるがその程度は微々たるものである。

(第三表) 列强の輸出入額比率 (單位%)

	輸出			輸入		
	三五年	三六年	三七年	三五年	三六年	三七年
日本	二三・〇五	二六・三〇	三二・一〇	四一・七〇	三八・三五	三六・九六
英國	一〇・三五	八・八一	七・七五	一一・〇八	八・八三	九・三七
米國	三九・八八	三七・三九	四四・六〇	一四・二〇	一三・二三	一二・七一
獨逸	八・七九	九・三三	一二・八七	一三・二一	一五・七九	一八・三六
共他計	100・00	100・00	100・00	100・00	100・00	100・00

（第四表）一九三七年國別輸出入（單位元）

國目	輸出 上期	輸出 下期	輸入 上期	輸入 下期
米國	一〇、九九〇、三三一	七、八〇三、三一一	二一、五〇四、六七	九、四六三、九七
日本	一一、六三六、四〇四	六、三四四、〇六一	三、三五六、六〇〇	
英國	三九、三三〇、三四	六、〇四四、三七	五、一四四、四四	二九、〇四四、四三
香港	二七、一一六、六六	二、三〇、七六、〇	一、三三、六五	一〇、六四五
和蘭	六四二、七三七	一〇、一五七、一八五	九、六六七、七五五	五、六四四、三五五
爪哇	八四、六六一	三、六八、六五五	一六、六一四、八	三、三五五、九一
其他	五、六〇、〇九二	三、七〇、〇九二	一一、九四一、四九	五、六七、七一四
合計	八五、三七、六三七	四四、五六四、六九	五六、一六、六三	二、七、六六、九四六

（註）日本輸出入額は臺灣、朝鮮、大滿を含む。

（第五表）競爭甚しき輸出原料品（單位千元）

	日本 一九三六年	日本 一九三五年	英國 一九三六年	英國 一九三五年	米國 一九三六年	米國 一九三五年	獨逸 一九三六年	獨逸 一九三五年
羊毛	一、六〇六、八	八四一〇	八、八	六四	五、〇〇九	一、六八	一、一七〇	二、八九七
豚毛	一、六三三	四三	三、九九	一、六	九、三四六	一一、〇四四	六一	一、〇三五
皮毛	九五〇	四四三	九、〇六	三、七	一一、六七一	七、九三七	一五三	一一、七
花	一一	一〇	六、一九三	六〇〇	七四七	三四一六	二〇四	二、九三一
計	三、三七三	二、三五七	一〇、三六〇	九四六六	四、二六五	五六、五五五	一〇、八六〇	八〇一二
	三六、七三%		一〇·〇〇%		二一·七四%		三七·〇五%	

競爭甚しき主要輸入品（單位千金單位）

	日本 一九三六年	日本 一九三五年	英國 一九三六年	英國 一九三五年	米國 一九三六年	米國 一九三五年	獨逸 一九三六年	獨逸 一九三五年
鐵人絲	二、六五五	二、四四〇	六、七七	一四四	七	一一	一	二
及絹	四、六七	一、六九	六、二九	一	一三	一	一三	一
鋼絲布	六七	一〇、一〇一	八	一、一六	四	六四	三	五七五
增其他類	一、五五	三一一	五九五	一	四五〇	一	一、〇七六	三九三
石類	六〇	二、七八	三六一	二九	二九一	三四〇	一、四一七	一
詰及合計	八、五六	一、三〇五	六、四〇五	九四六	八、七五	一一、〇九三	一一、四六七	一〇、六五九
紙機械器	一〇、八九九	四、三五九						
紙類計	(イ) 一三六·三二%		(ロ) 一三·一二%		(ロ) 一六六三%		(イ) 七五六%	

（註）日本輸入合計額の中には臺灣特殊輸入額を含む。

事變前後天津港對外貿易總額

＝天津海關發表＝

月	輸入 一九三七年	輸入 一九三六年	輸出 一九三七年	輸出 一九三六年
一月	三、三五一	一、九三〇	一八、三一七	一一、七一七
二月	二、二四〇	一、〇七五	九、三六七	六、〇〇六
三月	三、八〇七	二、二六一	一一、七九九	五、一六八
四月	四、九三四	四、四六〇	一八、三一八	一三、七九九
五月	五、七二一	二、四九三	一三、六八一	八、七二六
六月	四、七九一	二、二三三	一三、四七一	七、九九一
上半期累計	二四、七三四	一四、四六一	八五、二一七	五四、一八九
七月	五五、九五五	二、二四八	一二、七四六	一〇、四〇八
八月	三〇五	二、一六五	一、七四五	七、七三一
九月	二、〇九一	三、三一九	七、七一〇	八、八八一
十月	一、〇九七	三、一六八	七、六五七	九、六六六
十一月	一、〇五三	三、九四七	五、六二一	八、三四四
十二月	一〇、四〇	一四、九四七	五、一六〇	四、九五一
總計	三四、八四四	二、九四〇八	一一〇、四三七	九、九一四〇

（註）單位は輸入千海關金單位、輸出は千關兩。

（一）一九三八年前期天津港國別輸入額

英米關國	東	東	東	東	東	東	東	東
國別	日本	米國	英國	獨逸	蘭領印度	其他	合計	百分比
一月	一、八七七	一一六	一、一六七	三〇	四七七	三四一	三、五五三	三四·六三
二月	五五六	一〇一	八二一	一三一	六七〇	一三五	二、三四七	二三·〇五
三月	九〇三	三六三	一、八八	一三三	一、八九六	一三三	五、三四〇	五二·一四
四月	九〇九	五九〇	一、七一七	四七三	一、八九六	六七〇	五、七七七	五六·〇七
五月	四、四八	九九三	一、八六一	六七〇	一、八九六	一、一六一	一〇、一八	一〇·一八
累計	三、八三	二、一八三	七四〇三	一、八九六	三六一	四、三七七	三六、六三	三六·六三
百分比	三四·六六	三·〇〇	一〇·一八	三六一	四、三七七	九·四四		
前年同期	一五八五三	六〇六	五二九七	九、四四	一、一六一	一一、六四一		
百分比	三四·八三	一·三四	一一·六四	九·四八				

合其	白佛和蘭英香	二五	五六	三五	四五	五〇	一、一四〇	一、三五
耳蘭								
計	他義西蘭遮印港	四、五七〇	三、九五七	六、六三五	八、八九	一、〇九三	一、六二三	一、八一五
		一六	一	一五	三三	八一	一五五	一四三
		六	一四	五〇	四三	五一	一六三	一六〇
		七五九	七	六〇	一一〇	一一四	五〇	四五七
		一、三五四	一、六五四	三、〇六五	三、五九六	六、四九七	一四、〇四五	九、六六一
		四、五五八	八、四四八	一六、五七七	一六、五五六	一六、八九五	七、三七八	四、五五九

(二) 一九三八年前期天津港國別輸出額

合其	白佛和蘭英香英米關日國	一月	二月	三月	四月	五月	累計	百分比	前年同期	百分比
耳蘭	寅	三六七五	六〇〇二	五〇五一	一一、〇九〇	二、一一六	三五、一四四	六三、五四	一六、六五七	三五、三四
計	他義西蘭遮印港國國州本別	三六九	五四五	三六	五七八	四四八	一、七六六	二、九七	六五八	〇、九〇
		一、三〇四	一、五四一	一、二〇七	一、七九八	一、七〇五	七、五五五	一二、七一	三、四四九	五、五五
		二五四	二六二	五九〇	五六六	一、五四五	三、〇二七	五、〇九	二、六一八	三、九五
		四四二	五四五	二五七	五三四	三二二	一、六九〇	三、一八	二、一五一	三、〇一
		一四	二	二	七	二	一七	〇、〇一	一七	〇、〇二
		六五一	六九四	一、一〇九	一、五六二	一、三六五	五四一九	九、一二	四六四二	六、五一
		二七	三七	一〇二	一六一	一四四	四七一	〇、七九	六六五	〇、九五
		四四六	四八	四四	一二六	一五九	四一三	〇、七〇	七四四	一、〇八
		一五四	一一	三五	四六	三二	一四八	〇、二五	六二五	〇、六七
		二六五	三六八	一六二	四一九	四三五	一五五七	二、六二	二六九五	四、〇四
		六二七九	九五四五	八六〇五	一六六六七	一八一二二	五九四七	100·00	七一五六	100·00

一九三八年上半期天津港國別輸出入額

輸出（港關金單位）

關朝日香調米英	合其	關朝日香調米英	輸	計	他	州鮮本港遮國國別	本年上半期	昨年上半期
東	東	州鮮本港遮國國別	入	輸	入			
						東	三六、四六二·00	三九、三四〇·00
						州鮮本港遮國國別	一一、一四七、六三·00	四、八四八、一八·00
						東	六、三七、〇〇·00	六、四二、二三七·00
						州鮮本港遮國國別	二、三三四、七三·00	二、七一一、六六〇·00
						東	二、三三四、七三·00	一、九〇、三六三·00
						州鮮本港遮國國別	四、七六、六一九·00	九、三二、三〇·00
						東	四、〇九、〇六·00	三、六二、四六·00
						州鮮本港遮國國別	四、三〇、六四一·九·00	六、六、七四三·00
						東	八、〇〇、〇三·七·00	八、三二、三七·00
						州鮮本港遮國國別	一、三三、六七·九·00	二、三三、三三·00
						東	一、三三、六七·九·00	一、七二、一六·00
						州鮮本港遮國國別	三、一三四、七六·00	八、八、〇六、三·00
						東	五、六、三三·00	九、三、三三·00
						州鮮本港遮國國別	一、九三、〇六六·00	四、一一、六三·00

輸入（港關金單位）

關朝日香調米英	合其	關朝日香調米英	輸	計	他	州鮮本港遮國國別	本年上半期	昨年上半期
東	東	州鮮本港遮國國別	出	輸	出			
						東	一、三九六、七九·00	二、三三六、三三〇·00
						州鮮本港遮國國別	四、七七、〇〇七·00	二、七二、四〇七·00
						東	四、〇三、〇七·00	二、六二、三七·00
						州鮮本港遮國國別	二、二四、三九五·00	四、〇三〇、一四一·00
						東	五、四〇七·00	一〇、八三五·00
						州鮮本港遮國國別	三、一三四、七六·00	八、八、〇六、三·00
						東	五、九三、三五·00	九、三、三五·00
						州鮮本港遮國國別	一、九三、〇六六·00	四、一一、六三·00

一九三八年天津上半期商品別輸入高（單位千金單位）(1)

合其	他	計	一九三八年上半期	一九三七年上半期
酸鹼鹽	生	源	八六九	一三
物	白	染	一四九	一〇四
及	及	地	三一	一〇
酸鹼鹽	染	棉	一一	八
粉	色	布	四四	一四
棉	棉	布	一〇六	八九
雜	綿	布	八四五	四〇四
捻	織	品	三五五	八三
毛	製	物	三六六	三〇六
麻	製	品	一一三三	四一〇六
其	品	分	三四三四	一一七九
他	品	鉛	一一七〇	一八九七
及	麻	品	一一三一	九四四
麻	綿	品	三三三	一五五
綿	織	品	二六一	九五
織	製	物	一五六六	七〇四

（註）日本よりの輸入五關五分。

合其	他	計	一九三八年上半期	一九三七年上半期
			八七五七三·00	五九六七一〇·00
			四一四六八六·00	二四七三二五·00

果實及蔬菜	四四一	一四五	一四八
藥材及香料	一一〇	一一八	一一六
砂糖	一、七五五	三九一	一、六四〇
酒類	一八六	三一	二、二四〇
煙草	四四八	四三五	二五
化學製品及藥品	一、三五五	一、二八八	一、一九一
染料塗料及顏料	六六六	一、四二八	一、三五
油脂蠟及石鹼	二、九三三	二、三九八	二、四四〇
書籍及紙	一、六九九	二、〇九二	二、二四〇
皮革其他動物性原料	一五四	一五四	一五八
木材	一、二四六	六九九	一、二四六
木、竹、藤及同製品	三五五	二四〇	三五五
石炭及アスファルト	二六	二〇	二六
陶磁器及硝子	一九一	二二四	一九一
石、土及其製品	一三五	一五五	一三五
其他	一、七九八	二四六六	一、七九八
總計	四二、四六一	二四、七三三	四二、四六一

一九三八年天津港上半期商品別輸入高（單位千金單位）(2)

＝△印 減少＝

品別	一九三八年上半期	比率	一九三七年上半期	輸入國別
麥及穀類	九、三四四	三三%	六四四	滿洲、日本
米	六、〇七〇	一四	三六	印度、シャム、日本
漂白及染色絹布	一、四九九	三五	一〇三	日本
金屬及鑛產品	二、七二三	七	△四、一〇六	日本、獨逸、英國
機械及部分品	三、四二四	八	二、七一八	日本、獨逸
車輛及部分品	一、六九	三	△一、八九七	日本、米國、獨逸
紙及紙製品	二、四二五	四四	△二〇九一	日本、英國、獨逸
石油及ガソリン	一、六九九		一、九四四	蘭、印度、米國
染料塗料及顏料	二四二五	六	△一四二七	獨逸、日本、南阿
化學製品及藥品	六六六		一、六八八	獨逸、英國、日本
金屬性雜品	一、三五五	三三	九三三	日本、獨逸、米國

木材	一、三四六	三三	六六八	日本、米國、加奈陀
毛及手織製品	三三五		八二一	日本、英國、新西蘭
其他	九、六八八		六、三五七	
合計	四二、四六一	一〇〇	二四、七三三	

同月別輸入統計（單位千金單位）

月別	本年上半期	昨年上半期
一月	二、〇一五	三、二三一
二月	三、七四六	二、二四〇
三月	七、二三五	三、八〇七
四月	七、三三九	四、九三四
五月	一二、八八五	三、七二一
六月	一〇、二三五	四、七九一
合計	四二、四六一	二四、七三三

一九三八年天津港上半期

商品別輸出高（單位千金單位）(1)

動物及動物產品	九、三九一	二三、一八九
皮革及毛皮	四、一〇九	一九、〇九四
魚介及海產物	一八	一三七
豆類	四三五	六七五
穀物及穀物製品	三一七	八三三
果實	一、三三一	三、八二九
藥材及香料	一、三九三	一、四〇九
油	六六八	九八
種子	八二一	四、三三三
酒類	六、三三七	一、八八
茶	二四、七三三	二九
蔬菜		三〇〇
其他蔬菜製品		三六
菜		四〇〇
竹及其製品		八
燃料		三七七
木材及木製品		七〇
紙		四五
紡績用纖維及編絲製品		三三、三五四
織物類		二八四
其他紡績物		六〇
鑛物金屬及其製品		二六、一九
硝子及其製品		一八八七
石土及其製品		一四
化學製品		二二四
印刷物		四六六
其他		三五五
合計		八六、〇六〇

一九三八年天津港上半期商品輸出高（單位千金單位）(2)

品別	一九三八年上半期	比率	輸出向地
植物油及原料	九七	—	日、米、獨
豚毛	三、九一〇	五%	日、獨、英、米
卵製品	三、三一九	四%	米、獨、英
皮革及毛皮	四、一〇九	五%	米、英、獨、日
胡桃	一、一三六	二%	米、加、滿
種子	四、三五一	五%	日、英、米、獨、佛
棉花	四八、三九九	五九%	日、米、獨
羊毛	二、八六〇	三%	日、英、米、獨
絨毯	二、三八二	三%	米、英、中米、南阿
其他	二、二九七	四%	
合計	八二、〇六〇	100%	

同月別輸出統計（單位千金單位）

月別	本年上半期	昨年上半期
一月	六、二七六	一八、三一七
二月	九、五四五	九、二六七
三月	八、八〇五	一一、八七九
四月	一六、六八七	一八、二一八
五月	一八、一二一	一三、六八一
六月	二二、六二六	一三、九一五
合計	八二、〇六〇	八五、二七七

對日貿易　前掲(一)(二)表によれば本年前半期對日貿易は輸入三千九百八十二萬三千元で前年同期に比し二千三百九十七萬一千元の增加、輸出は三千七百十七萬四千元で二千五十一萬七千元の增加であり率にすれば輸入二五%增加、輸出二二%增加である。すなはち天津港輸出入總額に對するパーセンテーヂは輸入が前年の三四%から五四・七六%に、輸出は二三%から六二・五四%に、いづれも二倍近くに飛躍してゐる。さらにこれを品別統計によつて見れば左の如くである。

一九三八年前期天津港對日輸入品別統計（金單位）

品別	一月—五月累計	前年同期
生地綿布	二六二、三四七	一九、三三二
漂白染色綿布	七九、〇七八	四一、〇二〇
捺染綿布	二三四、七四七	三七、三六六
雜綿布	三、七四三	四、〇三四
棉花及綿絲	九、三四二	一六、七二九
其他綿製品	六三、二二九	四三、三三三
麻及麻製品	八〇、四三三	八一、八二九
毛及毛製品	一七三、〇三九	一六三、七二二
絹及絹交織品	一九四、三六四	一三七、二三三

品別	一月—五月累計	前年同期
金屬及鑛產品	六七三、七四〇	一、三七七、一七二
機械及部分品	二、一一四、七三二	一、一三三、六〇二
車輛及船舶	二四三、八八七	七六、六六三五
金屬品雜品	六一六、一六四	三四六、二八四
魚介及海產品	二三九、七三一	一〇七、〇〇二
罐詰其他食料	一〇四、七一〇	九、九六二
穀物及穀粉	六、八九四、七一四	二、八、九八二
果物及蔬菜	二五〇、一〇四	六六、一四八
藥材及香料	一、〇〇五	一、九八二
砂糖	七七、一七八	一五八、六七九
酒類	一、一七六、二八	八二四
煙草	一、九四八	一三、七七
化學製品藥品	三七六、八三五	三一九、一〇三
染料塗料顏料	一五〇、六七二	二六五、二三二
油脂臘及石鹼	九七九、八三七	一三、三五九
書籍及紙	六〇〇、〇六	四八、二八八二
皮革其他	一〇四、三四四	五、二八五
木材	四二七、四一七	一三、七五一
木竹藤製品	二五五、六〇九	一三三、八一六
石炭アスファルト	五、〇三一	三、三九七
陶磁器硝子	六九、三九五	一〇一、二四〇
石、土製品	七〇、九三八	四一、一七
其他雜品	七九、一三九	一八、六六二四
合計	一七、六三二、二六二	八、九四三、七一三
銀元換算（千元）	三九、八二二	一五、八三二

對日輸入貿易は全品目に亘つてゐるが前年より減少のものは左の七品目で他の二十六品目は一齊に增加してゐる。

前年より減少の品目

- 棉花および綿絲
- 麻および麻製品
- 金屬および鑛產
- 車輛および船舶
- 煙草
- 塗料その他
- 陶磁器および硝子

增加品目中特に著しいものは左の綿布類であつて前年に比し約二十倍の激增振りである。

- 生地綿布
- 漂白および染色綿布
- 捺染綿布

右の激增は上海品の壞滅、北支綿布業の壞滅または操業停止、二月滿洲國綿綿物輸入禁止實施による影響、換物人氣等によるものである。次に機械及部分品の增加率は二倍に近く、綿布類以上の增加率を示したものに食料品

があり魚介、海產物、罐詰その他食料、穀物および穀粉、果實、蔬菜、砂糖、酒類を一括して見れば前年同期の二十數倍となつてをり特に麥粉の輸入激增振りは著しい。即ち三十八倍に近い增加である。

一九三八年上半期天津港對日輸入品別統計（金單位千元）

種別	一九三八年上半期	一九三七年上半期
生地綿布	五八六	三三
漂白及染色綿布	一四三九	七七
捺染綿布	三〇六	五
麻及麻製品	一二三	公
毛及毛織製品	二六五	一九〇
絹及絹交織物	三一六	二七二
金屬及鑛產品	九五六	一、六八八
機械及部分品	二、六八六	一、六五九
車輛及船舶	三六六	九〇二
金屬性雜品	八一六	四六四
魚介及海產物	二九九	二三
果實及蔬菜	二六八	五
砂糖	一、一三八	二五五
化學製品及藥品	六二四	三五四
染料塗料及顏料	二〇一	三二七
石油	八五〇	三
紙	八〇八	六一六
木材	四九七	二〇一
米	六五六	六
麥粉	七一三六	一九
其他	二、七七七	一、三六六
合計	二三、二三五	八八八〇

一九三八年前期天津港對日輸出品別統計（單位元）

品別	一月—五月累計	前年同期
動物及動物產品	五五〇四五一	八五七四七二
皮革及毛皮	五七九四三三	三八〇一九四
魚介及海產物	一八九五	八八九二
豆類	二三八四六	二七一九五二
穀物及穀物製品	二三八五四一	七六六八八〇
植物性染料	三九	—
果實	七七五六〇	八二四九〇
藥材及香料	一九八六八	二三〇五六
油脂	一〇八	一、四一〇三二四
種子	一、七四一〇七	二、一〇八、一六二
酒類	六二八	六〇〇八
茶	—	四四七五
蔬菜	一八〇五	八〇一三

其他植物性製品	二、四一八	四五六六
竹及其製品	三一	—
燃料	二三五六八四	二三四七五九
篩及其製品	一七一	—
木材及木製品	一九〇〇一	二〇九五二
紙	—	三一〇
紡織用纖維	三三三四九八	九六六八七四六
織物類	三二四六	一〇七七六
其他紡織物	一〇六〇五	二五一〇四
鑛物金屬及製品	六四一八八六	四一〇七
硝子及製品	三三	五
石、工、製品	八二五	一八九四五
化學製品	二八七五九	三四五六五
印刷物	三四八	一、三三五
其他雜品	二六〇四四	一〇五、六八二
合計	三七、二六八、三八〇	一六、六五六、三五三

輸出方面で減少の目立つものは左の項目である。

魚介および海產物
油脂
蔬菜
雜品

增加方面で著しいものは左の二項目で特に紡織用纖維の增加は二千二百萬元以上に達する。

紡織用纖維

鑛物金屬およびその製品

而して上半期輸出總計は前年のそれより二千五十一萬餘元の增加であるがこの增加部分は殆んど紡織用纖維によるものと見ていゝ。その內容は棉花、獸毛、棕櫚、麻等で從來米國に向け輸出されてゐた蒙疆羊毛が本年から日本に獨占されたことがこの增加の主要原因である。

以上天津港上半期貿易は急激な日本依存の度を高めつつあるものでその內容は日本への原料供給と日本商品の消化といふ傾向を濃化しつゝあるものといへやう。

一九三八年上半期天津港對日輸出品別統計（金單位千元）

種別	一九三八年上半期	一九三七年上半期
動物及動物產品	六九九	一〇一九
皮革及毛皮	七六二	四二五
魚介及海產物	二	一五六
豆類	二四四	二二六
穀物及同製品	二〇七	五八三
果實	六六	九二
藥材及香料	二二七	一九七
油脂	一	一、九六八

種子	二、六三八	二、二四四
酒類	九八	七
蔬菜製品	二六	三三
燃料	二四六	三二七
木材及木製品	二五	二三
紙	三	一
鑛物金屬及同製品	七三八	七
化學製品	四四三	五五六
棉花	三九、八五八	一〇、五八一
羊毛	四〇七	一七二
其他	八八六	四一三
合計	四七、五七五	一九、一一八

對關東州貿易　冀東貿易を通じ從來から相當の重要さを持つてゐたものであるが本年前半期主要品貿易狀況は左の通りである。

一九三八年前期天津港對關東州輸入品別統計（金單位）

品別	五月累計	前年同期
麻及麻製品	三五、六〇〇	九七九
金屬及鑛產品	四二、六六三	八九、五〇一
機械及部分品	二七、八九九	一、五四九
金屬製雜品	一九、九二三	四〇一六
穀物及穀粉	四四五、七六一	九一六

鑛物金屬及製品	五八、一三四四	二、九五一三
雜品	二九六、一七二	二四五、五二八
其他	—	—
合計（千元）	一、七六四	六三八

對關東州貿易は四十一萬餘元の輸入超過であることが目立ち輸入の主要品目は對日輸入の場合と同じく工業製品、加工食料等であるが異る點は綿布類の代りに木材、石、土等の建築材料が比較的多い。輸出方面では皮革および毛皮、紡織用纖維、鑛產物の三種目が過半數を占めてゐる。

對米貿易　輸入は七百四十萬三千元で前年同期より二百十萬五千元の增大である。一方輸出における變化は著しく前年より三千百九十四萬四千元を減じ僅かに七百五十五萬五千元に終つた。これによつて從來天津港輸出高の過半數を占めてゐた對米輸出は完全に對日輸出に奪はれたわけで對日輸出入の激增と共に對米輸出の激減は上半期天津港貿易の最も主要な變化であつた。

一九三八年前期天津港對米輸入別統計（單位銀元）

品別	一月—五月累計	前年同期
金屬及鑛產品	五九一、九四四	三九七、九五九
果實及蔬菜	八九、四〇〇	六〇六
煙草	三一、九三六	三九、六八二
化學製品藥品	四一、六三四	一三、八三八
油脂蠟石鹼	四一、〇〇三	一九、八六九
木材	五七、一九二	一、〇二四
陶磁器及硝子	四一、二二四	四四、八八九
石、土、製品	一六、〇〇四	一、四五八
雜品	二〇、〇二三	一四、六四三
輸入總計	九六一、七九三	二六五、一〇七
銀元換算（千元）	二、一八三	六〇五

一九三八年前期天津港對關東州輸出品別統計（銀元）

品別	一月—五月累計	前年同期
皮革及毛皮	二一七、六六九	二四、二二一
果實	二六、三二七	四四、〇三七
藥材及香料	二四、三八三	七五〇三
油脂	二八、四五九	四五、九五五
種子	三九、八三五	二、〇三〇
物	二三、五九八	三一五
茶	二〇、六七四	二〇、六七四
蔬菜	四三、五〇八	四七、三五五
燃料	四〇、九八二	三、五九九
紙	三〇、四一〇	四〇四、三三七
紡織用纖維	四〇四、三三七	八二、〇九七
機械及部分品	一〇一、〇三二	八七、二九六
車輛及船舶	四三、〇〇三	四二、六五八
金屬製雜品	八六、三二七	九、六六四
罐詰其他食料	一八、三一七	一二、三九九
穀物及穀粉	五二、九八七	一、一九一
果實及蔬菜	二一、二五一	二三、七八二
煙草	二六、九三一〇	三六、九二〇
化學製品藥品	一〇、五四五	四四、六三三
染料塗料顏料	四五、一一〇	四一、〇七五
油脂蠟及石鹼	八八、八一七四	二九、六五一
書籍及紙	二二、六二六〇	七八、八八〇
皮革其他	三三、六六七	七五、四七八
木材	三六、八一〇五	三二、九一七
雜品	二一四、〇三一	二二七、六三四
輸入總計	三、二八五、一三一	二、三二一、六三五
銀元換算（千元）	七四〇一	三五、二九六

一九三八年前期天津港對米輸出別統計（單位銀元）

品別	一月—五月累計	前年同期
動物、產品	二、三〇九、〇八二	四、一八一、九七六
皮革及毛皮	一、五三五、五四六	一五七、一〇三、三〇
果實	三六〇、四二六	二、一八一、四六八
藥材及香料	一五二、九九八	二〇五、八二四
油脂	—	一、〇一六、八八三

種子物	二六、七八〇	二八、二七五	三八、二七五
紡織用纖維	一、六三二、二九四	一四、三五〇、九五九	二八、二九四
絲及絹絲製品	一五、六九九	二、六九、八八五	一〇一、九五〇、九
其他紡織物	九六、九八五	一六五、三三三	一六五、三三三
鑛物、金屬	一〇七、七八〇	六八、二八〇	六八、二八〇
石、土及同製品	九七、三八七	三〇三、三二四	三〇三、三二四
其他雜品	三一七、三五九	三九、四九八	三九、四九八
輸出總計(千元)	七、三六一		

右によれば對米輸入は金屬および鑛產品と穀粉が著しい增加を示し煙草の減少も甚だしい。又對米輸出の激減は動物產品、皮革および毛皮、紡織用纖維三種目の減少によるものである。

對英貿易 對英貿易は輸入百八十九萬六千元で二百四十二萬一千元の減少であり、輸出は三百二萬七千元で二十萬九千元の增加である。

一九三八年前期天津港對英輸入品別統計 (單位、金)

品別	五月累月	前年同期
漂白染色綿布	一七、〇四四	二二、二七一
麻及麻製品	二九、二〇〇	三九、〇三五
毛及毛織物	三三、一三四	一九、三三三
金屬及鑛產品	三四八、〇五五	三四、三五〇、九三九
機械及部分品	一五、三二六	四四、三三六
車輛及船舶	四四、三三六	二、八二九四
金屬製雜品	三二、六八一	一〇一、九三〇九
煙草	二六、九六二	三、三六八
化學製品藥品	二三、一七三	一六五、三三三
染料塗料顏料	六、一二三	四三、四三九
書籍及紙	二九、七三三	四三、〇六六
其他雜品	四三、七三三	三三、八八〇
輸入總計(千元)	一、八九七	四、三一七

一九三八年前期天津港對英輸出品別統計 (單位銀元)

品別	一月—五月累計	前年同期
動物產品	一、三五、四九九	三七、一四三
皮革及毛皮	二三七、六三三	三六九、九二五
種子物	四四、八〇六	九九、〇〇七
紡織用纖維	三四〇、三二四	八八六、四三六
其他紡織物	四三九、一六五	六六五、三二三
鑛物及金屬	二〇、六三四	一三七、〇三七
其他雜品	二四三、〇四八	一四二、八九八
輸出總計(千元)	三、〇二七	二、八二六

輸入方面では毛織物、金屬、化學製品、紙等の減少が目立ち綿布、麻製品、機械等が僅かながら增大してゐる。

輸出では動物產品の增加が壓倒的であるがこの大部分は豚毛である。

對香港貿易 對香港貿易は、輸出では稍減少してゐるが輸入は激增して百十五萬元に達し、前年同期の十倍以上に達するに至つた。輸入增大の原因は麥粉(滿洲粉)の輸入と、砂糖(ジャバ糖)輸入の增大によるものである。

一九三八年前期天津港對香港移入品別統計 (單位、金)

品別	一月—五月累計	前年同期
麻及麻製品	七、三五九	一四、三五〇
穀物及穀粉	二三、二三七	三、七六六
藥材及香料	三一、七三〇	七、七二七
砂糖	一九三、二九三	一、三三三
書籍及紙	一八、三三〇	四七、三七三
輸入總計	三〇〇、三九〇	一〇六
銀元換算(千元)	一、一四九	

一九三八年前期天津港對香港移入品別統計 (單位、銀元)

品別	一月—五月累計	前年同期
動物產品	六八、八二	三九七、七八二
豆類	一、三三、三五八	一、三七、〇八八
果實	七、一八三	二三二、四九一
藥材及香料	六四、〇三五	六九三、四八四
油脂	二六、三三九	二六、一九六
種子物	一〇〇、三三七	一四九、二三五
蔬菜	一八四、九四四	二八一、七一六
絲及絹絲製品	一四六、八四九	一、六三七
織物類	三三、六二三	二、一〇三
其他紡織物	一〇〇、六九四	三三、三三七
印刷物	一三二、三〇七	七〇
其他雜品	三三、三六七	三三、一三七
輸出總計(千元)	一、八八八	二、一三一

對英印貿易 輸出においては變りなく輸出額も例年と變らなかつたが輸入は百七十八萬元に達した。前年度の五十六萬元に比較すれば大きな變化であるが主なる輸入品は麻及麻製品と穀物の二種目だけである。而して本年の輸入增加は此二商品の增大によるものであつて、他商品は問題とするに足らない。二商品の輸入高は次の如し。

一九三八年前期天津港對英印輸入統計 (單位—金單位)

	五月累計	前年同期
麻及麻製品	四三、九〇八	三八、一三八
穀物及穀粉	三三六、六六八	

輸入總計	七一、八八	二四九、二七一
銀入換算（千元）	一、八八一	五五五

麻及麻製品の激增は英本國、香港、英印共通の現象であり麥粉は濠洲粉の中繼で香港、英印に共通する現象である。而して英本國からの輸入高は前述の如く著しく減少してゐるが香港、英印は增加してゐるので三者を合してスターリング・ブロックとして見做すときは輸出入額は略々前年と大差なく輸出入の平衡も保たれてゐることは注目に價する。

對獨貿易　對獨貿易は輸入三百八十一萬三千元で四百三十六萬二千元を減じ、輸出は五百四十一萬九千元で七十七萬元を增加した。即ち昨年の三百五十三萬元の入超は、本年は一百六十萬元の出超となつたのである。

一九三八年前期天津港對獨輸入品別統計（單位、金）

品別	一月—五月累計	前年同期
金屬及鑛產品	二四九、四九六	五八一、〇一〇
機械及部分品	二一六、六一〇	六四八、四七二
車輛及船舶	二一、七五九	一三〇、七二四
金屬製雜品	一七四、六八四	二一九、七二八
藥材及香料	一三、一〇二	一五、九一八
化學製品藥品	二三一、一七二	三八一、二八六
染料塗料顏料	二〇四、八一六	五七三、八一六
書籍及紙	二五四、〇一一	一九五、一九四
皮革其他	一七、三〇二	四四、二六七
其他雜品	一九、七一〇	七五、一六九二
輸入總計	一、七〇五、九一二	三、五八一、二七四
銀元換算（千元）	三、八一三	八、一七五

一九三八年前期天津港對獨輸出品別統計（單位、銀）

品別	一月—五月累計	前年同期
動物產品	一、一四〇、六二九	一、〇九六、三六〇
皮革及毛皮	三三〇、四八八	三二六、〇八九
種子	七〇六、五三三	九四、七二六
紡織用纖維	三、一八五、九二一	三、一五〇、〇九八
其他雜品	三〇、二〇二	五九、四八四
輸出總計（千元）	五、四一八	四、六四一

その他　その他オランダ、佛蘭西、ベルギーなどの諸國は輸入、輸出ともに前年より萎縮してをり一般に輸入の減少よりは輸出の減少が大きい。しかし輸出入一般額においてもともと小さいのであるからこれらの國々の天津港貿易における變化は取り立てゝ言ふべきほどのものはない。

天津港を通じて見た輸入

輸入總額において一千二百二十六萬七千金單位を增大してゐるがこの中增加の顯著なものは綿布類、食料、土建材料等であつて他方減少の目立つものは金屬、車輛、船舶類、化學製品染料類、雜品等である。

綿布類四項合計は百三十三萬五千金單位、前年は僅かに九萬一千金單位であるから百二十四萬四千金單位の增加で思慮輸入の躍增と民族紡績業の停滯に因るものである。

一般民族產業の停頓によつて金屬および鑛產品の輸入高は前年の三分の一を減じて二百十六萬六千金單位となり車輛船舶類も百萬金單位臺を割つて八十八萬七千金單位となつてゐる。何れも民族工業への打擊を反映するものであるが、たゞ機械および部分品類は四月以降の躍進著しく累計では前年のそれを追ひ越した。

食料は各項とも增加が著しいが最も顯著なのは穀物及び穀粉の一千二百一萬二千金單位で一千一百三十五萬四千金單位の增、及び砂糖の百三十五萬四千金單位で百九萬七千金單位の增である。穀物、穀粉といふ項目の主要な要素は麥粉であるが麥粉輸入の激增は上海粉の多入が減少したこと並びに北支農村の小麥生產力が事變によつて全くと言つていゝ程破壞され地場製粉がために活動を阻害されたことによるもので天津輸入貿易のうち事變下的特徵の最も深刻なのはこの麥粉輸入增大の點である。

木材、石材等は增大してゐるがこれは復興用の建材として使用されたものである。

金屬鑛產品と共に減少したグループには化學製品、藥品、染、塗料、雜品等があるがこれ等の一部は土着中小工業の衰微を語り更に一部は奥地消費市場の潰滅を語つてゐる。

一九三八年前期天津港輸入品別表（單位、千金）

品別	一月	二月	三月	四月	五月	累計	前年同期
生地綿布	一	一	二	二〇	二四〇	二六五	二〇
漂白及染色綿布	五	二	二六	三六	四三	八一	五六

染料	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
綿布	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
雜綿	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
棉花及綿絲	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他綿製品	七	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
麻及麻製品	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
毛及毛織製品	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
絹及絹交織品	五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
金屬及鑛產品	三五	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五
機械及部分品	三九	三六四	三六四	三六四	三六四	三六四	三六四	三六四	三六四	三六四	三六四
車輛及船舶	六六	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一
金屬品雜品	一五〇	二七一	二七一	二七一	二七一	二七一	二七一	二七一	二七一	二七一	二七一
魚介及海產物	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
纖詰及其他食料品	二四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
穀物及穀粉	三六	八四五	八四五	八四五	八四五	八四五	八四五	八四五	八四五	八四五	八四五
果實及蔬菜	一〇	三七七	三七七	三七七	三七七	三七七	三七七	三七七	三七七	三七七	三七七
糖及香料	一〇	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
酒類	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
煙草	一九	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
化學製品及藥	三六	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
染料塗料顏料	二〇〇	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八
油脂臘及石鹼	三三	一九六	一九六	一九六	一九六	一九六	一九六	一九六	一九六	一九六	一九六
書籍及紙	七五	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六
皮革及其他動物性原料	一〇	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
木材	二一	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三

木竹籐及製品	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
石炭及アスファルト	五	五一	五一	五一	五一	五一	五一	五一	五一	五一	五一
陶磁器及硝子	一四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
石、土及其製品	六	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
其他雜	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
合計	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四
總元換算(千元)	四五三、三八	三、七四七	三、七四七	三、七四七	三、七四七	三、七四七	三、七四七	三、七四七	三、七四七	三、七四七	三、七四七

天津港を通じて見た輸出

輸出は事變下北支農村の衰微を反映して特殊商品を除き一般に各品とも減少してゐる。變化の著しいものを摘記すれば紡織用纖維が三千八百四十一萬五千元で八百九十七萬一千元の增、鑛產および金屬類が百三十八萬二千元で百十四萬七千元の增。減少したものゝ方では動物および動物產品が六百二十六萬九千元で百七十八萬七千元の減、皮革および毛皮は減少最も著しく二百七十八萬一千元で一千四百十九萬三千元の減、果實、油脂等もそれぞれ二百萬元內外を減少してゐる。

一九三八年前期天津港輸出品別表（單位、千元）

品別	一月	二月	三月	四月	五月	累計	前年同期
動物及動物產品	八六六	八四六	九五六	一、〇八七	二、五二一四	六、二六九	八、〇五六
皮革及毛皮	二三〇	三一四	二七	九七三	九八七	二、七八一	一六、九四一
魚介及海產品	一	一	三	六	六	一六、	九
豆類	二三五	九〇	二四	一〇二	五六	五九	五一〇
穀物及穀物製品	一九	四五	二九	六四	一九一	二四八	七四一
植物性染料	一	一	一	一	一	一	一
果實	一九〇	一三	一六六	二三五	二九	一〇四九	三六九一

其印化石硝鑛其他鑛物及其製品　材及其製品　木及其製品　竹及其製品　藤及其製品　籐及其製品　蘭及其製品　棕及其製品　蔴及其製品　絹及其製品　紡織用物及其製品　絲及其製品　毛及其製品　羽及其製品　獸及其製品　骨及其製品　角及其製品　蹄及其製品　爪及其製品　牙及其製品　貝及其製品　蛤及其製品　蟹及其製品　蝦及其製品　魚及其製品　海藻及其製品　海草及其製品　海產及其製品　其他水產及其製品　其他動物及其製品　其他植物及其製品　其他礦物及其製品　其他物品及其製品　其他雜品　合計

| | | |

明礬	箱	一	一、〇〇〇
其他雜藥	箱	一、二〇〇	一、〇〇〇
其他化學藥品	箱	一、二〇〇	一、〇〇〇
其他金屬	箱	一、二〇〇	一、〇〇〇
其他鹽	箱	一、二〇〇	一、〇〇〇
其他鹽類	箱	一、二〇〇	一、〇〇〇
其他鹽類藥劑品

◆雲形セ竹木木油石鐵ヲ蒔繪文同蒔蒔蒔蒔ヨ自自同同面
上等　メ　丸　ヲ音　氣　勝製　ム　頭部　子　製部分品　鉛
參田　ソ　材　製ソ　引
具土ト　數太類油漆ヤ蒔繪具品　帶子蒔品　條線

箱　硯　硯　硯

年度	輸移入合計	指數	輸移出合計	指數	總計	指數
一九二六年	三五一、六四三、三六	100	一三〇、六九三、三〇一	100	四〇一、四九七、五九九	100

最近十箇年間天津港輸移出入貿易統計（單位國幣元）

	輸移入	輸移出	總計
貿易	三九九、五三一	三五、五五九、五三一	三五、九五九、五三一
織物	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
糖	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
米	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
木材	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
棉花	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
安東から輸入	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
安東へ輸出	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
油類	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
木材	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
染料	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
電氣器具	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
竹類	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
機械器具	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
石文	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
勝	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
箱	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
包	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
桶	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
箱	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
箱	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
包	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
箱	一、一一一、一一一	一、一一一、一一一	二、二二二、二二二
總計	三九九、五三一	三五、五五九、五三一	三五、九五九、五三一
指數	100	100	100

天津港輸出入額最近三箇年月別表（單位千元）

年月別	昭和十一年 輸入	輸出	合計	昭和十二年 輸入	輸出	合計	昭和十三年 輸入	輸出	合計
一月	四、三九一	一、三七七	一、七〇六	七、二六三	一、八三七	三、〇九九	四、三六一	六、三七七	一〇、六一五
二月	二、四三〇	六、〇〇六	八、四三六	五、〇八六	九、二六六	一四、三四六	八、四四八	九、五四五	一、七九九、三
三月	三、二一〇	五、一六六	一〇、三七六	八、四四五	一一、八九一	二〇、三四四	一六、三三七	八、八八五	三五、一四三
四月	一〇、〇八〇	一、三五九	二、三九九	一一、〇四四	一、八二八	一九、四三三	一六、五五七	一六、六七七	三三、一四四
五月	五、六四四	八、七六六	一四、四一〇	一一、九九一	一三、六六一	二五、六五二	一六、八八一	一一、九九九	二七、八八〇
六月	五、〇八九	七、九九一	一三、〇八〇	一〇、〇八七	一四、一六一	二四、二四八	一四、一四一	一〇、一四七	二四、二八八
七月	三、六三一	一〇、四七〇	一三、九〇一	一一、七〇五	一一、三四六	二二、〇五一	一四、一四一	一一、一一一	二五、二二二
八月	三、九九三	一一、九九一	一五、八八四	一一、一一一	一一、一一一	二二、二二二	一四、一四一	一一、一一一	二五、二二二
九月	三、九九三	一一、九九一	一五、八八四	一一、一一一	一一、一一一	二二、二二二	一四、一四一	一一、一一一	二五、二二二
十月	三、九九三	一一、九九一	一五、八八四	一一、一一一	一一、一一一	二二、二二二	一四、一四一	一一、一一一	二五、二二二
十一月	三、九九三	一一、九九一	一五、八八四	一一、一一一	一一、一一一	二二、二二二	一四、一四一	一一、一一一	二五、二二二
十二月	三、九九三	一一、九九一	一五、八八四	一一、一一一	一一、一一一	二二、二二二	一四、一四一	一一、一一一	二五、二二二
總計	四〇、一四九、七五九	一一、七七九、三四一	五二、九二八、一〇〇	一一、一一一、一一一	一一、一一一、一一一	二二、二二二、二二二	一四、一四一、一四一	一一、一一一、一一一	二五、二二二、二二二

年次	外國輸入額	上掲額ノ内日本本土輸入	上掲額ノ内朝鮮輸入	上掲額ノ内臺灣輸入	上掲額ノ内關東州輸入	左記の四項合計
九月	七、三〇三	八、八一一	一、六三二	四、七八八	一、三三八	—
十月	七、一三五	九、六三六	一、四三四	三、四九一	一、〇一二	—
十一月	八、九一九	八、三四四	一、七二三	四、七一一	七六三	—
十二月	六、一二三	一、八六八	二、〇八九	二、七七七	一、三一〇	—
下半期計	三九、九〇三	六三、六三七	一〇三、三四〇	二〇、七七六	七、三九二	—
全年合計	七二、三八五	一二七、八二六	一九〇、四一一	四〇、六六六	二、二八八	—

天津港外國輸入額最近五箇年比較表（單位千元）

年次	外國輸入額	上掲額ノ内日本本土輸入	上掲額ノ内朝鮮輸入	上掲額ノ内臺灣輸入	上掲額ノ内關東州輸入	左記の四項合計
昭和九年	九六、六七〇	三二、七二一	三九、二二〇	六、三五	一、二二一	三四、八四三
昭和十年	八五、一六〇	三三、二七〇	三五、三五	一、四四	八、八二一	三六、六二一
昭和十一年	七二、三五五	二七、一〇二	四四、三	一、九四四	一、四九六	三二、〇四三
昭和十二年	八三、九六六	二六、八八二	三六、三	二、二九	三、五八	一六、九六九
昭和十三年一月—三月	二九、三三三	一六、三三〇	六一	〇		

天津港輸入重要品價額（主として日本本土、朝鮮、關東州、臺灣、香港、英國、獨逸、米國其他第三國別）一覽表

昭和十三年一月至八月　同十二年同期間

（單位千金單位）

番號	品名	國別	昭和十三年一月—八月價額	昭和十二年一月—八月價額
一	生地綿布	朝鮮	四六一	二六
		關東州	二一〇	
		英國	一	—
		其他	二二三	二七
		計	三〇〇四	二八
		日本本土	—	—
		朝鮮	—	—
		關東州	四二	三五
		英國	二	三
		其他	三〇六九	一四五
	加工綿布	計		

番號	品名	國別	昭和十三年一月—八月價額	昭和十二年一月—八月價額
二	八毛絲	日本本土	一	二
		英國	一	一
		其他	一	一
		計	三	四
	九毛織物	日本本土	八一〇	三二
		英國	八八	七七
		關東州	九四五	二四〇
		其他	二七〇	二三
		計	二三二	二五五
	一〇人絹絲	日本本土	一三五	一三二
		伊太利	一三五	一三二
		計	一七四〇	一七四〇
	一一人絹織物	日本本土	二九九	二九九
		關東州	二	二
		計	二五〇一	二五〇一
	一二	日本本土	一三	一三
	一三	瑞西	六五	六五
		英國	四五	四五
		伊太利	五五	五五
		獨逸	五五	五五
		其他	二	二
		計	一九九	二
	一四	ニュージーランド	一	一
		其他	一九	一七
		計	二〇	一七
	一五	羊毛（原料）屑毛を包含す	三	一四

品名	輸入額	輸入額	輸入額	輸入額	輸入額
総計	三三六、六六六	四四、〇〇〇	三三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
合計	三三、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
電気（電線類を除く）	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計算時計及部分品	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
器	三三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
米国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
英国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
仏国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
他国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
総計	三三、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
米国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
英国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
仏国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
他国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
総計	三三、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
米国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
英国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
仏国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
他国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

品名	輸入額	輸入額	輸入額	輸入額	輸入額
総計	三三、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合計	三三、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
電気（電線類を除く）	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計算時計及部分品	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
器	三三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
米国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
英国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
仏国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
他国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
総計	三三、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
米国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
英国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
仏国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
他国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

品目	輸入先	數量	價額
米	日本	三四	四〇
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	計	三四	四〇
砂糖	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
茶	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
麻	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
綿糸	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
綿布	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
酒類	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一

（第四）——輸入

品目	輸入先	數量	價額
米	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
麻袋	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
綿糸	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
綿布	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
酒類	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一

品目	輸入先	數量	價額
天然ゴム	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
石炭	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
砂糖	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
茶	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
麻袋	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
綿糸	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
綿布	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一
酒類	日本	一一	一一
	英領印度	一一	一一
	仏領印度支那	一一	一一
	蘭領東印度	一一	一一
	英領海峡植民地	一一	一一
	英領北ボルネオ	一一	一一
	英領ビルマ	一一	一一
	英領香港	一一	一一
	計	一一	一一

品目	輸入先	數量	價額
米

玉、瓦、煉瓦及其製品	其他	一	一	一	一
	計	一	一	一	一
其他	日本本土	一	一	一	一
其他	朝鮮	一	一	一	一
其他	關東州	一	一	一	一
其他	滿鐵附屬地	一	一	一	一
其他	其他滿洲	一	一	一	一
其他	關東州	一	一	一	一
其他	計	一	一	一	一
其他	日本本土	一	一	一	一
其他	朝鮮	一	一	一	一
其他	關東州	一	一	一	一
其他	滿鐵附屬地	一	一	一	一
其他	其他滿洲

| | | |

營業科目

冷凍魚
鮮魚
鹽干魚
罐詰類

株式會社 **林兼商店**

北支營業所
天津日本租界須磨街四ノ一
電話二一一三二二
本社 下關市竹崎町六一

北支出張所
北京 石家莊 太原 新鄉
臨汾 大同 青島 外

營業品目

海產物、雜穀
一般雜貨類輸入販賣

販賣株式會社 **滿洲水產會社**

電話二局 一四三八番 三三八〇四番 三三二四番
發信略號（スイ）又（ス）
受信略號 テンシンスイハン
本社 大連市加賀町四番地

（三の二）

大阪商船株式會社
日清汽船株式會社 塘沽代理店

海運業 **和清洋行**

塘沽冷凍會社

社長 北島與多朗
電話塘沽 八三番・七九番
天津事務所 天津日租界榮街
電話 二二、一四二六番 八五二番

（三の三）

松竹梅酒造株式會社代理店
丸金醬油株式會社代理店
銘酒志ら瀧醸造元

合名會社 **篠原本店** 天津 **出張所**

主任 池田清美

天津日界福島街五五ノ三
電話(2)一八七五番
一八七六番
本店 山口縣豐浦郡豐東村

營業品目

代理店
鐵鋼銅等各地金、亞鉛引鐵板
各種鐵線、各種パイプ並附屬品
電氣、瓦斯、水道、土木建築、鐵道
鑛山、船舶、工場用品並ニ機械器具
油脂塗料

製造販賣
亞鉛引鐵線、鐵條網、金網、鍛造品
洋釘犬釘、リベット、ボールトナット
スプリングワッシャー等各種釘鋲類
オーガービット

天津日本租界須磨街一〇ノ五

S

株式會社 **進和商會**

天津出張所
電話 二二二六九一番
二二三五六七四九一番

本店 大連市佐渡町三〇番地
支店 奉天菊町三〇番地
同 哈爾濱道裡段街康德ビル
同 哈爾濱道新城街八號地
同 新京特別市豐樂路二〇番地
出張所 大阪市西區南堀江通一丁目八
同 北京東城馬大人胡同二四
電話東局三四七〇
工場 大連市甘井子椒房屯
同 奉天鐵西區北壹路三〇番地
同 天津市楊家莊

(三の四)

洋紙、和紙、直輸入商

Ⓕ 株式會社 **二見商會 天津支店**

天津日界小松街七ノ二
電話 二一二一九番

北滿材伐採竝販賣

⑧ **東泰洋行 天津支店**

本店 哈爾濱埠頭區商市街一〇〇
支店 大連市敷島町六五
作業所 濱江省葦河縣葦河

(三の五)

營業課目

一般輸出入貿易商
砂糖、綿糸布、毛糸、毛織物類、麥粉、金物
雜貨、棉花、雜穀、肥料、製油原料

株式會社 **增幸洋行**

天津日界小松街五號

電話 二二二 二二二 三三三 二二二
本店 上海福州路三十三壹
支店 青島堂邑路
出張所 大阪市東區淡路町一丁目 四五六番

代理及取扱店

大日本製糖株式會社
塩水港製糖株式會社
昭和製糖株式會社
日清製粉株式會社
秋田護謨製造所

（三の六）

天津日界花園街十九號

貿易商 精米業 **華豐公司**

電話 二二二 二〇二 五六五 二四六 一五二
工場電話 二二二 二〇二 五六五 二四六 一五二

輸出
石油・麥粉・砂糖・鱗寸・其他
輸入
肥料・其他一般農産物
原料・飼料・花棉・毛獸・皮麻
油製・肥料・植物性油・雜穀

貿易商 **信記洋行**

天津日本租界常盤街十二ノ一號
電話 二二二 二〇九 六二七 三六八 二一四 八八三
（華人及夜間用）

大 **中央物産株式會社**

洋ス度其
海ート量
紙ブ衡他

天津出張所
天津日界福島街七ノ七
電話二一九八八番
本社 京城府南米倉町

（三の七）

豐年

印骨粉製造並販賣

牛油、豚毛、棉花、皺、雜穀、製油原料、羅紗、人絹絲
加工綿布、人造纖維人絹布、海產物、帶革、膠、ベニヤ
板、リノリユーム、石油、重油、ガソリン、亞鉛板、電石
アルコール、金物類、農具、タイヤ、自動車部分品一式

BY

天津日本租界山口街

株式會社

武齋洋行

取締役社長 武內進三

代理店
新田帶革製造所（調帶並膠）
新田ベニヤ製造所
東洋リノリユーム株式會社
東洋人造肥料株式會社
普北興農酒精廠
日之本號犁製造所東洋社
東京、大阪、上海、青島、濟南
周村、石家莊、彰德、太原

出張所

（三の八）

海陸運送業
通關代辨業 貨物自動車運送業

株式會社 富島組

天津出張所

事務所 天津日本租界松島街一〇
分室 大阪商船天津支店內
分室 日清汽船天津出張所內

電話
二二二二二
一二二二二
四六六六六
二四四四四
三四三二一

土木建築請負業

福井高梨組天津出張所

本店 大連市東公園町三十九番地
營業所 天津日本租界宮島街四〇
支店 瓦房店、大石橋、營口、鞍山、奉天、安東、新京、哈爾濱、牡丹江、佳木斯、綏化、錦縣、阜新、北票
出張所 北京、濟南、家口、南張

（三の九）

土木建築請負業
設計製圖
工事請負

朝日組工務所

三谷爲吉

天津日本租界松島街三七
電話 三一一四二 三二三〇九番

營業品目
鐵鋼、機械、工具、農工
鐵道、鑛山、土木、水道、用品

本田商店天津支店

天津日本租界福島街四七
電話 二〇六五四 一二二八九二番

北京出張所
北京王府大街大鵝鴿市胡同
電話 東四五二二番

國產品ノ權威

揮發油
石油
モビール油

マシン油
スピンドル油
車軸油
輕油
ペール螺油
石アスフアルト
コークス油
絶縁油
シリンダー油
サービス油

小倉石油販賣株式會社

本店 天津日界宮嶋街一一六
電話 二一〇六二五番 二一一〇五六六番 二一〇五七六番

北京支店 北京和平門裡西中街二九
電話南局三一三三番

青島支店 青島館陶路三四
電話二二八九番

支店出張所 濟南、大連

自轉車裡帶
中天牌膠皮底
中天牌膠皮掌
大將軍牌運動靴
地球牌氣球
各種目膠皮製品

天津日本租界住吉街一番地

瀨口膠皮工廠

電話 二局七六〇番
總工廠 京城府京町一番地
瀨口ゴム工業所
分工廠 奉天宮島町十一番地
支店 大連市榮町二番地

菅沼タイプライター
と
東亞謄寫版

天津日本租界七十九

華文打字機公司

電話二一〇〇三番

營業科目
カロル印レザークロース一般レザークロース
ゴム製品、石綿製品、塗料
機械工具、鐵道用品、鑛山用品
電氣用品、其他工業用品一切

天津日本租界明石街一ノ五

吉岡洋行天津支店

本店 電番二〇〇六二番
支店 大連市大黑町一〇番地
奉天、東京

吉岡仁助

吉岡司法代辨事務所
天津日本租界常盤街
電話二〇五七九

皮革貿易商

天津日本租界春日街二六

大明洋行

電話二、〇八七八號

貿易商 三和洋行
土木請負 三和組

日界伏見街

資本金貳千萬圓

營業品目 鑄造品、一般並ニ特殊機械、軍需品、橋梁鐵骨車輛、酸素其他製造及修理、暖房裝置一式

天津法界三十號路五十三號

株式會社 滿洲工廠 天津出張所

本社 奉天大東區(電話三三三三七番)

工場 奉天大東區大東邊門外

營業所 大阪、東京、大連、撫順、鞍山新京、天津、

取扱丁寧、保管安全
料金最低

公認 倉 天津倉庫

天津日本租界山口街
電話二〇八九八番

電氣竝機械、各種金屬、化學製品
塗料及ゴム製品、建築用材

天津日本租界春日街八番地

西原商店天津出張所

電話二一三四七番

土木建築一般請負業

株式會社 竹中工務店

天津支店

天津特別第三區六緯路七六號
電話二局三一五〇番

本店 大阪市中之島朝日ビル北濱(代表)一九一番
支店 東京、名古屋、京都、神戸、福岡
出張所 横濱、京城、奉天、青島、上海
製作所 大阪、東京

土木建築請負業

株式會社 滿洲飛島組天津出張所

天津日本租界福島街七九
電話二局 一一三一 二二五四番

北京出張所 北京喜雀胡同一
電東局三二〇七番

(三の一六)

本店 東京市淀橋區下落合一丁目(電話代表大塚六〇八番)

株木組天津出張所

天津日本租界三島街九號
電話(二)三〇一二番

土木、建築請負 合資
鑛山業 會社 復興工業

本社 北京司法部街三七
電話南局 二二九九 三〇五三 四四五五番番

支店 天津日本租界明石街三二ノ一
電話 二二八一二番

(三の一七)

天津代理店 明治生命保險株式會社 富國徵兵保險株式會社

活版 石版 印刷 中東公司

天津日本租界福島街
電話二〇三三〇番

商品屬附及紙和紙洋

T.T 藤堂洋行

天津日界旭街二〇
電話 二〇一三 五九八三 八七

大阪商船株式會社
近海郵船株式會社
大連汽船株式會社
陸軍運輸部
御指定

船客手荷物運搬並荷造
赤帽社
曙街(郵便局裏通り)
電話二〇五八三

旅館部
塘沽ホテル
電話塘沽一二六
塘沽へ御出迎御見送りの御客樣の爲め純旅館塘沽ホテルを始め御便宜を圖る事に致しましたから何卒御利用下さい

營業科目
棉花、綿糸
布、人絹糸
布、毛糸布
米麵

A 又一株式會社
天津支店

各種藥品
工業藥品
有名賣藥
皮革材料
繃帶材料
化粧品

富山廣貫堂代理店
KK 金山大藥房
天津日本租界北旭街
電話 二一一七番 二一一八番 二一一九番

曙街福島角
流行洋品 本店 大川
電話四五五番

曙街
お子達用品 支店 大川
電話八〇六番

營業科目

食料品 醬油、罐詰類、漬物類、佃煮、筍罐詰、飲料水、野菜類、干ウドン、燒麩、茶、椎茸、
雜貨類 衛生材料、消毒品、武具、兵器手入用品、ウエス、タオル、家具裝飾品、チリ紙、文房具類一切、繩、藁筵、莫蓙、
織物類 軍服地、學生服地、海軍麻布地、其他廣巾綿布、博多織、
雜穀 高粱大麥、米糠、藁類、干草農產種子、一般兵器用具、陣營具、調製修理

S.K
河口商事
ニビシ醬油、ソース北支總發賣元
味ノ一 北支代理店
軍御用達業
天津日本租界明石街二三
電話二〇一四七番
倉庫 天津日本租界吉野街四
天津東門外小洋街五

(三の二〇)

營業品目
棉花、綿糸布
人絹糸布、毛糸
毛織物
本社 大阪市東區南久太郎町二丁目
株式會社 丸永商店
天津出張所
天津法租界中街八九
電話三局 二〇一一 六六四〇二八

天津日本租界旭街四番地
株式會社 大同洋紙店天津出張所
電話二〇三三六番

山貞洋行
山本貞一
天津日本租界明石街二四番地

(三の二一)

營業品目

綿糸布、毛織物、人絹、スフ製品、米、小麥粉、澱粉、米粉、砂糖、麻袋、ベニヤ板、海產物、工業藥品、電球、電線、鐵板、亞鉛板、針金、燐寸、石鹼、各種塗料、電石、洋灰、羊毛、蔬、棉花、○、各種土產品、一般食料品、

天津日本界界宮島街二四

泰信洋行

天津旭街郵便局私書函十六號

電話（キムラ）又ハ（キム）

電話 二一四七四〇 二一四七四一 二一四五八七 二一四五八八

株式會社 小林商店

株式會社 平尾賛平商店

北支總代理店

小林洋行

天津日本租界旭街

電話 二一〇四一六番 二一〇七〇番

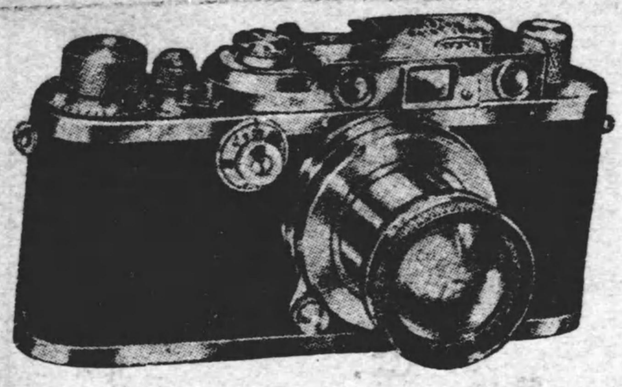
トーレムーリク 德麗雪膏花

獅子牙粉 ライオン齒磨

（三の二二）

斯界の覇者

ライカ Ⅲ.B型



エルマー F三、五

ズマール F二、〇

クセノン F一、五

シユツト商店代理店

合資會社 **滙川公司**

天津日本租界宮島街

電話二一三六五・二一二七一

出張所 濟南二大馬路昌和ビル

電話 二七六五

Leica

（三の二三）

營業品目

山葉オルガン、ピアノ、アコーデオン
蝶印ハーモニカ、其他洋樂器
家具裝飾品
運動具、撞球用具
蓄音器、レコード

YAMAHA

株式會社 **山葉洋行** 天津出張所

天津東馬路二十二番地
電話二一八二五番

本店 大連市信濃町
出張所 奉天、新京、哈爾濱

營業科目

工業藥品
染料
醫藥
各種藥品
雜織
各種物品
雜貨

株式會社 **曾我商店** 天津出張所

天津南市大興街三九
電話二一四七五九番
受電略號テンシン、ボウエキソガ

本店 大阪市東區伏見町四丁目三〇
電話北濱(23)三七八二・三一五五
支店 東京市日本橋區矢ノ倉町一〇三七八三・六一一〇

(三の二四)

建築材料
各種塗料
各種機械
電動機計器
各種陶磁器
農工土木用品
紡績用品
綱索麻索
麥稈眞田
羊毛獸脂
(棉花其他)
地方物產品

CH

晉信洋行

事務所 電話 三六一一 三六一二 三六一三 番
天津日本租界旭街七號

店主 上野壽
自宅 日界榮街
電話二〇四四六番

(三の二五)

天津日本租界磨須街一六ノ三

水垣商店天津支店

營業種目
トツカン印罐詰
MCC印罐詰
トツカン印佃煮
キンシ正宗

本店 電話二〇一三九番
支店 神戸（神戸驛前）
工場 東京、上海、大連
兵庫、金澤、北海道

共商會聯盟店

平林吳服店

天津日本租界宮島街
電話 二二〇四〇
二二〇八四

（三の二六）

天津日本租界福島街四七ノ六ノ二

天津土建協會

電話二二五五六番

天津日本租界宮島街一七ノ五

天津產業株式會社

假事務所
電話 番

（三の二七）

毛布、毛糸輸出入商

須藤洋行

天津日本租界旭街
電話二一八〇四
支店 大連、北京

天津日本租界小松街十六

一般貿易 **泰和洋行**

萩原節男

電話二〇四〇七

棉花綿糸布
人絹糸布 商

天津特別第二區金湯
大馬路富山ビル內

八木洋行

天津出張所

電話二一一四一五番

土木建築設計施工

合資會社 **貞森公司**

建材部
內外銘木
唐木、天井板
北山杉磨丸太
座敷用材一式
其他各種木材

天津日界壽街三

電話
二〇九九五
二二六六〇
二一八五二
二一八五三
二一八五六
二一八五七
二一八五八

土木建築請負業

株式會社 **戸田組**

北支營業所 天津伊租界五馬路七號 電話④三六〇番
北京出張所 北京馬市大街方該胡同一八號
派出所 張家口、大同、下花園
本社 東京市京橋區京橋一丁目三番地

營業科目

時計、貴金屬、裝身具、寶石、
銀器、蓄音器、寫眞機、剃刀、
雙眼鏡、金屬器、萬年筆、徽章、

合名會社

森洋行

天津日本租界福島街七ノ二
電話二〇八二三番
北京崇文門大街二五五番
東一五〇番
本店 奉天春日町八番地
支店 大連連鎖街銀座通り
出張所 新京中央通り四八番地
哈爾濱地段街一〇八號
遼陽幸町六番地

營業科目

アルコール　ナフタリン
內外有名賣藥　醫料藥品
化學藥品　工業藥品
化學用硝子器具
化粧品等々

須田藥房

天津日本租界旭街一六四ノ一
（電車道）
電話二〇八四七番

（三の三〇）

營業科目

土木建築
設計監督
請負

北中公司

天津日本租界橋街十三番地
電話 二〇九五五
二〇八一〇

營業科目

鑛山用機械　土木用機械
炭礦用機械　重輕油機械
水道用機械　石油發動機
鑄鐵管　電氣機械
汽罐汽機　各種ポンプ
造船造機　鐵骨材料
農業機械　設計製作
鐵道用機械　施工請負

天津日本租界松島街十號

中村公司

北京
天津
出張所

電話
東 二四四九二番
四七九四番

本社 朝鮮商工株式會社
支店出張所 鎭南浦三和町
工場 北京、青島、新京、大連、奉天
東京、大阪、神戶、京城、
平壤、鎭南浦

（三の三一）

七	生ゴム及屑ゴム	日本本土	一六二
		朝鮮	八四四
		英國	一一一
		和蘭	一〇〇
		海峽殖民地	三五五
		其他	一一一
		計	二六七
八	ゴム靴	日本本土	二三九
		關東州	二二二
		チエッコスロバキヤ	四一一
		其他	一一一
		計	二六六
九	タイヤ（自動車用）一	日本本土	四四四
		米國	三八六
		計	六六六
〇	同上（自轉車用）	日本本土	一〇〇
		其他	一九一
		計	二六三
一	其他ゴム製品	日本本土	三六四
		關東州	二二二
		米國	一一一
		海峽殖民地	二四四
		其他	一一一
		計	七四四

二	燐寸	日本本土	一九九
		其他	六六六
		計	二四四
三	其他事務用品	日本本土	一九九
		關東州	二二二
		獨逸	九九九
		米國	三三三
		英國	二二二
		計	一〇〇
四	白粉及クリーム	日本本土	六六六
		佛蘭西	三三三
		獨逸	一一一
		米國	二二二
		其他	一一一
		計	四四四
五	齒磨	日本本土	二二二
		獨逸	一一一
		其他	三三三
		計	五五五
六	其他香水及ロスメチツク等	日本本土	四四四
		佛蘭西	三三三
		英國	二二二
		其他	五五五
		計	一一一

土木建築設計請負業
輸出入貿易業
株式會社 福昌公司天津出張所
天津日界秋山街一四
電話二〇七〇一番

白粉	米国	米国	日本本土	計	米国	日本本土	計	米国	日本本土	計	米国

二六	牛	日本本土	二四	牛	日本本土	二三	羊（羯）	日本本土	二四	鳳凰皮（同）	日本本土
二三	駱駝及駝絨	日本本土	二三	駱駝及駝絨	日本本土	二三	羊皮（同）	日本本土	二三	獺皮（同）	日本本土
二	豚	日本本土	二	牛	日本本土	二四	羊皮	日本本土	二四	毛皮	日本本土
二	犬	日本本土	二	馬	日本本土	二五	獺皮	日本本土	二五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二六	獺皮	日本本土	二六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二七	獺皮	日本本土	二七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二八	獺皮	日本本土	二八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二九	獺皮	日本本土	二九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	三〇	獺皮	日本本土	三〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	三一	獺皮	日本本土	三一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	三二	獺皮	日本本土	三二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	三三	獺皮	日本本土	三三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	三四	獺皮	日本本土	三四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	三五	獺皮	日本本土	三五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	三六	獺皮	日本本土	三六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	三七	獺皮	日本本土	三七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	三八	獺皮	日本本土	三八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	三九	獺皮	日本本土	三九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	四〇	獺皮	日本本土	四〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	四一	獺皮	日本本土	四一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	四二	獺皮	日本本土	四二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	四三	獺皮	日本本土	四三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	四四	獺皮	日本本土	四四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	四五	獺皮	日本本土	四五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	四六	獺皮	日本本土	四六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	四七	獺皮	日本本土	四七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	四八	獺皮	日本本土	四八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	四九	獺皮	日本本土	四九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	五〇	獺皮	日本本土	五〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	五一	獺皮	日本本土	五一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	五二	獺皮	日本本土	五二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	五三	獺皮	日本本土	五三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	五四	獺皮	日本本土	五四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	五五	獺皮	日本本土	五五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	五六	獺皮	日本本土	五六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	五七	獺皮	日本本土	五七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	五八	獺皮	日本本土	五八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	五九	獺皮	日本本土	五九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	六〇	獺皮	日本本土	六〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	六一	獺皮	日本本土	六一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	六二	獺皮	日本本土	六二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	六三	獺皮	日本本土	六三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	六四	獺皮	日本本土	六四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	六五	獺皮	日本本土	六五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	六六	獺皮	日本本土	六六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	六七	獺皮	日本本土	六七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	六八	獺皮	日本本土	六八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	六九	獺皮	日本本土	六九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	七〇	獺皮	日本本土	七〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	七一	獺皮	日本本土	七一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	七二	獺皮	日本本土	七二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	七三	獺皮	日本本土	七三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	七四	獺皮	日本本土	七四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	七五	獺皮	日本本土	七五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	七六	獺皮	日本本土	七六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	七七	獺皮	日本本土	七七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	七八	獺皮	日本本土	七八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	七九	獺皮	日本本土	七九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	八〇	獺皮	日本本土	八〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	八一	獺皮	日本本土	八一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	八二	獺皮	日本本土	八二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	八三	獺皮	日本本土	八三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	八四	獺皮	日本本土	八四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	八五	獺皮	日本本土	八五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	八六	獺皮	日本本土	八六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	八七	獺皮	日本本土	八七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	八八	獺皮	日本本土	八八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	八九	獺皮	日本本土	八九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	九〇	獺皮	日本本土	九〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	九一	獺皮	日本本土	九一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	九二	獺皮	日本本土	九二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	九三	獺皮	日本本土	九三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	九四	獺皮	日本本土	九四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	九五	獺皮	日本本土	九五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	九六	獺皮	日本本土	九六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	九七	獺皮	日本本土	九七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	九八	獺皮	日本本土	九八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	九九	獺皮	日本本土	九九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一〇〇	獺皮	日本本土	一〇〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一〇一	獺皮	日本本土	一〇一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一〇二	獺皮	日本本土	一〇二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一〇三	獺皮	日本本土	一〇三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一〇四	獺皮	日本本土	一〇四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一〇五	獺皮	日本本土	一〇五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一〇六	獺皮	日本本土	一〇六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一〇七	獺皮	日本本土	一〇七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一〇八	獺皮	日本本土	一〇八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一〇九	獺皮	日本本土	一〇九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一一〇	獺皮	日本本土	一一〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一一一	獺皮	日本本土	一一一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一一二	獺皮	日本本土	一一二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一一三	獺皮	日本本土	一一三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一一四	獺皮	日本本土	一一四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一一五	獺皮	日本本土	一一五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一一六	獺皮	日本本土	一一六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一一七	獺皮	日本本土	一一七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一一八	獺皮	日本本土	一一八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一一九	獺皮	日本本土	一一九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一二〇	獺皮	日本本土	一二〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一二一	獺皮	日本本土	一二一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一二二	獺皮	日本本土	一二二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一二三	獺皮	日本本土	一二三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一二四	獺皮	日本本土	一二四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一二五	獺皮	日本本土	一二五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一二六	獺皮	日本本土	一二六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一二七	獺皮	日本本土	一二七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一二八	獺皮	日本本土	一二八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一二九	獺皮	日本本土	一二九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一三〇	獺皮	日本本土	一三〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一三一	獺皮	日本本土	一三一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一三二	獺皮	日本本土	一三二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一三三	獺皮	日本本土	一三三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一三四	獺皮	日本本土	一三四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一三五	獺皮	日本本土	一三五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一三六	獺皮	日本本土	一三六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一三七	獺皮	日本本土	一三七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一三八	獺皮	日本本土	一三八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一三九	獺皮	日本本土	一三九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一四〇	獺皮	日本本土	一四〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一四一	獺皮	日本本土	一四一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一四二	獺皮	日本本土	一四二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一四三	獺皮	日本本土	一四三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一四四	獺皮	日本本土	一四四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一四五	獺皮	日本本土	一四五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一四六	獺皮	日本本土	一四六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一四七	獺皮	日本本土	一四七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一四八	獺皮	日本本土	一四八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一四九	獺皮	日本本土	一四九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一五〇	獺皮	日本本土	一五〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一五一	獺皮	日本本土	一五一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一五二	獺皮	日本本土	一五二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一五三	獺皮	日本本土	一五三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一五四	獺皮	日本本土	一五四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一五五	獺皮	日本本土	一五五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一五六	獺皮	日本本土	一五六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一五七	獺皮	日本本土	一五七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一五八	獺皮	日本本土	一五八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一五九	獺皮	日本本土	一五九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一六〇	獺皮	日本本土	一六〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一六一	獺皮	日本本土	一六一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一六二	獺皮	日本本土	一六二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一六三	獺皮	日本本土	一六三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一六四	獺皮	日本本土	一六四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一六五	獺皮	日本本土	一六五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一六六	獺皮	日本本土	一六六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一六七	獺皮	日本本土	一六七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一六八	獺皮	日本本土	一六八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一六九	獺皮	日本本土	一六九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一七〇	獺皮	日本本土	一七〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一七一	獺皮	日本本土	一七一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一七二	獺皮	日本本土	一七二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一七三	獺皮	日本本土	一七三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一七四	獺皮	日本本土	一七四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一七五	獺皮	日本本土	一七五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一七六	獺皮	日本本土	一七六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一七七	獺皮	日本本土	一七七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一七八	獺皮	日本本土	一七八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一七九	獺皮	日本本土	一七九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一八〇	獺皮	日本本土	一八〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一八一	獺皮	日本本土	一八一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一八二	獺皮	日本本土	一八二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一八三	獺皮	日本本土	一八三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一八四	獺皮	日本本土	一八四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一八五	獺皮	日本本土	一八五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一八六	獺皮	日本本土	一八六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一八七	獺皮	日本本土	一八七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一八八	獺皮	日本本土	一八八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一八九	獺皮	日本本土	一八九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一九〇	獺皮	日本本土	一九〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一九一	獺皮	日本本土	一九一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一九二	獺皮	日本本土	一九二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一九三	獺皮	日本本土	一九三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一九四	獺皮	日本本土	一九四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一九五	獺皮	日本本土	一九五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一九六	獺皮	日本本土	一九六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一九七	獺皮	日本本土	一九七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一九八	獺皮	日本本土	一九八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	一九九	獺皮	日本本土	一九九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二〇〇	獺皮	日本本土	二〇〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二〇一	獺皮	日本本土	二〇一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二〇二	獺皮	日本本土	二〇二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二〇三	獺皮	日本本土	二〇三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二〇四	獺皮	日本本土	二〇四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二〇五	獺皮	日本本土	二〇五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二〇六	獺皮	日本本土	二〇六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二〇七	獺皮	日本本土	二〇七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二〇八	獺皮	日本本土	二〇八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二〇九	獺皮	日本本土	二〇九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二一〇	獺皮	日本本土	二一〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二一一	獺皮	日本本土	二一一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二一二	獺皮	日本本土	二一二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二一三	獺皮	日本本土	二一三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二一四	獺皮	日本本土	二一四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二一五	獺皮	日本本土	二一五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二一六	獺皮	日本本土	二一六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二一七	獺皮	日本本土	二一七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二一八	獺皮	日本本土	二一八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二一九	獺皮	日本本土	二一九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二二〇	獺皮	日本本土	二二〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二二一	獺皮	日本本土	二二一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二二二	獺皮	日本本土	二二二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二二三	獺皮	日本本土	二二三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二二四	獺皮	日本本土	二二四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二二五	獺皮	日本本土	二二五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二二六	獺皮	日本本土	二二六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二二七	獺皮	日本本土	二二七	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二二八	獺皮	日本本土	二二八	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二二九	獺皮	日本本土	二二九	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二三〇	獺皮	日本本土	二三〇	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二三一	獺皮	日本本土	二三一	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二三二	獺皮	日本本土	二三二	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二三三	獺皮	日本本土	二三三	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二三四	獺皮	日本本土	二三四	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二三五	獺皮	日本本土	二三五	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二三六	獺皮	日本本土	二三六	獺皮	日本本土
二	獺	日本本土	二	獺	日本本土	二三七	獺皮	日本本土	二三七	獺皮

| | | |

六五	鐵	日本本土	計	英	米	關東州	朝鮮	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	香港	關東州	日本本土	計	香港	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土
六四	鉛	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	香港	關東州	日本本土	計	香港	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土
六五	鉛	日本本土	計	英	米	關東州	朝鮮	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土
六六	鉛及古鋼	日本本土	計	英	米	關東州	朝鮮	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土
六七	鉛（鉛及鉛）	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計
六八	其他の雜子類	日本本土	計	英	米	關東州	朝鮮	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土
六九	其他の金屬品	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計
七〇	其他の雜子類	日本本土	計	英	米	關東州	朝鮮	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計

七一	羊毛	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計
七二	山羊皮	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計
七三	駝毛	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計
七四	羊毛	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計
七五	毛黃	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計	英	米	關東州	日本本土	計

土、砂	日本本土	三、六三三	三、六三三
其他の土、砂及石製品	關東州	一、七三五	一、六九六
	米國	一、一四四	一、〇一〇
	英國	一、〇一八	一、〇一七
	香港	二〇〇	一、一五六
	其他	一、八八三	一、五五八
	計	一、八八三	一、五五八
鹽	日本本土	二	一
	計	二	一
諸書籍	關東州	一、六一一	一
	香港	一、三五一	一、一四一
	米國	一、三五一	一、一四一
	波蘭	一、三五一	一、一四一
	其他	一、三五一	一、一四一
	計	一、三五一	一、一四一
麥稈眞田	日本本土	一、三九一	一、〇一〇
	獨逸國	一、三八一	一、〇一〇
	佛蘭西	一、三〇六	一、一三一
	其他	一、六六五	一、五五五
	計	一、八一二	一、一六一
	日本本土	二、一九二	二、〇三〇
	關東州	二、一九二	二、〇三〇
	米國	二、一九二	二、〇三〇

九月中青島輸出入貿易（單位噸）

輸出	麻子	二、七六六、三	
	落花生	二〇一、六	
	輪	五八一、〇	
	落花生粕	三五八、〇	
	葉煙草	一一、七六八、九	
	鮮果	三七八、四	
	蔬菜	四七、九	
	牛肉	二二二、六	
	豐	二二、五〇〇、〇	
	ピール	八九七、八	
	棉花	二、五四六、六	
	絲類	四三、八	
	麥稈	一〇五、六	
	獸骨	二四一、九	
	牛脂	二一、三	
	落花生油	一、五一六、七	
	桐木	三五、五	
	鷄卵	—	
	石炭	—	
	鐵鋼	—	
	其他の鑛石	五〇六、七	
	その他	八、六二七、二	
	合計	五三、三六七、八	
輸入	麵粉	五七二、四	
	高粱	〇、三	
	米	一、四二三、二	
	麥	一四九、七	
	粗糖	五一三、二	
	精糖	三七二、五	
	茶	五二九、六	
	海藻類	二三〇、四	
	海產物類	四六五、八	
	其他海產物類	二九八、五	
	酒	一〇七、六	
	棉花	一、三七九、五	
	絲	八四八、三	
	綿布	一一三、三	
	麻袋	六〇八、五	
	繩類	七四、三	
	蓆	九一〇、六	
	染料		
	化學藥品		

兵骨董品	英國	八〇	
	佛蘭西	一、七七	
	香港	一、九六	
	其他	六〇	
	計	五、三三	
七アンペラ	日本本土	三、八二	二、三五
	關東州	一	九一
	朝鮮	一、一四一	二
	米國	一、一四一	二
	香港	一、一四一	二
	其他	一、一四一	二
	計	一、一四一	二
以上重要七七商品の輸出價額合計		二二、六六六、四八	九、一九一
內譯			
日本への輸出額		六三、〇九三、三八	二、〇六〇
關東州への輸出額		四、六六二、九	六二九
臺灣への輸出額		九二	六六
朝鮮への輸出額		四、七一一	三六〇
以上七七品以外の輸出額合計		二、三三三	三、三三七
自一月至八月輸出價額總計		二七、九二一	九、七六八
		昭和二三年度 一月—八月	昭和二三年度 一月—八月

竹類	四〇・〇
木材類	一六、三八七・〇
繒材類	
石油	三五〇・〇
その他の油	六〇三・五
マッチ材料	一、二一四・八
支那紙	二、一三八・六
其他の紙類	一、三九八・五
ガラス製品	九〇四・一
木炭	四六六・四
石炭	一五〇・一
セメント	二、八五〇・四
鐵及古鐵	一六九・三
機械類	五、九七六・二
金屬製品	九六三・九
その他	一三、五四七・二
合計	五五、七五七・七

なほ仕出地別並びに仕向地別噸數は次の通り。

輸出	
日本	二四、九五八・四
朝鮮	七、七二四・三
滿洲	七、五三〇・一
支那	一一、四六七・一
外國	一、六八七・九

輸入	
日本	三四、五三八・四
朝鮮	三、八六九・〇
臺灣	五、三五一・七
滿洲	一一、八八四・五
支那	一一四・一
外國	

青島港上半期貿易

青島港の對外貿易は六月に入つてから果然好轉、同月中の輸入三、三四七、六四五元に對し輸出五、八四九、五二七元で出超二、五〇一、八八二元を示し輸出入合計九、一九七、一七二元は前年同期一一、九三五、六五九元に比し二割三分の減少である。同月中の沿岸貿易は移入四、五一四、七三五元に對して移出三、一四一、九八三元、移出入計七、六五六、七一八元は前年同期一四、七二六、七〇〇元に比し約四割八分の減少である。而して上半期に於ける累計は次の如し。

一九三八年上半期青島港輸移出入統計

	本年上半期	前年同期	比較
輸入	七、三三六、三九七元	三一、八〇〇、〇八〇元	減 二四、四六三、四八三元
輸出	八、二七六、九八三	四二、七三二、〇二四	減 三四、四七五、〇四一
計	一五、六一三、三八〇	七四、五三二、一〇四	減 五八、九三八、五二四
出超	九四〇、三八六	一〇、九三一、九四四	減 一〇、〇〇一、五五八
移入	七、三七四、九三〇	二一、三六四、二三六	減 一七、九八九、三二六
移出	二、三、三八七、九四一	六〇、三二八、七一二	減 四七、一四〇、七七一
計	二〇、七六二、八七一	八五、八九二、九六八	減 六五、一三〇、九七

即ち上半期における輸出入額は前年同期に比し夫々八割内外の激減であるが、輸入七、三三六、五九七元に比し輸出八、二七六、九八三元で九四〇、三八六元の出超を示してゐる。之は四月十日までの無稅品推定約一千萬圓が計上されてゐないから實際は入超である。

九月中青島對日輸出入貿易 日本、青島九月中輸出入貿易は

輸入	一六、五一三トン
輸出	五、六六六トン

で未だ輸出最盛期に至らず輸入のみ旺盛の片貿易たるを免れぬ。

青島邦人貿易不振 青島の邦人貿易商は青島復歸後爲替關係に鞏ひされて對外的商戰不振に陷り舊法幣の第三國向對外爲替安を利用する外華商のために不利の地にあり僅かに對日輸出に活路を見出しつゝあるがこれとても輸出許可證の下附意に任せず事變前の取引に比すれば總體的に見て二分の一內外の閑散振りで今春復歸以來九月上旬までの對日輸出高は左の如くである。

棉花	五、〇〇〇、〇〇〇圓
落花生	二、〇〇〇、〇〇〇圓
鹽	二、〇〇〇、〇〇〇圓
ゴマ	五〇、〇〇〇圓

昭和十三年九月日本對滿支貿易 (單位千圓)

＝對滿洲國、關東州、中華民國、香港＝

九月出超	六三、二八〇
前年同期出超	四六、五〇一
一月以降出超	三九七、九九九
前年同期出超	二六九、四一九

	九月	前年同期	增減	歩合(%)
輸出	九四、六〇〇	六九、三二〇	二六、二六〇	四一
輸入	三四、三二〇	三二、八一九	一、五〇一	五〇
計	一三二、九二〇	九二、一三九	三九、七八一	四三

對朝鮮貿易の躍進

支那の對朝鮮貿易は事變を轉機として輸出入の比例において貿易品目において顯著な飛躍を示すに至つた。

	輸入	輸出	合計
昭和十年	三、三二二	一六、四四八	一九、七六〇
同十一年	三、七〇二	一五、一四八	一八、八五〇
同十二年	四、八四二	一〇、三五七	一五、二〇九
同十三年	七、〇四八	六、六八八	一三、七三六

(十三年度は一月—六月の半年)

このうち十萬圓を超過する輸入品目は米、小麥粉、仁參、人絹織物、綿布、墨魚、木材、諸海產物等で一方十萬圓を超過する輸出品目は栗、小豆、胡麻子、香椒、天日鹽、葉煙草、綿糸、麻布、石炭となつてをり昭和十三年一月—六月間の百十一種の輸出入品目中一萬圓以上の輸入品は(單位千圓)

米	六五七
小麥粉	七五
諸海產物	七一六
精油	四九九
ビール	二〇八
紙卷煙草	五三〇
其他煙草	七七
林產	三二
麻袋	一四
鐵	二一〇
紅參	二三九
綿織物	二九三
セメント	一六〇
木材	一九六
人絹織物	六八
紙類	二一
機械類	二六
軍刀	一〇

合計七百四萬八千三百二十五圓、このうち北支に關する部分を揭ぐれば

山東省からの輸入	五二三、八〇五圓
河北省からの輸入	五、五三八、五二二圓
其他支那からの輸入	九八五、九九八圓

となり更にまた一萬圓以上の輸出品目は(單位千圓)

胡麻子	一七六	牛皮	三三
農產物	一六	綿織物	五、二一四
天日鹽	五八六	コークス	二〇二
硫子板	四七二		

でこのうち北支向けに關する部分は次の如し。

山東省へ輸出	七〇四、一八〇圓
河北省へ輸出	五、七六九、三一四圓
其他支那へ輸出	二一四、五九九圓

すなはち以上の數字に見る如く支那の對鮮貿易は本年上半期間においてすでに昨年度全年貿易に接近し而も本年の對河北省貿易は輸入において約八割、輸出の如きは殆んど九割を占めてゐる。なほ本年に入り對鮮貿易は漸增を示しつゝある主要商品は次ぎの如くである。

△輸入の部

精米、清酒、ビール、紙卷煙草、鐵道、洗濯石鹼、玉蜀黍、綿織物、セメント、機械類、マッチ

△輸出の部

胡麻子、天日鹽、農產種子、綿糸、コークス

冀東貿易の廢止

冀東領域に或は特殊貿易、或は國民政府のいはゆる密貿易の名を以て行はれてゐた冀東貿易は當時の冀東防共自治政府の命令により一月二十日限り廢止され昭和十一年十二月二十五日以來約二箇年に及ぶ歷史を閉ぢた。先之昨年北支新政權成立の翌十二月十五日早くも天津、秦皇島海關が接收され財政的基礎も固まりまた北支新政權の新關稅發表前日を期して解消されたもので同月二十日以前の船積證明あるもので同月三十日までに秦皇島、北戴河、昌黎の各港に到着するものに對しては從來通り冀東治海輸入貨物檢査比率表所定の稅率が適用され天津の冀東貿易輸入組合も同月末を以て解散した。なほ冀東貿易の外貨を見るに足る冀東經由の天津站行き貨物の數量は左の如し。(單位噸)

	不明
一月	五、九〇〇
二月	一〇、〇〇〇
三月	一一、〇〇〇
四月	一〇、〇〇〇
五月	五、二二七
六月	四、〇一二
七月	一二六
八月	一、二〇八
九月	二、九九三
十月	五、六五四
十一月	七、〇九〇
十二月	

なほその金額は三億圓と推定されこれから徵收された關稅收入は大體一千萬圓內外である。

三八清財王孔三　鹿愛　品　伊江金玉社学蔵大酒
計　脇　岡　月　重生堂

光馬峰神子雀鼎　虎魚　岡　計　鹿　南　厚　福　幸　豊　昌　慶　成

（二）

綿糸移出統計表（昨夏は凡て原産に依る）

月	岡	月	岡
一月	一一一二二一一一一	一月	一一一一一一一一一
二月	一一一一一一一一一	二月	一一一一一一一一一
三月	一一一一一一一一一	三月	一一一一一一一一一
四月	一一一一一一一一一	四月	一一一一一一一一一
五月	一一一一一一一一一	五月	一一一一一一一一一
六月	一一一一一一一一一	六月	一一一一一一一一一
七月	一一一一一一一一一	七月	一一一一一一一一一
八月	一一一一一一一一一	八月	一一一一一一一一一
計	三六〇一三六三一三〇一三五	計	六三〇一三六三一三〇一三五

（二）

綿糸移出統計表（昨夏は凡て原産に依る）

月	岡	月	岡
一月	一一一一一一一一一	一月	一一一一一一一一一
二月	一一一一一一一一一	二月	一一一一一一一一一
三月	一一一一一一一一一	三月	一一一一一一一一一
四月	一一一一一一一一一	四月	一一一一一一一一一
五月	一一一一一一一一一	五月	一一一一一一一一一
六月	一一一一一一一一一	六月	一一一一一一一一一
七月	一一一一一一一一一	七月	一一一一一一一一一
八月	一一一一一一一一一	八月	一一一一一一一一一
計	六三〇一三六三一三〇一三五	計	六三〇一三六三一三〇一三五

玉泉館源洪金鶴通永碑東泰永大人華天余鶴頭慶　店
生康　豊　順業豊　康　和　成豊增　岡

碑樹順盛昌徳造樹恒裕業豊徳生樹新樹厚碑康生

（二）

綿糸移出統計表（昨夏は凡て原産に依る）

月	岡	月	岡
一月	一一一一一一一一一	一月	一一一一一一一一一
二月	一一一一一一一一一	二月	一一一一一一一一一
三月	一一一一一一一一一	三月	一一一一一一一一一
四月	一一一一一一一一一	四月	一一一一一一一一一
五月	一一一一一一一一一	五月	一一一一一一一一一
六月	一一一一一一一一一	六月	一一一一一一一一一
七月	一一一一一一一一一	七月	一一一一一一一一一
八月	一一一一一一一一一	八月	一一一一一一一一一
計	六三〇一三六三一三〇一三五	計	六三〇一三六三一三〇一三五

三八淋巴腺膏三瓶大八寶膏立　休憩三三十八　品　　繼

計　　期　月

別	計	來
一月	一一一三六三〇	一一一三六三〇
二月	一一一三三一八	一一一三三一八
三月	一一一三三一一	一一一三三一一
四月	一一一三三一一	一一一三三一一
五月	一一一三三一一	一一一三三一一
六月	一一一三三一一	一一一三三一一
七月	一一一三三一一	一一一三三一一
八月	一一一三三一一	一一一三三一一
計	一一一三三一一	一一一三三一一

（三）　　計

（注意は月で頭数に依る）

＝天幕日本赤十字社＝

＝天幕日本赤十字社＝

大正地得廣報十五　　三八天秤八

平壤淋巴腺膏休日賣五三三八天秤八

計

彰

馬仔眞珠馬尾女光塔星用光馬琴鳴仙　惡虎球和星寶全島

表　賣

種	蕎麦大粟三	仙水量八斗三日十粟
	計	

品目	三大王	計
別	月	量
別	松蕎子	計
風光	三一〇〇	四
	三一〇〇	一
	一一一一	月
	一一一一	二
	一一一一	月
	一一一一	三
	一一一一	月
	一一一一	四
	一一一一	月
	一一一一	五
	一一一一	月
	一一一一	六
	一一一一	月
	一一一一	七
	一一一一	月
	一一一一	八
	一一一一	月
計	四一九	三五

種	蕎大粟三	仙水量八斗三日十粟
	計	

別	風	蕎子松	柿月年統計松光全子
四	一一一一	一一一一	一一一一
一	一一一一	一一一一	一一一一
月	一一一一	一一一一	一一一一
二	一一一一	一一一一	一一一一
月	一一一一	一一一一	一一一一
三	一一一一	一一一一	一一一一
月	一一一一	一一一一	一一一一
四	一一一一	一一一一	一一一一
月	一一一一	一一一一	一一一一
五	一一一一	一一一一	一一一一
月	一一一一	一一一一	一一一一
六	一一一一	一一一一	一一一一
月	一一一一	一一一一	一一一一
七	一一一一	一一一一	一一一一
月	一一一一	一一一一	一一一一
八	一一一一	一一一一	一一一一
月	一一一一	一一一一	一一一一
計	一一一一	一一一一	一一一一

彩日　織

株式大織永東糸屋商業株　加又日江伊東　店

月	綿	絹	計
一月	一一一	一一一	一一一
二月	一一一	一一一	一一一
三月	一一一	一一一	一一一
四月	一一一	一一一	一一一
五月	一一一	一一一	一一一
六月	一一一	一一一	一一一
七月	一一一	一一一	一一一
八月	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一

（二）計　東光

綿糸移入統計表

（註）數量は凡て瓦数に依る（＝天津日本紡糸布同業組合調査＝

月	綿	絹	計
一月	一一一	一一一	一一一
二月	一一一	一一一	一一一
三月	一一一	一一一	一一一
四月	一一一	一一一	一一一
五月	一一一	一一一	一一一
六月	一一一	一一一	一一一
七月	一一一	一一一	一一一
八月	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一

彩日　大織織大永東　仙木東織五三永織織　八　品

月	綿	絹	計
一月	一一一	一一一	一一一
二月	一一一	一一一	一一一
三月	一一一	一一一	一一一
四月	一一一	一一一	一一一
五月	一一一	一一一	一一一
六月	一一一	一一一	一一一
七月	一一一	一一一	一一一
八月	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一

（五）計　東光

綿糸移入統計表

（註）數量は凡て瓦数に依る（＝天津日本紡糸布同業組合調査＝

月	綿	絹	計
一月	一一一	一一一	一一一
二月	一一一	一一一	一一一
三月	一一一	一一一	一一一
四月	一一一	一一一	一一一
五月	一一一	一一一	一一一
六月	一一一	一一一	一一一
七月	一一一	一一一	一一一
八月	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一

無　魚使日球圖數　品　　絹　共義慶瑞冲忠孚同慶願華金

計　地　脂　別　月　　德　義　金　量

印　慶球光鶴虎青　大　二　計他慶成記記成量員員康新鎮

公S　四S　一月　二月　三月　四月　五月　六月　七月　八月　計

綿糸移入統計表（註數量は見て原表に依る＝天津日本綿糸布同業組合調査＝）

一月	一	一	一	一	一	一	一	一
二月	一	一	一	一	一	一	一	一
三月	一	一	一	一	一	一	一	一
四月	一	一	一	一	一	一	一	一
五月	一	一	一	一	一	一	一	一
六月	一	一	一	一	一	一	一	一
七月	一	一	一	一	一	一	一	一
八月	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

賣目畫像　三日八時蓋畫賣目　品　　蘭　仙日日仙　蓋目

計　　蘭　　月　　月　　計

別　　(四)　計　桃　光　光　桃　　桃　光

地　光　桃　梁　子　桃　梁　光　　絹糸移入統計表　　三〇年　三〇年　三〇年

三〇年　　一　月　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一

一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　一　

月別	日數	立日數	雨水	日數	仙人	日數	賣	仙人	日數	賣	水
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一

品別	月	日數	白日	三仙	賣水	日數	仙人	日賣	賣	仙人
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計		一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一

(五)

月別	計	雨光	馬祐	鶴鳳	月	光球	蓮	光鳳	光	祐鶴
一月	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
二月	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
三月	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
四月	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
五月	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
六月	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
七月	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
八月	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
計	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一

(注)賣水は凡て賣使に依る
(注)天神日本橋糸市同業組合調査

東京織物株式會社　東京毛織株式會社　東京毛織株式會社　東京毛織

田舗新愛鶴山倉他旭鶴鶴深屋鶴三大局日藍金世界神三夏

月　天
鶴　美　鶴鶴　美　業　業
N　業

島馬犬鶴　羊布　　人藍布布G区業人光屋鶴馬犬子藍人

一一一

他工場原花絞花色唐縮色花毛巾　本場仕田屋三人織課

品目	組織	綿糸	計
晒	組織	綿糸	計
寶			
綾絞斜斜布	晒斜織布	綾織布	他

月	綿糸	計
一月	一一一

三江武南伊岡他加日三人　品　月　絹　綿　計量　雇

夫	月	人造絹糸輸入統計表（註數量は見て原表に依る）	量綿川頭利	信附津
菱商寿信康昌	藤信井糸			
	一月			
	二月			
	三月			
	四月			
	五月			
	六月	＝天津月末輸糸布同業組合調査＝		
	七月			
	八月			
	計			

又武三泉江中山恰和恰商茂三増伊泰三鐘店　品　月　綿　計

夫	月	毛糸輸入統計表（註數量は見て原表に依る）	計
一寿信松商和王詳信信田泰井田藤信信泰頭			
	一月		
	二月		
	三月		
	四月		
	五月		
	六月	＝天津月末輸糸布同業組合調査＝	
	七月		
	八月		
	計		

兼增丸象增江田武又田伊日商米加　店　綿　問伊藤

月	大(一)	計	目標米
一月	一一一

月次	生地綿布移出統計表（註數量は凡て磅に依る＝天津日本綿糸布同業組合調査＝）												
一月	三五〇九	三五七七	三五八三	八八三五	二二七一	三三一一	二七一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
二月	三五一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
三月	一四三一	九九三一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
四月	三三〇六	九九七一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
五月	三三〇〇	三六三一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
六月	一四三八	三五一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
七月	一三一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
八月	三一一一	三三一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
計	八八三六	八九七三	三三一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一

月次	造糸綿布移輸入統計表（註數量は凡て磅に依る＝天津日本綿糸布同業組合調査＝）												
一月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
二月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
三月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
四月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
五月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
六月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
七月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
八月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
計	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一

月次	綿糸布輸入統計表												
一月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
二月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
三月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
四月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
五月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
六月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
七月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
八月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
計	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一

月次	綿布輸入統計表												
一月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
二月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
三月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
四月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
五月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
六月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
七月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
八月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
計	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一

月次	綿糸輸入統計表												
一月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
二月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
三月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
四月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
五月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
六月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
七月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
八月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
計	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一

月次	綿糸輸入統計表												
一月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
二月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
三月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
四月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
五月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
六月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
七月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
八月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
計	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一

月次	綿糸布輸入統計表												
一月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
二月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
三月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
四月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
五月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
六月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
七月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
八月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
計	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一

月次	綿糸布輸出統計表（註數量は凡て磅に依る＝天津日本綿糸布同業組合調査＝）												
一月	三五九七	三五七七	三五八三	八八三五	二二七一	三三一一	二七一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
二月	三五一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
三月	一四三一	九九三一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
四月	三三〇六	九九七一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
五月	三三〇〇	三六三一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
六月	一四三八	三五一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
七月	一三一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
八月	三一一一	三三一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
計	八八三六	八九七三	三三一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一

月次	綿糸輸出統計表												
一月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
二月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
三月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
四月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
五月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
六月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
七月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
八月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
計	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一

月次	綿糸輸出統計表												
一月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
二月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
三月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
四月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
五月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
六月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
七月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
八月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
計	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一

月次	綿糸布輸出統計表												
一月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
二月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
三月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
四月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
五月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
六月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
七月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
八月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
計	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一

月次	綿糸輸出統計表												
一月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
二月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
三月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
四月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
五月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
六月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
七月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
八月	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一
計	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一	一一一一

東京市電株式會社三崎停車場開業日算三愛花五勝補助

品目	月	賣	買
計	總額	八	株

大布布袋鉄道株式會社門司光榮舟運船運光車布

(一)生糸輸出統計表

月	數量	價格
一	一三一一一

監廣慶　他加日東江又伊　店　總　他處原組織加盟組

昌群生　廣信棉商一廠　計　總　計　車布布鈔車鈔布

生地綿布移入統計表（註數量以兩為原位に依る）

（二）

＝天津日本綿糸布同業組合調査＝

月次	計	昌群生	廣信棉商一廠	他加日東江又伊	監廣慶	他處原組織加盟組	總計	車布布鈔車鈔布
一月	一	一	一	一	一	一	一	一
二月	今三四	今三四	一	一	一	一	今三四	一
三月	一〇四二	一〇四二	一	一	一	一	一〇四二	一
四月	一〇一〇	一〇一〇	一	一	一	一	一〇一〇	一
五月	三六三	三六三	一	一	一	一	三六三	一
六月	七四三	七四三	一	一	一	一	七四三	一
七月	九四六	九四六	一	一	一	一	九四六	一
八月	八一七二	八一七二	一	一	一	一	八一七二	一
計	三三四六四	三三四六四	一	一	一	一	三三四六四	一

仙忠信文大生蛛孚敎繪仙忠頤蛛兼大永隆同東怡元譜菜蠟

滿源　陵　義　廣　益　辭廣

盛盛盛謂記昌豐隆昌　成廣群豐生福順昌萊豐隆益增遠

| | | |

織物業者　仙頭合資會社日出牛花漂白場五萬三千坪砂糖加工

計　細細只　　雨　宋人　　使
　　　　　　　　　　　集

織物業者　布布賣光門頭島倉島人神藤藤頭賣球島日魚

一一一

品別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	計
五福集群									
花鳥魚人畜頭									
玉一									
雙軍叭									
喇叭									
龍									
計									
總計	一、四九六	一、三二一	八、四〇〇	一、三五一	一、〇九〇	一、三五一	一、〇五一	一、三五一	一、四九六

(三) 生地綿布移入統計表 (註數量は凡て原俵に依る)

=天津日本綿糸布同業組合調査=

品別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	計
華貢呢綿貢									
色貢呢綿貢									
華貢緞布									
色貢緞布									
四ッ綾									
粗綾									
染布									
毛綾									
計									
色嗶									
色剪絨									
粗斜絨									
花斜絨									

品別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	計
色細斜絨									
色細斜絨									
計									
色嗶									
色布									
粗三鼎									
三馬頭									
牛馬頭									
單馬頭									
五馬頭									
粗布									
仙									
計									
粗斜									
色斜									
計									
總計	二六九	二九二三	二九五	二五一	二五一	二五一	二五一	二五一	二五一

天津上海貿易に正金信用狀發行 事變以來杜絶してゐた天津上海の移出入貿易は最近上海方面の治安恢復海上輸送の復活により上海からは麥粉、米、綿布等が天津向け、天津からは紡績用棉花が上海向け夫々積出さるゝに至り中北支間の貿易も漸次軌道に立返らんとしてゐるがこれまで邦人業者の憂みは兩地間に爲替決濟が出來なかつたことで當局に於ても考慮中であつたところ五月中正金銀行では國價による決濟を條件として一萬圓以下のものは自由に、一萬圓以上のものは內地當局の承認を要することゝし信用狀の發行を開始した。

密輸取締領事館令 在天津日本總領事館では六月一日附館令を以て左の如き密輸取締規則を公布即日實施した。

密輸取締規則

第一條　左の各號の一、二に該當する者は五十圓以下の罰金又は拘留若くは科料に處す

一、中國關稅の逋脫を圖り又は關稅を逋脫したる者

二、帝國政府の認むる中國海關規定に於て其の輸出輸入、移出若くは移入を禁止し又は之が爲一定の手續を規定する貨物を該規則に違反して輸出し、輸入し移出し若くは移入し又は其の輸出、輸入、移出若くは移入を圖りたる者

三、前二號の違反行爲に係る貨物を故を知りて運搬寄藏、收受販賣又は牙保を爲したる者

第二條　前條に規定したる違反行爲を教唆し又は幇助したる者は之を罰す

但し情狀に依り其の刑を輕減又は免除することを得

附　則

本令は公布の日より施行す

圓ブロック貿易旺盛　本年における日本の對滿支貿易は事變その他による海外市場の不振に反比例して異常な活況を呈し一月以降八月までの累計額は輸出七億一千七百萬圓輸入三億九千二百圓と前年同期に比し輸出は二億六百萬圓を增加し輸入は遂に二百萬圓の減少を示した。これを輸出入總額に對する割合に見れば輸出は三割三分三厘輸入は二割二分八厘を占め夫々の比重は後年に比し著しく重みを加へてゐる。從つて國際收支の立場からこれら圓ブロック向輸出入を除外した純粹の貿易尻を算出して見ると輸出は十一億三千四百萬圓輸入は十五億八千四百萬圓となり差引入超は四億五千萬圓となる同樣にして算出した昨年同期のそれば輸出十七億三千三百萬圓輸入二十七億三百萬圓差引入超九億七千萬圓であるがらその間入超額において五億二千萬圓の激減を示してゐるが圓ブロック向輸出入を加算した場合の本年（一月—八月）の入超額一億二千七百萬圓に比すれば三億二千七百萬圓だけ入超が增加することになる卽ちそれだけ表面の數字より國際收支が惡くなる勘定である。この事實から見ると圓ブロック向の輸出が增加したといふとは無條件に樂觀すべき現象ではなく寧ろ圓ブロック向以外の輸出が激減した事實こそより重大なる意義を持つのである。

圓ブロックへの輸出制限

邦品の有力なる輸出市場たりし北支及中支が圓ブロックに包括されて以來我國の國際收支の基調は一變したる爲め過般來當局により是等圓ブロック內への商品の輸出は外貨の獲得とならざるのみならず物資需給の逼迫を激成せる結果となるとの解釋で制限を受くるに至つた。爲に從來滿支向輸出商品の生產及び貿易に從事して居た業者、就中阪神地方の業者は大打擊を被り、業者の死活問題として制限緩和すべしとの議が起りつゝあつたが、八月二十三日大阪商工會議所、九月六日日本商工會議所に於て圓ブロック內輸出制限に關し左記の如き建議案を作成緩和要望することに決し大藏省に提出した。又東京貿業組合聯合會では重要商品の關係組合代表者八十餘名からなる輸出貿易振興對策委員會を設置九月七日企畫院、大藏省、日本銀行、商工省臨時物資調整局から係官が出席第一回協議會を開催したが業者よりの希望意見中圓ブロック地域に對する輸出制限緩和の切實な要望あり、漸く各關係方面に高まり來り當局の意向が注目せられて居る。

大阪商工會議所建議案　圓ブロックへの輸出制限は日滿支經濟提携の前途に一大支障を來す恐れあるのみならず滿支輸出雜貨貿易を生命とする大阪產業貿易界に及ぼす影響は甚大である。此の際圓ブロック內へ積極的に商品の輸出をなし、之が代價として一部分は支那金融市場に氾濫せる圓貨を吸收し、殘部に付いては海外輸入原料に代るべき原料材料を支那より輸入することが必要で、內地產又は滿支產原料を主として之に輸入原料又は使用制限品を僅少量使用せる商品は積極的にその輸出を促進せしむる樣適當に修正緩和せられんことを望む。

日本商工會議所建議案

一、圓ブロックへの輸出制限は却つて日滿支經濟提携の前途に一大支障を來す恐れあるのみならず滿支輸出雜貨貿易に及ぼす影響甚大なるものあり、今回の輸出制限を機とし最近支那內地に於て此の種の重工業の產出を見つつあり、一方歐米商品の輸入もまた增加し、我が商品市場を蠶食しつつあるの實狀にあり、斯くの如くんば將來日滿支三國間に同種工業の相剋摩擦を生じ延いては三國經濟ブロックの原則に反するのみならず廣大なる市場喪失の結果を招くに至るべし。

一、圓ブロック內にも積極的に商品の輸出をなし、之が代價として一部分は支那金融市場に氾濫せる圓貨を吸收し、殘部については海外輸入原料に代るべき原料材

料を支那より輸入せば、支那に於ける日本商の購買力の培養ともなり、又原料代の海外拂節約ともなり、恰も海外輸出による外貨獲得又は虛金獎勵による金塊蒐集と同じ效果を有し、更に進んで之が原料を利用し各國に輸出增加の機運を助長し得べし。

一、之を國內的に見れば、失業を防止し、平和產業の技能及び施設の活用となり、輸出品生產の實力活用ともなるを以て棉花、羊毛、鐵等の如き全原料を輸入に俟つ特殊品以外の各種商品例へば內地產原材料又は滿支產原材料を主とし、之に輸入原料又は制限品を僅少量使用する商品の如きは圓ブロック內と雖も積極的にその輸出を促進せしむるは非常時國策上寧ろ當を得たるものなりと信ず、依て此の際圓ブロックへの輸出制限を適當に修正緩和せられんことを望む。

右に對する當局の意向としては次の如き見地より大體緩和贊成の意向にして、緩和の限度につき何等か措置を行ふ必要を認め、物資並に爲替の狀態に應じ適宜の處置をなすべく考慮中の由である。

一、占據地への邦品輸出は長期經濟建設、商權確立の建前からも必要であり、特に中支に於ては圓紙幣インフレ對策としても考慮の要がある。

二、圓ブロック向輸出商品は國內原料によるものが多く、物資需給計畫上も或る程度の融通が可能である。

三、滿支より輸出用原料の輸入は夫れ丈け第三國への支拂節約となる故此の額の範圍內で對滿支輸出を許容しても差支へなきものと認めらる。

四、一部の支那人中には未だ多少の外貨を有し居る者もあり、特に中支は嚴密に言つて圓ブロック地域でなく輸出によつて外貨獲得は必ずしも不可能でなく、餘り極端な制限は第三國品の輸入を助長する懸念あり。

外國の本邦品北支輸入旺盛　本年夏以來外商による本邦品北支輸入が旺盛となり第三國向け再輸出される傾向が著しくなつた。右は舊法幣下落に起因するものでその手續は再輸出手形は外國銀行で八片に取組み取得せる法幣を中國聯銀勞減は日本紙幣に交換し これを以て日本よりの決濟を行ふものでこれを日本が第三國向け直接輸出する場合とを比較すると天津經由が約三割强、支那舊法幣が七片近く崩落する場合は約四割近くの利益となる。

從價稅輸出品評價一部改訂

さきに中國聯銀において外國爲替基金の設定並に北支

貿易輸出入リンク制採用に關する公表があつた通り愈々聯銀券を以て第三國貿易へ進出しうる途が拓れたがこれよりさき海關當局では七月一日決定の從價稅輸出品評價の一部を改訂、十月一日以降三箇月間施行する旨發表したが右評價表が七月一日發表分と異るものは左の通りである。

番號	品位	單位	十月一日以降評價	七月一日發表舊評價
二	豚毛	百キロ	一六九・〇〇元	一三七・〇〇
三	同	二吋もの四分の一	三三〇・〇〇	二四〇・〇〇
四	同	二分の一	六三三・〇〇	四四一・〇〇
五	同	五分の三	九九九・〇〇	八八八・〇〇
六	同	三吋もの	一、三四四・〇〇	一、〇五四・〇〇
七	同	四分の一	一、四八八・〇〇	一、〇九九・〇〇
八	同	二分の一	一、六二五・〇〇	一、五九三・〇〇
九	同	四分の三	一、八五四・〇〇	一、八三八・〇〇
一〇	同	四分の三	一、八四四・〇〇	二、〇八四・〇〇
一一	同	四吋もの	二、一〇八・〇〇	二、三七八・〇〇
一二	同	四分の一	二、二八八・〇〇	二、六四七・〇〇
一三	同	二分の一	二、三二七・〇〇	三、〇八四・〇〇
一四	同	四分の三	三、六七〇・〇〇	三、四三一・〇〇
一八	鬚毛	同（柔毛なし二〇—二五%羽毛を含む白色機械洗もの）	一三〇・〇〇	一六〇・〇〇
一九	鴨毛	（三〇%羽毛を含む白色半洗もの）	不申	一四一・〇〇
二〇	鴨毛	（二〇—二五%羽毛を含む灰色機械洗もの）	一一〇・〇〇	一三五・〇〇
二一	鴨毛	（二・五%羽毛を含む灰色半洗もの）	六六・〇〇	九〇・〇〇
二三	羽毛	百キロ（白色半洗もの）	九六・〇〇	三五・〇〇
二四	同	（白色不洗もの）	六〇・〇〇	三四・〇〇
二五	同	（混合半洗もの）	五二・〇〇	二一・〇〇
四八	馬毛	百キロ（結合もの）	七五・〇〇	五六・〇〇
四九	同	（馬尾毛未成製品）	三三〇・〇〇	三〇五・〇〇
五一	人毛	百キロ（五—一四吋もの）	一、四八・〇〇	一、三八・〇〇
五二	毛人	（八—一四吋もの）	一、六五・〇〇	一、四八・〇〇
五七	同	（屑毛）	六八・〇〇	五八・〇〇
七一	山羊毛	百キロ（撰別せざる黑色もの）	九〇・〇〇	七四・〇〇
七二	山羊毛	（撰別せざる白色のもの）	一八〇・〇〇	一六五・〇〇
七四	豚毛	（屑毛）	二五〇・〇〇	不申
七八	牛腸	（乾したるもの）	三六〇・〇〇	三三〇・〇〇
七九	豚腸一束	（鹽漬二六—三二ミリ長さ一二・五米一級品）	〇・三〇	〇・四五
八〇		（鹽漬三二ミリ以上、長さ一二・五米二級品）	〇・二六	〇・二五

八一 羊腸一束（鹽漬二一ミリ及び夫れ以上、長さ三一米一級品）	〇・五五	〇・五〇	二〇・〇〇
八三 羊腸一束（鹽漬短きもの、長さ三一米）	〇・二〇	〇・一八	一四・五〇
八四 仔牛腸 百キロ（鹽漬）	六五・〇〇	六〇・〇〇	一三〇・〇〇
八五 同（中級品鹽漬）	四五・〇〇	四〇・〇〇	二〇・〇〇
八六 同（鹽漬）	八五・〇〇	七〇・〇〇	二〇・〇〇
八七 山羊腸一束（鹽漬二十ミリ及び夫れ以上、長さ三一米二級品）	〇・五〇	〇・四五	一〇・〇〇
九〇 鷄卵加工品			
一、乾、百キロ			
蛋白	三三・〇〇	二六・〇〇	
蛋黄（粉狀）	二九・〇〇	二四・〇〇	
同（粒狀）	二五・〇〇	二〇・〇〇	
全卵（混合）	二五・〇〇	一八・〇〇	
二、濕及び凍（液狀）百キロ			
蛋黄（硼素處理のもの）	二四・〇〇	八三・〇〇	
蛋黄（一〇—一二％鹽、一—二硼酸）	九六・〇〇	五八・〇〇	
蛋黄（六—一二％、一％安息香酸）	一〇八・〇〇	七〇・〇〇	
蛋黄（一〇—一二％グリセリン）	二四六・〇〇	二〇六・〇〇	
九四 馬皮（柔さざるもの）百キロ			
九五 （驢皮柔さざるもの）百キロ	二四・〇〇	二〇・〇〇	
九六 麻黄（藥草）百キロ	一四五・〇〇	一三〇・〇〇	
九七 胡桃（殼付）百キロ	二四・〇〇	二〇・〇〇	
一〇四 駱駝毛（機械撰）百キロ	三二・〇〇	二〇・〇〇	
一等品	六〇〇・〇〇	五七二・〇〇	
二等品	四二〇・〇〇	三六〇・〇〇	
三等品	三三〇・〇〇	二七二・〇〇	
五〇—二〇—三〇組合せのもの	四八〇・〇〇	四〇四・〇〇	
一〇五 山羊絨毛（カシミア）百キロ 白色 機械節	六六〇・〇〇	五三〇・〇〇	
一〇六 山羊絨毛 灰色機械撰	四三〇・〇〇	三九八・〇〇	
三 番剪毛	一〇一・〇〇	九五・〇〇	

山東沿岸貿易一部許可　事變後青島、芝罘、威海衛以外はわが海軍の封鎖にて航行は遮斷されてゐたが治安の恢復に伴ひ十月四日以後右島および石臼所（但し石臼所を含まず）間の山東沿岸に對する汽船民船による物資交易を許可する旨海軍特務部で發表した。これによつて支那側民衆の蒙る福利は大きくさらに青島市内に退藏を餘儀なくされてゐた雜貨類も多數同方面に流出を見るべくなほこれに關し考慮されるのは舊法幣と禁制品密輸の問題とされたが海軍特務部當局ではこの點に就き各港に兌換所を設けて聯銀券と交換せしめ新紙幣普及の一石二鳥政策をとり禁制品に對しては嚴重な取締を行ふことになつてゐる。なほ該貿易に從事する船舶は必ず船舶聯合局に加入しその指示に從ひ運航するを要すると發表ありさらに十二月左の諸點につき布告された。

一、輪船、民船により入青するものにして舊法幣を所持するものに對しては船舶聯合局小港民船部内の中國聯合準備銀行出張所においてこれを兌換す。

二、輪船、民船にて入青するものにして正當な商業の目的をもつて携帶する金員は五百圓を超過するも船舶聯合局の證明を受くれば沒收せられることなし。

三、右證明を要する向きは入港後直ちに船舶聯合局小港民船部に至り該證明書の交附を受くべし。

支那向け綿品に統制命令　對支綿糸布輸出制限のため日本綿糸布東亞輸出組合はまづ國内取引關係を整理すべく六月二十日以降整理期間中綿織糸および綿織物の積止（輸出承認書の發給停止）を決議した。よつて商工省では同組合に屬さない非組合員の積出しに就いても輸出制限の主旨に鑑みこれを取締る必要を認め六月二十二日貿易

組合法第十八條による統制命令を發動した。

入超三千餘萬元　新民會中央指導部は最近華北一帶に厚生部員を派し華北物資流通情勢を調査中であつたが十月初旬現在天津在庫麵粉四百二十六萬一千九百六十九袋食糧一百六十八萬餘石で華北天津、青島、煙臺等其他全輸出額二億四千餘萬元、全輸入額二億七千餘元に達することが判明した。すなはち入超は三千餘萬元である。

魚類野菜輸出禁止解除　北支方面のコレラ猖獗に備へ滿洲國では北支の生魚貝類並に野菜果物の輸入一切を禁止してゐたが十月一日右禁止解除の旨が錦州省長から公布された。

綿羊毛並寒羊毛輸出禁止　北支臨時政府では十月下旬突如綿羊毛並寒羊毛の輸出禁止を發令したがこれに伴つて天津各輸出業者は輸出最盛期に直面し右羊毛に代る山羊毛並に駱駝毛の爲替許可申請を商工・大藏兩省へ提出した。

綜合リンク制の公式說明　寺尾貿易局長官の發表せる綜合リンク制の原案は左の如くである。

一、輸出して對外債權を得た者のみが輸入することを得（此場合の對外債權とは勿論圓ブロックは除外する）。

二、輸出した者が輸出手形を銀行に提示した時、銀行は輸出爲替取組證明書を發行交附する。

三、この輸出爲替取組證明書が政府に提示されると、政府は直に輸入許可證を出す（從來のごとく遲延することなく即刻に出して業者の商機を逸するを防ぐ）。

四、適當な中央機關を設け（未定だが日銀にする豫定）輸出者は輸入許可證をこれに讓渡し、輸入せんとする者は日銀を通じて輸入許可證を入手する。

五、例外として輸出した者が更に輸入せんとする場合は仲介機關の手を經ないでもよいとする、尤もあらゆる場合にこの例外的取扱を認めると生產業者や他の貿易業者に迷惑をかける場合があるから一定の組合に一定の率を與へてこれを保護する。

六、輸出の原料となり得るものゝ輸入は特別に優待する又製品中に含まれる輸入原料の分だけは輸出爲替取組證書を仲介機關に提示せずとも得られるやうな便法を講ずる。

七、輸出爲替取組證明書の有效期間を定める。

八、現に商品別リンクを行つてゐる商品と特別の理由ある商品（軍需品、石油、生糸など）を除く。

看板は……衣笠看板製作所へ

廣告は……衣笠廣告社へ

建築塗裝は……衣笠塗裝部へ

交通・通信

概況

北支の鐵道は既往における政治的中樞地帶たりし環境といはゆる、南船北馬の陸運地域たりし關係から線路幹數は今日なほ中南支のそれを凌駕し事變後殊に治安の恢復が早かつたゝめ第一に利用されわが對支工作の基幹として最近業績も好轉し、さらに增設計畫も擡頭して來た。しかし鐵道を一國文化のバロメーターとして觀るとき北支鐵道はその廣大領域に比し未だ貧弱のそしりを免れぬ。

これに反し水運は著しく貧弱で、河川運航も黃河および白河があるに過ぎず、黃河の如きはその利用線少なく上流において土船運航がわづかに行はれて來たに過ぎぬ。白河も幅狹く底を堆く埋める泥土のため巨船の逆航を許さないが、北支における河川運輸は事變以來經濟開發の非常手段として陸路運輸機關の整備と相俟つて逾大の計畫續出し、その圓滑化は焦眉の急務とされてゐる。

海運水運も北支六港中最大物貨の呑吐港たる天津港が白河の狹少泥土およびその關門たる塘沽港の潮水の干滿で今夏百萬噸と稱せらるゝ滯貨の山を築いた如き例をはじめとして南支に比するとき著しい懸隔を持つてをりこれが整備の急を叫ばれてゐる。一般に北支海運は天津港などの港灣としての自然的條件に惠まれないものが廣大な貿易上のバヅクを有するに反し青島、秦皇島などの良港がそのバック乃至地の利に制肘されて十分の機能を發揮しえぬところに宿命的なハンディキャップがあり將來とても南支貿易港に追隨するのは容易のことでない。

道路建設は元來中支を中心に行はれたゝめに、公路、自動車路ともに山東省および蒼冀東地區を除いてはさして發達をみてゐないが、自動車路のごときが黨軍の共產軍討伐を主眼とした軍用的意味から積極化したのとは趣きを異にして事變來いはゆる北支產業開發計畫のもとに完成への機運を醸成せしめられてゐる。

航空方面は中南支に比較するとかなり立遲れの狀態にあつたが近年その活動は漸く活潑になり殊に昭和十一年十一月中日合辦の惠通航空股份有限公司の成立によつて斯界は畫期的の躍進を示しその急テムポの發展は異彩を

放つてゐる。

通信方面も開發會社の一分野として逸早く成立した華北電信電話會社を中心に整備建設の歩を進めつゝある。

要するに北支の交通、通信は他の分野と同樣その新情勢より來る必然的要求と相俟つて益々發展の道程を辿るべき運命にあるといへやう。

鐵道

鐵道概況

一般に北支鐵道とは、京漢、津浦各線の北支部分、京山、京包、同蒲、正太、膠濟、隴海、通古、道濟各線を指すもので、これらの諸鐵道はいづれも前清末および民國初年に外債ならびに外人技師によつて敷設され或は計畫されたものであるが、第一革命以來國内に軍閥政客の私鬪私爭相亜ぎこれがため借款は軍費に流用され、計畫の中止されたのは勿論、既成鐵道線も擧げて各軍閥の割據營理に歸したため營業收入の殆んど全部が軍費に流用され破損修理は放置して顧みられなかつた。ひいては鐵道會計は極度に紊亂し、修理建設の如きは企てられず、機關車線は一大修理を加へざれば運行不可能の狀態に陷つた。しかるに民國十七年國民政府の成立後同政府鐵道部は各國債權團の督促によつて各鐵道の内外債務履行を餘儀なくされ、漸次これを整理すると共に數年來の内亂も漸く終熄し、これに伴つて各鐵道の修理も進捗し、右の狀態は旅客貨物運輸共に著しく改善され、國民政府の國内統一の進行に比例して漸次整備充實するに至つたが多額の債務を償却しなければならぬこと、重工業が發達せぬためにすべての重要材料を外國に仰がねばならぬことと經濟的に立遅れてゐることなどのため發展は遲々たるものであつた、

北支鐵道の負債額（單位元×一九三三年六月末現在）

	外・債	内債	材料代金未拂	計
京漢線	三八、八九六、三二〇	二七、九六三、一九四	五、一三六、三五〇	一〇三、九九九、九六六
津浦線	一五、七五五、七五三	二六、九二三、五二五	一、八一二、〇四八	三五、五五九、一七三

京包線		一七、四〇〇、五八一	四、九一六、四二六
京山線		一〇、五九九、九七四	七、九〇〇、九七二
膠濟線		四〇〇、〇〇〇	一、四五〇、四一〇

滿洲國の獨立以後は國民政府の友日的諸政策の一切を反映して公路建設の如きは經濟建設の名を藉りたところの軍用道路の建設に外ならなかつた如く、鐵道もその例外たりえず、外國特に佛國、英國よりの物資輸送路として計畫された南方諸鐵道と相俟つて、直接日本の外廓である滿洲國をその接觸地帶としてゐるだけに、北支鐵道の軍事施設化は特にはなはだしいものであつた。元來支那鐵道の經營は勞銀の低廉と燃料の石炭が國内に多量に產し比較的安價なので、政情が安定すれば收支相償ふことは困難ではないが、前記の如く多年に亘つて内外債の償却が行はれなかつたため毎年多額の元利償却に追はれ各鐵道はいづれも赤字を續けて來た。それでも北支は支那全土から見るときは隨運地方であつて北支三省および蒙疆内の九鐵道（本年開通の京古線を除く）延長は約五千粁に達し、全支鐵道の過半は北支に存在するとも云へるのである。中でも河北山東兩省は延長粁數が多い。

北支蒙疆鐵道借款表（一九三二年）

鐵道名	竣工年月	收支關係 △印缺損	借款國	
京漢鐵道	一九〇五	一六、三七二千元（一九二四—二五年平均）	白耳義財團借款は返濟し、日本正金借款殘あり、擔保は交通部收入の一部固定す	
京山鐵道	一九〇七	二七、〇三三千元	借款延滯なし元金殘のみ	英國借款線
津浦鐵道	一九二三	△一三八千元	借款元利延滯六四〇、〇千磅	英、獨借款線
京包鐵道	一九二三	△一四四一	借款元利延滯一二〇千磅	イ、白耳義借款線 ロ、日本東亞興業借款線擔保は北京交通部擔保
膠濟鐵道	一九〇四	五、一三六千元	延滯なし	日本借款及合辦權
正太鐵道	一九〇七	二四、六千元	延滯なし	佛國借款皆濟す、南京政府と省政府と折衝中のもの
道清鐵道	一九〇五	借款元利延滯六六、千磅	六四、千元	英國借款線

隴海鐵道　工事中　借款元利延滯額　不明（三〇八六千磅）　白耳義財團借款線（事實は佛國）

北支各鐵道借款種類表（一九三七年）

鐵道名	借款の種類
京漢鐵道	滙豐滙理銀行借款及横濱正金銀行借款其他の短期借款
京山鐵路	關内外鐵道借款、新奉鐵道借款、唐撫愛軌借款
津浦鐵道	津浦鐵道第一次第二次借款、德華銀行短期借款、華中公司短期借款
京包鐵道	日本東亞興業借款
膠濟鐵道	膠州鐵路國庫證券及英庚借款
正太鐵道	本鐵道の借款は皆濟するも本線利益を擔保とする第二義的借款有り
道清鐵道	英の福公司が純益の二割を交付する事を約して支那政府より委託經營さしたもの道清鐵道借款、清孟枝路借款、外に第一次、第二次勝車借款執れも英國系
隴海鐵道	沐洛鐵道借款、隴秦豫海鐵道借款、隴海比貨借款
同蒲鐵道	山西省有鐵道

※西安迄は一九三四年完成し寶鷄迄は一九三六年完成した。

京綏鐵道は、一九二四年には約三〇、〇〇〇千元の借款があつたが、現在はズット減少してゐる。正太鐵道借款は四千萬フランで露清銀行が持ち借款期間中は本線營業上の權為一切を管理し營業收益の二割を取得することゝしたが日露戰爭後は佛國側が全權を獲得した。以上三鐵道の借款は現在殆んど償還されたが他の鐵道借款は依然巨額を占めてゐる。

各鐵道借款現在高（一九三七年七月一日現在）

＝東亞經濟調査局調査＝

借款年度	借款對象	鐵道名	現在高	利率
一八九九	中英公司	京山鐵道借款	四六〇〇〇磅	五分
一九〇五	佛公司	道清鐵道借款	五三五〇七〇磅	五分
一九〇八	—	津浦鐵道借款	四〇七七八〇二磅	五分
一九一〇	—	同續獨借款	六六〇〇〇磅	五分
一九一三	利比公司	隴海鐵路借款	四〇〇〇〇〇〇磅	五分
一九二〇	同	同法金借款	一三七〇五四〇〇〇ベルギフラン	
一九二〇	同	同荷金借款	三〇〇五〇〇〇〇ギルダー	
一九二〇	同	同法金借款	二〇〇五〇〇〇〇フラン	八分
一九二三	—	膠濟鐵路國庫證券	四〇〇〇〇〇〇〇圓	六分
一九一九	—	道清鐵路勝車借款	四八五一五磅	

各鐵道棉花積載量（許可する限度）

、膠濟線・京包線・京漢線		
十五トン車	半　締	一四〇俵
十五トン車	堅　締	七五俵
二十トン車	堅　締	一〇〇俵
十八トン車	半　締	一六〇俵
津浦線・京漢線		
三〇トン車	半　締	一五〇俵
三〇トン車	堅　締	一五〇俵
四〇トン車	半　締	二〇〇俵
四〇トン車	堅　締	二〇〇俵

最近五年間の支那國有鐵道成績

國民政府鐵道部は過般民國二十四年度の國有鐵道收支總報告を發表したが、今その中の最近過去五箇年間の貨物噸粁及旅客粁の平均收入を示せば左の如くである。

（單元位）

年次	平均收入　貨物噸粁に付き	平均收入　乘客粁に付き
一九三二年	一・七二	一・四〇
一九三三年	一・六二	一・一三
一九三三—四年度	一・五五	一・三一
一九三四—五年度	一・五一	一・二五
一九三五—六年度	一・五一	

上述の如く鐵道營業收入は逐年漸增してゐるが年度剩餘金の增加は素晴しいものがある。即ち累年度の剩餘金を表示すれば左の如し。（位單元）

一九三二年	二、七九四、一二二
一九三三年	一五〇、二四三
一九三三年—四年度	七、九七八、六五二
一九三四年—五年度	二七、八四五、八一五
一九三五年—六年度	三五、〇七七、三七四

北支蒙疆各鐵道營業粁程表

＝滿鐵產業部交通課調査＝

鐵道名	本支線名	區間　始點	區間　終點	粁程
京漢鐵道	本線	北京前門	漢口玉帝門	一、二三五・五粁
	坨里支線	良鄉縣	坨里	一七・〇〇〇
	周口店支線	琉璃河	周口店	一六・〇〇〇
	新易支線	高碑店	梁格莊	七・〇〇〇
	清苑南關支線	清苑縣	清苑南關	一七・〇〇〇
	臨城支線	鴨鴿營	臨城	三・〇〇〇
	盧溝橋支線	長辛店	盧溝橋	八・〇〇〇
	豐臺支線	盧溝橋	豐臺	八・〇〇〇
	道清支線	三里灣	陳莊	一六三・〇〇〇
	進新支線	進家坟	新鄉新站	三・〇〇〇
	六河溝支線	豐樂鎮	六河溝	一九・〇〇〇
計				一、三〇九・五粁八

津浦鐵道	本線	天津北站	浦口	一、〇〇九・二六〇
	良陳支線	良王莊	陳唐莊	二五・四七〇
	濰黃支線	濰口	黃臺橋	六・〇〇〇
	滋濟支線	滋陽縣	濟寧縣	三一・〇一〇
	臨棗支線	臨城	棗莊	三一・三四〇
計				一、一〇三・一七〇
膠濟鐵道	本線	博山	青島	四二二・〇〇〇
	鐵山支線	博山	張店	四三・〇〇〇
	鐵金支線	潍川	濟南	七〇〇〇
	鐵山支線	鐵山	黃山	七〇〇〇
計				四六九・〇〇〇
京山鐵道	本線	北京	山海關	四三二・三四〇
	戴河支線	戴河	北戴河海濱	二〇九・三七
	西站支線	西站	北戴河海濱	三・六七
	天津北站支線	天津北站	北京正陽門	一四七・八七〇
	京古支線	古北口	東便門	五九四・八一〇
計				八一六・三三〇
京包鐵道	本線	平綏線	豐臺	二五九・六〇
	環城支線	西直門	西直門	二・六一〇
	環城支線	西直門	東便門	一・九八一〇
	泉大支線	泉口	大同縣	八七四・六一〇
計				一、〇七五・三一五
隴海鐵道	本線	連雲港	咸陽	一六一・〇〇〇
	（假）咸陽寶鷄支線	咸陽	寶鷄	三〇三・〇〇〇
	臺兒莊支線	臺莊	兒莊	八・五〇〇
	趙新支線	趙莊	新浦	一、二五四・六七一
	海大支線	海州	大浦	一、〇〇〇・〇〇〇
計				三、〇〇〇・〇〇〇

正太鐵道	本線	石家莊	太原	二四三・〇〇〇
	鳳山支線	鳳山	南張林	七〇〇〇
	榆谷支線	榆次	縣太谷縣	三六・〇〇〇
	井陘支線	井陘	微水	一六・〇〇〇
計				三〇三・〇〇〇
同蒲鐵道	本線	大牛店	風陵渡	六四七・五〇〇
	忻崞支線	忻縣	崞甲子灣	三三・〇〇〇
	西山支線	太原	府自家莊	二〇・〇〇〇
	平汾支線	平遙縣	汾陽	三四・〇〇〇
	原陽支線	原平	鎮陽明堡	四二・〇〇〇
計				七六・五〇〇
總計				六、九八四・〇〇〇

北支各省別鐵道粁程（單位）

省名	本線	支線	計
河北省	一、二五五	三三	一、二四七
山東省	八一七	一二八	九四五
山西省	三二	三	三四二
察哈爾省	三七		三七
綏遠省	二〇〇	一	二〇〇
北支計	二、九八〇	三六〇	三、三四〇

北支各鐵道の主要目的表

鐵道名	主要目的
京漢鐵道	運炭
北寧鐵道	海港との連絡
津浦鐵道	材料輸送、連絡線
京綏鐵道	運炭、連絡線
正太鐵道	運炭
道清鐵道	運炭
隴海鐵道	運炭、海港線
膠濟鐵道	運炭、運礦、連絡線
同蒲鐵道	運炭

京山鐵道

本年六月まで北寧鐵道と稱せられた本鐵道の起原は一八八一年英人技手某による唐山、胥各莊間の廣軌鐵道敷設に始まる支那最古の鐵道で左の如き經緯を經て今日に至つてゐる。

一、一八八一年起工以來一八八六年には直隸省總督李鴻章により開平鐵路公司の設立を見るに及び更らに區間を買收して延長し全長二十一哩を完成。

二、一八八七年に至り中國鐵路公司の成立を見資本金一億兩の借款を滙豐銀行に求め一八九四年迄に唐山、昌黎間を開通して關内外鐵道と稱した。

三、その間更に北京、天津間を起工したが途中資金不足の爲め滙豐（英）、德華（獨）、露清（露）各銀行より小額借款を得、從來の民間株主には五分利付公債を與へ鐵道の全權を政府に回收し天津北京間を完成せしめた。

四、それ迄に借款したる額は滙豐の一二七萬兩、德華の六〇萬兩、怡和（英）の二四萬兩、合計二八一萬兩である。

五、更らに一八九六年露國が清國との間にカシニー密約を成立せしめ東清鐵路の敷設權を得更に關内交通權を掌握せんとするに當り、英國は一八八九年二八〇萬磅の借款契約を與へ露國に對しては鐵道敷設區域の協定を結び露國勢力の關内進出を防ぎ一九〇三年迄に北京、通州線、北京、新民府支線及び營口支線を急速に完成した。

六、新民府、奉天間は始め露國の反對により鐵道延長計畫失敗に歸したが、この間日露戰爭により日本の手に敷設せられた三七哩の軍用狹軌鐵道は戰後一九〇七年に至り一六七萬圓を以て讓渡されその改築費は滿鐵より貸與さるべき契約となり此處に北京、奉天間の開通を見た而して全線を京奉鐵路と稱し後改めて北寧鐵道と呼んだ。

然るに滿洲事變の突發はこの鐵道にも大なる變革を齎

し滿洲國獨立と共に山海關以東は滿洲國鐵路總局奉天鐵路局の管理下に屬することになり、通車問題の解決と共に北寧鐵路總局の設置となり關內全線四六八粁の運營に當つてゐたのである。天津事變後間もなく一般貨客輸送を開始したが特殊輸送の餘力を利用して行はれたもので運行も極めて制限されたものである。從つて當時はまだ京山線以外においては一般輸送などは全然考慮されなかつた。六月二十日北寧鐵道を京山鐵道と改稱現在旅客運轉狀況は北京奉天間急行普通二往復、別に天津山海關間一往復、北京天津間二往復となつてゐる。

九月中京山線貨物收入

京山線は流石貨物線だけに斷然客收を遙かに凌駕してゐる。

乘車人員	二六八、三九七人
乘客收入	三六五、七八九圓
手荷物收入	七八、六九〇圓
貨物收入	一、二四一、二九六圓
雜收入	一三、五七八圓
計	一、六六九、九五三圓

七月上旬天津驛貨物發著統計（單位噸）

＝國際運輸調査＝

月日	發送 小口扱	一車扱	計	到著	一車扱	計
七一	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	九三、九三〇	三、九一四、〇〇〇	四、〇〇七、九三〇
二	一、〇〇七、三五七	一、八六〇、〇三〇	二、八九七、六二五	五二、八三〇	一、一三九、三三〇	二、一九二、三三〇
三	一、三九、九二五	一、一〇一、三〇〇	一、二四一、二三五	三四、〇七五	二、二三五、〇〇〇	二、二六九、〇七五
四	一、三四、二三五	一、六三五、七五〇	一、九七九、九七五	一〇、六、〇〇〇	二、六七、〇〇〇	二、七八二、〇〇〇
五	一、三七、二六六	一、三三〇、七七〇	二、〇六七、〇三五	六三、四五〇	一、〇四二、〇〇〇	一、一〇五、四五〇
六	一、八九、三〇〇	九五六、〇〇〇	二、八四五、〇〇〇	九一、〇〇五	一、三四四、〇〇〇	一、四三五、〇〇五
七	二〇、三五、五二五	一、一六一、六〇〇	二、一九六、一二五	八八、七〇〇	一、三三五、〇〇〇	一、四二三、七〇〇
八	一、九七、九七五	一、九二三、三五〇	三、八二〇、八七五	一〇三、四二五	一、〇六二、〇〇〇	一、一六五、四二五
九	二一七、三二五	一、一七一、一三〇	一、三八八、七七五	五七、〇八〇	一、一二九、〇三〇	一、一八六、一一〇
一〇	一、六九、三三〇	一、一四九、三三〇	二、四二九、〇三〇	八二、〇三五	一、三三五、〇〇〇	一、四一七、〇三五
合計	二、五八〇、五三〇	一、五一四、九〇〇	一七、九九九、三〇〇	七三、二〇〇	一、九七四、〇〇〇	二、〇五六、〇〇〇

天津驛十月初旬貨物發送數量（單位噸）

＝十月一日—十日＝

種物類	
石灰及セメント類	一三〇
鑛、物油	一〇
石	三一
其の他	二一〇
小計	一三
農產類	三九四
大豆	二七九
高粱	九三
麥粉	一、九二八
棉類	三二六
煙草	一四九
茶	一四〇
生果	二五
野菜	九七
其他	一、八六二
小計	四、八九七
木材	一、二二八
動物類	
毛皮骨類	二五
其他	四
小計	二九
水產類	
魚介	五七
鹽	三〇
他	七
小計	九四
生產類	
砂糖	七〇八
綿絲布	四二四
紙	二〇五
其他	三、二四八
小計	四、五八七
合計	一一、七二九

天津驛十月中到着貨物數量（單位噸各驛より）

＝貨車扱＝

京山線驛名	煤炭	棉花	石類	糧食	洋灰	食鹽	羊毛	其他	合計
正陽門	二〇	二五	四〇	一〇	四〇	—	—	三〇二	二、五九八
東便門	—	—	—	—	—	—	—	一四七	一四七

縣名	棉花	白灰	糧食	線	業村	其他	合計
徐州	一	一	一	一	一	一	一
睢寧	一	一	一	一	一	一	一
宿遷	一	一	一	一	一	一	一
沛縣	一	一	一	一	一	一	一
豐縣	一	一	一	一	一	一	一
銅山	一	一	一	一	一	一	一
蕭縣	一	一	一	一	一	一	一
砀山	一	一	一	一	一	一	一
萊北	一	一	一	一	一	一	一
昌邑	一	一	一	一	一	一	一
膠	一	一	一	一	一	一	一
黃海	一	一	一	一	一	一	一
皇代	一	一	一	一	一	一	一
封	一	一	一	一	一	一	一
計	一	一	一	一	一	一	一
莊關	一	一	一	一	一	一	一
島河	一	一	一	一	一	一	一
萊棗	一	一	一	一	一	一	一
總計	一	一	一	一	一	一	一

縣名	棉花	白灰	糧食	線	業村	其他	合計
濟寧	一	一	一	一	一	一	一
嘉祥	一	一	一	一	一	一	一
鉅野	一	一	一	一	一	一	一
金鄉	一	一	一	一	一	一	一
魚台	一	一	一	一	一	一	一
單縣	一	一	一	一	一	一	一
成武	一	一	一	一	一	一	一
曹縣	一	一	一	一	一	一	一
定陶	一	一	一	一	一	一	一
菏澤	一	一	一	一	一	一	一
鄆城	一	一	一	一	一	一	一
巨野	一	一	一	一	一	一	一
嘉祥

驛名	煤斤	食糧	羊毛	藥材	其他	合計
京包線						
黃河岸	四〇					七〇
濟南		三〇		一〇	三〇	九〇
桑國				三〇	三〇	三〇
那那				三〇	三〇	三〇
雷莊		三〇		一二五	一二五	一二五
史北口				一〇	一二五	一二五
垡岳		二五		四五	三〇〇	三〇〇
朔縣					二五	二五
興城		一五			六〇	六〇
鞍山		六〇		一〇	三〇	三〇
錦縣		四五		一〇	四五	四五
總計	一〇四七	一三七	六三二	二七九		
門頭溝	三九二			三九二	三九二	
大同		八五		八六	一六四	
柴樓堡		四〇			四五	
懷來		三〇		三〇	六〇	
厚和		四五		四五	一〇五	
天鎮		二〇		二〇	二六五	
周土莊		三〇		一五	四五	
陽高		二〇		三〇	六〇	
高莊		五五		二〇	六五	
沙城		四五		一五	六〇	
三家店	七六六〇				七六六〇	
包頭		三〇		二五	三〇八	
口泉	一六六五				一六六五	
下花園	二七〇	一三五			四〇五	
張家口		五九五	一〇五		七〇〇	
孔家莊			一〇五		一〇五	
康莊				三〇	三〇	
郭磊莊		一二五			一二五	
宣化		八七五		一〇〇	一〇九五	
沙嶺子		四五		一五	六〇	
頭類				一五	一五	
西直門				六〇	六〇	
南口		四五		四五	四五	
清河				六〇	六〇	
平地線			一五	四五	四五	
驛文皂			三〇		三〇	
旗下營			一五		一五	
沙河鎮			三〇		三〇	
總計	四三、七五一	一〇〇	三四五	四六六	一、三三〇	三〇三三

京包鐵道

本年六月十九日まで京綏鐵道と稱せられた京包鐵道は豐臺より張家口、厚和を經て包頭に至る鐵道で本支線合せて延長八七四粁である。この鐵道の着工を見たのは一九〇五年最初北京より綏遠（現在の厚和）まで開通し（一九二一年）包頭まで全線の完成を告げたのは一九二三年

である。

この鐵道の特徴は所謂支那の愛國鐵道で支那鐵道界が專ら外債に依つて起されてゐるのを通例としてゐるのに對し本線は全然外力と無關係で計畫されたところにある（後になつて我が東亞興業と二期計六百萬元及白國より八〇萬磅の借款を爲したが）その經緯に就いては所謂利權爭奪とも云ふ物的な理由も手傳つて支那に在つては珍しく自建自營の敷設計畫が樹てられたのである。即ち西比利亞鐵道を通じて蒙古を橫斷し張家口を經て太平洋方面迄進出の機を狙つてゐた露國は一八九八年京漢鐵道敷設契約を獲得して、更らに西比利亞鐵道の一端より恰克圖、庫倫を通過し直隸、山西に出でんとする鐵道計畫の策動を始めるに至つたが、これに對し既に京奉線の敷設問題で露國勢力の南下に脅威を感じつゝあつた英國は直ちに蒙古、直隸、山西を連絡する露國側のこの鐵道計畫を阻止せんとして支那政府に運動、再三抗議を發した結果遂に政府として「北京より張家口及び長城に至る鐵道は自國資本を以て建設し該鐵道を他國借款の擔保とせざることを宣言せしめたのである。尤も支那政府自體としても夙に自己邊境政策の建前と經濟的見地に依る本線の重要性を充分認識してゐたのである。

事變の影響から最も早く恢復した鐵道で南口、八達嶺激戰の後沿線の治安は急速に恢復し昨年十月十五日豐臺—張家口間（二〇一・二粁）に北支最初の滿鐵による假營業が開始された。

以後引續き十一月一日張家口大同間（一八二粁）十二月十一日大同包頭間（四三三粁）同日口泉支線（一九八粁）二月一日門頭溝支線（二六粁）と、事變勃發後七箇月にして支線をも含めた全線の假營業が行はれることゝなり營業驛六五、內貨物取扱驛三七に至つた。京包線は背後地として邊疆地區（主として羊毛、獸皮、毛、骨類の交易が行はれてゐる）の外、著名なものとして大同炭區（大同より西南朔縣に至る五縣地方で、埋藏量は有煙炭九十餘億噸と稱せられ、そのうち大同炭礦は現在滿鐵の手によつて開發され、既に日本に向け一、二〇〇噸輸出されてゐる）宣化龍關縣に於ける鐵鑛區（埋藏量九、一六四萬噸）門頭溝炭區（埋藏量五九三百萬）等を持つて居り、之等の豐富な資源の開發に重要な役割を約束されてゐる、滿鐵張家口鐵道事務所の豫想によれば、これら資源の輸送は

本年三月より明年三月末までに、二百三十萬瓲（大同炭礦より九七萬瓲、龍烟鐵道三十九萬瓲、雜穀、鹽、羊毛其の他五十八萬瓲）で事變前の二倍となつてゐる。假營業開始以來の輸送狀況を示すと次の如くである。

貨物瓲數旅客數量

	一〇月	一一月	一二月	一月	二月	三月	四月	五月	計
昭和一〇—一一年	三三四、五九一	二〇八、四六五	二三二、七四一	一八二、七四〇	二〇四、一〇一	二四五、四六一	一八七、〇〇五	一八五、五四二	一、六四九、二八一
昭和一一—一二年	二、〇九七	三、九九二〇	三、一九四八	八三、六七〇	一四六、〇一三	一八八、二〇七	一四六、四五六	二六、一三四	八三五、四四五
昭和一〇—一一年	一、一九、六〇八	一、一九、二三六	一、一四、六七九	九七、三八五	一〇四、一〇〇	一〇〇、八五五	一、一八、八一五	一、一三、二七〇	八九七、九四八
昭和一一—一二年	一、三、一八二	五〇、三三四	八四、九八一	一〇三、九五〇	九九、三八一	一、四九、七九二	一、四四、五二一	一、四八、八五九	七九五、二〇〇

假營業區間が短く、未だ同線が交戰地區内にあつた昨年十月頃に於て輸送數量が僅なのは當然であるが、其の後に於ける急速な恢復振りは、この數字が最もよく證明してゐる、特に最近一箇月に於ては、平時の狀況を遙かに凌駕する勢にあり、數度の配車改正にも拘らず、その不足を感ぜしめる程である。最近蒙疆地區内に於ける邦人の進出發展が輸送激增の主な原因であるがこのことによつても同地區内に於ける經濟的な平常化より大なる發展が目覺しく行はれつゝあるかを窺ふことが出來る。客車の運行狀況は左表の如くである。

昭和十二年十月十五日—十二月九日

豐臺—張家口　旅客列車　一　往復

張家口—大同　旅客列車　一　往復

昭和十二年十月十日—十三年一月三十一日

豐臺—大同　旅客列車　一　往復

豐臺—張家口　混合列車　一　往復

張家口—大同　混合列車　一　往復

大同—綏遠　混合列車　一　往復

綏遠—包頭　混合列車　一　往復

右の如く今年一月末日迄は北京包頭間に直通列車なく三日間を要したのであるが二月におけるダイヤ改正によつて、兩地間の連絡は二十九時間に短縮せられるに至つた。

京包線客車運行表（現在）

正陽門—包頭	旅客列車	一	往復
正陽門—大同	旅客列車	一	往復
正陽門—張家口	混合列車	一	往復
張家口—大同	混合列車	一	往復
大同—綏遠	混合列車	一	往復
綏遠—包頭	混合列車	一	往復
西直門—門頭溝	物列車	二	往復
大同—口泉	旅客扱貨物列車	一	往復

（これは七月一より改正）

十月中北京電路局管内發送貨物數量

（單位瓲）

	十月中	九月中
特殊品	二八〇、七六	—
社用品	二七、六四一	—
營業品		
鑛産	六六、六一二	一五六、一一七
農産	一三、二二三	二六、九〇三
林産	八二〇	一五
畜産	二、三二七	五九
水産	一八二	八二
其他	九、七七七	四四、〇六九
營業品合計	九二、八五〇	三二七、七七七
總計	一四八、五七七	三三五、七八七

津浦鐵道

津浦鐵道は河北省天津より本土を南北に走貫して江蘇省浦口に至る幹線一〇〇九粁、支線を合し一、一〇三、一七〇粁の鐵道である、京漢鐵道と殆んど併行にして共に北支那と南方を繋ぎ政治、軍事上の最重要線だと云はれてゐる。

本路線は最初在米中の華僑容閎なる者に依つて計畫され國内資金一千萬兩を以つて先づ天津、鎭江間の敷設許可を得たことに始まる。これが不足分に對しては英米兩國の援助を求めることにしたが計畫は飽迄支那の富國自强策の一つとして企圖されたものである。然るに偶々英米兩國の豫定線に關し露、佛、白三國の反對に遭ひ、更らに青島を租借し山東鐵道を建設した獨逸との間に抗爭を惹起し、種々紛糾が行はれて結局英獨兩國の合同契約となり天津より山東南部までは獨逸、それ以南鎭江までは英國建設と云ふことに協定が出來、漸く起工著手を見たのが一九〇八年である、而して完成は一九一二年、翌

一三年營業開始と共に天津鎭江間を更らに浦口まで延長し此處に津浦鐵道と稱するに至り今日に及んでゐる。

管理權、經營權共に支那にあるが實際勢力は英國が握つて居る。世界大戰に際し支那は本路線に於ける獨逸勢力を驅逐せんとしたが却つて英國をしてこの機に乘ぜしめ全線の權利を掌握させるに至つたのである。借款は一九〇八年及び一九〇九年の英獨よりの五分利借款五百萬磅一九一〇年の同樣英獨より追加五分利借款三百萬磅があるが、何れも近年償還中のものであつた。

本線に於ける假營業は十一月十五日天津北站—滄縣一二〇・五粁の間に旅客のみの取扱ひが開始されたのを最初とする。貨物取扱は十一月二十日同區間に開始された津浦線に沿ふ攻略が比較的急速に行はれたにも拘らず假營業の開始が遲れたのは、主として水災による被害が本線で最も甚しかつたことによるものだと思はれる。滄縣德縣間一一三・六粁の區間は天津滄縣間貨物取扱が開始された日に同じく開始された。十一月十五日德縣濟南間の連絡は山東軍退却に際し、一・三粁に亘る黃河鐵橋を破壞したため遲れることゝなつたが假橋の架設が鐵道隊及び滿洲工務員の努力によつて、一月十日起工し二月十日に完成するに至り、德縣濟南間一一七・六粁の假營業も、これと同時に（二月十二日）開始されることゝなつた。後この黃河假橋は一時流水のため破壞され徒步連絡の已むなきに至つたが幸にして五月八日に完成を見五月十日より直通連絡の運びとなつて現在に至つてゐる。

津浦線は南北を貫く大平野を走つてゐるだけに、この一千粁の間隧道は一つもないが鐵橋は極めて多く右の大黃河鐵橋を始め大汶河、舊黃河等その主なるものだけで十六もあると云つた狀態であり、之を利用して支那軍は退却の場合必ず鐵橋爆破を行ふため果敢なる進擊を續ける皇軍の後方にあつて、殘敵の襲擊と戰ひ乍ら之が復舊架設に當るわが鐵道隊の辛勞は筆紙に盡し難いものがある。徐州陷落後天津、徐州間開通のため鐵道修理に當つてゐたわが鐵道隊は大運河鐵橋の修理を完了、五月二十一日兗州よりの第一列車は無事徐州に到着、茲に天津徐州間鐵道連絡の完全を見たのである。徐州陷落による津浦線全線の開通も、現在軍及び滿鐵によつて準備中七月中旬直通列車の運轉が行はれた。假營業開始以來の輸送數量左の如くである。

貨物噸數乘車人員

	一一月	一二月	一月	二月	三月	四月	五月	計
一箇月合計	一五	二四〇	二四、一四六	一七四四〇	二四、三五四	九、四七五	一五、一七六	八〇、〇一六
一日一粁當り	—	〇・三	一・八	二・〇	二・一	〇・九	一・四	一・七
一箇月合計	二四、六七七	八〇、三六五	九九、四六一	一五八、三〇一	二三九、二〇三	一六五、〇九六	二八六、六四四	八八五、六二四
一日一粁當り	八・四	一一・五	一三・八	一八・六	二一・一	一五・七	一九	一四・四

右表の四、五月に於ける貨客輸送の減少は徐州會戰によるものであつてこのことを考慮するならば輸送の著しい進步が見られるであらう。事變前との比較は本線の北支部分のみを抽出した統計がないため一日一粁當り輸送數量の平均を以てすることにした。民國二十二年、二十三年二十四年に於ける輸送數量一日一粁當り平均は、貨物では夫々七・五瓲、八・七瓲、九・二瓲、旅客では夫々六・六人六・八人七・四人である。これを右表の數字と比較するに貨物輸送に於ては未だ到底平時に於ける狀態とは比較にならないが旅客は營業開始の最初の月から既に以前の狀態を著しく凌駕してゐる貨物輸送が少いのは沿線に經濟狀態が未だ以前の狀態にまで恢復してゐないことを示すものであるが同時に次のことも大きな原因となつてゐるものである卽ち津浦線は本來支那南北經濟の紐帶として始めてその意義を有するのであつて例へば京包線の如く全線に亘る營業が行はれてゐる場合には、その鐵道自體が蒙疆地區そのものゝ發展、北支他省との經濟的政治的紐帶として役立つて居り、これがため特殊の事情を除けばその輸送狀態は既に平時化、或はそれ以上の發展を示してゐるのであるが津浦線は假營業の現狀から云へばたゞその區間に於ける、需要のみを充してゐるにすぎないからである。貨物輸送數量の少いもう一つの原因は沿線が水災地區であるといふことこれである。併し斯くの如き狀態にも拘らず、津浦線沿線狀態が著しく活況を呈してゐることは指摘しうる。このことは、相對的には貨物輸送の累增を見てもうなづかれるのであるが特に旅客輸送に於ける壓倒的な增加傾向が何よりも明瞭に物語つてゐる。

本線の營業驛は三十、內貨物取扱驛は十三である。

尙旅客列車の配車は次の如き變遷を示してゐる。

昭和十二年十月二十日—十二月十九日

天津北站—德縣旅客列車　一　往復

昭和十二年十二月二十日—十三年三月九日

天津站—濟南旅客列車　一　往復

天津北站—德縣混合列車　一　往復

德縣—濟南混合列車　一　往復

昭和十三年三月十日—現在

天津站—濟南旅客列車　一　往復

天津北站—濟南混合列車　一　往復

天津北站—德縣混合列車　一　往復

九月中津浦線客貨收入

津浦線は京山線と反對に客收が貨物收入を引離し客線主體を現はしてゐる。

乘車人員	一一五、七六〇人
乘客收入	二二八、八二五圓
手荷物收入	二一、一〇〇圓
貨物收入	一三三、八七一圓
雜收	五、九一五圓
計	三八九、七三三圓

京漢鐵道

京漢鐵道は北京、漢口間を繋ぐ全長一、九一三粁の鐵道で本路線は支那に於ける財政上最も有力な資產たり大財源である。本線の外に四本の支線（一二〇粁）もあり總延長實に一、二一三粁に亙つて坦々たる支那中部平原を南北に走貫してゐる。昨秋この鐵道と接續する英國の團匪事件賠償金に依る粵漢鐵道の開通は文字通り支那本土を南北に結び兩者間の交通上最も重要なる鐵道系統を形成したかの感がある。

京漢鐵道は非常に複雜した歷史をもつてゐる。即ち本路線が最初に計畫されたのは一八八九年我が明治二十二年のことである。當時清廷は第一回鐵道會議を開き種々鐵道計畫等に關し協議するところあつたが、個々會議の席上時の湖廣總督張之洞に依りこの鐵道の建設計畫は提唱され直ちに廟議に計つた結果難なく決定を見るに至つた。然るにその後約十年種々の紛糾に鞫されて實際に敷設計畫が實行に移されたのは一八九六年、即ち光緒二十二年四月のことである。これが諸外國との借款合作に就ても同樣、內國債に依る富豪紳商の勸誘に失敗するや外國銀行團に交渉したり、英獨と結ぶかと思へばこれも失敗し、今度は露國、佛國の合作たる露清銀行に呼びかけ更らに日本とも結ぶと云つた具合に實に複雜多難な途を

歩んで來たのである、而して全線の開通を見漸く營業開始に至つたのは計畫後十六年を經た一九〇五年のことである。すなはち一九〇五年六月支那政府に於て福公司より七〇萬磅の借款を爲し、買收したものである、但し營業は、純益の二割を福公司に交付する條件を以て同公司に委託したが、一九二七年八月本鐵道監督局を管理局に改組して、營業權をも回收した、その後平漢鐵路に併合された。併し右の如き複雜な經緯はあつたが支那側としてはあくまでもこれ等諸外國との借款關係に於て何等の鐵道に關する基本的利權を與へず只管自營を標榜して來たために、今日京漢鐵道が純然たる支那の所有にある所以である。

借款は一九三二年現在で英佛よりの五〇〇萬磅の殘額一七五萬磅及我正金銀行の一〇〇〇萬兩の殘額元金全部と利子五〇〇餘萬兩（一九三三年現在）がある筈である。

本鐵道北支部分（鄭州まで）沿線は河北省に於ける棉花の主要產地であると共に、磁縣、臨城等の豐富な炭區をも控へてをり更に正太線と接續することによつて、井陘炭、山西の諸資源の搬路としても役立つてをり、今後の北支經濟開發に於て重要な役割を果すものと思はれる。

本線假營業は十一月十五日豐臺—長辛店（九・三粁）前門—清苑縣（保定）（一四五・四粁）良鄉—坨里（一六・三粁）に先づ開始され續いて十一月二十日清苑縣—石家莊（一三一・三粁）十二月二十日石家莊—刑臺縣（一一二・六粁）一月十三日に刑臺縣—安陽縣（彰德）（一一七・八粁）二月十一日には高碑店—易縣（三三二粁）四月七日には安陽縣—新鄉縣（一〇六・七粁）四月十日には豐樂鎭—六河溝（一八・四粁）と急速な伸長を示し、本支線合計六九一粁の區間に假營業を開始するに至つた。最近まで南段はまだ抗日軍の手中にあつたが現在では北京—石家莊間一往復、石家莊—彰德間、彰德—新鄉間各一往復の旅客列車が運轉されてゐる。

瑠璃河・周口店間假營業開始

京漢線琉璃河周口店間一五・二粁は十一月三日假營業を開始した。周口店無煙炭約六萬瓩の貯炭その他に關し同線の營業開始は相當の意義を有するものである。

九月中京漢線貨物發送成績

特殊貨物	三八九、九六七
鐵道貨物	一六一、二五七
一般貨物	九七〇、七五八

合計	一、五二一、九八二
前月	一、三六〇、八七八
一般貨物内譯	
炭	五九〇、九七一
石	六、三六二
煙草	六六、九八一
鑛石	二〇、八八四
棉	六、九八四
大豆	二一、八二四
木材	六、〇四五
高粱	一四、五六八
家畜	八八六
落生	八、〇六三
水産物	四七、〇六八
雜穀	七、二五二
生果	一七二、八七〇
その他	
九月末構内在貨	
特殊貨物	一九、九一〇
鐵道貨物	一三、五二一
一般貨物	八〇、一二九
合計	一一三、五六〇
前月	一二八、四二九

九月中石家莊驛旅客貨物集散狀況

	乘車人員	降車人員	旅客收入
上旬	八三三	四、九六三	一五、四九八
中旬	四、三三四	四、九九一	一三、六九九
下旬	四、八二六	五、二三四	四〇、八二〇
合計	一四、〇〇三	一五、一六七	四〇、八二〇
前月	（減）八七〇	（增）一三九〇	（減）七、二九二

	發送噸數	到着噸數	貨物收入
上旬	二、三二九	一、〇二〇	四、七三〇
中旬	四、一九三	七八四	三九、二三七
下旬	七、〇六七	七一四	四三、〇六九
合計	一三、五七九	二、五二八	一二七、〇三七
前月對比	（增）八、六九九	一、一六一	六八、九一四

膠濟鐵道

膠濟鐵道は青島、濟南間本線四一二粁、外に三本の支線を合せて延長四六九粁の鐵道で 我が管理時代の所謂山東鐵道である。

一、一八九八年獨支兩國間に膠州灣租借條約が締結されるや獨逸は山東に於ける自己殖民政策の中軸たらしむべく山東鐵道會社及び山東鑛山會社を設立した。

二、而して右鐵道會社は一八九九年九月青島、濟南間の鐵道敷設を計畫し先づ青島側から着工して一九〇四年

六月幹支線全部を完成、爾來獨逸の經營十年に及ぶ。

三、然るに一九一三年歐洲大戰突發し東洋の局面にも波及して我が日本も獨逸と青島に於て戰ふ破目となり、大正三年十一月七日青島陷落と共に右鐵道の全線は日本軍の押收する處となつて爾來大正十一年十二月三十一日迄の約八年間日本の管理經營の下にあつた。

四、斯くて大正十二年一月一日本路線を報償金四千萬圓を以つて日本から支那側に引渡されるに至るまでの經緯に就ては所謂山東問題として國際政局上將又日支外交史上幾多の波瀾を捲き起した。

併し右の報償金四千萬圓は支那政府發行の國庫證券の交附を受けたもので利息は毎年支拂ふ規定なるも元金は鐵道引渡當日より起算して五箇年間据置き、六箇年目から更らに向ふ十年間に隨時償還される規定である。だからその額未拂中は日本側に對し鐵道の財産および收入金が擔保に提供されて來た。

津浦線の濟南聯絡開始後間もなく三月二十一日支線の大部分とともに全線假營を開始した。現在旅客輸送は濟南—青島間一往復所要時間十五時間である。

九月中青島驛旅客激增

最近膠濟鐵路の旅客が激增し青島驛の一般乘車客は毎日平均二百八十名、降車四百名内外に及び漸增の傾向を示した。これは奥地の治安狀態が恢復しつゝあることを物語るもので青島驛九月中の乘降客は

	乘車	降車
無賃	四五四	四八四
一般	七、九六九	一一、四五二

合計二萬三百五十八で八月中の一萬三千三百九十九人に比し六千九百六十人の增加であり七月中の一般乘降客に比し乘車は二千三百四十九名、降車は三千六百七十三名、合計六千二十二人の增加となつてゐる。九月中における旅客の乘降數は民國二十三年の統計による數字に接近するものである。なほ乘客數は日本人一千四百六十九名に對し支那人六千五百名、降車客は日本人九百二十二名に對し支那人一萬五百三十名となつてゐる。

青島驛發着貨物數量 九月中における青島驛發着貨物數量は次の如くである。

發送	九、一八〇瓲
到着	一〇、二一四瓲

正太鐵道

正太鐵道は一名山西鐵道とも呼ばれてゐる。この鐵道の延長は起點山西省太原から終點河北省石家莊に至る本支線合せて二七九粁である。本路線は元來山西炭の開發及び搬出を目的として建設されたもので現在では石炭運賃を主要なる營業收入としてゐるが、更らに支那國有鐵道中稀有の狹軌鐵道（一米ゲーヂ）である。

本路線は一九〇三年に起工し一九〇七年に竣工した。起工に際しては露清銀行と結び更らに佛國財團の中國鐵路工程公司とも借款を爲したが一九三二年に至りこれ等の全部と關係を絶ち借款を完濟して以後に純然たる支那の國有に歸した。隨つて正太鐵道は諸外國と何等關係を在しないところに特徴を有つてゐる。本路線は閻錫山の山西モンロー主義に基いた軌道狹軌（一メートル）のため輸送能力乏しく創業當時は毎年缺損を續けてゐたが日露戰爭後佛國の手に移つてから經營大いによろしきを得て營業狀態好轉し更らに支那の國有に歸してからも順調に推移し近來は各年二百五十萬元乃至三百萬元程度の純益をあげて來たのである。事變後假營業を開始したのは六月二十日。井陘石家莊間の廣軌化は本年中至難の模樣である。

井陘・正豐石炭輸送力擴大　埋藏量三億噸と稱せられる井陘、正豐兩炭礦の開發に關しかねて軍當局では興中公司とともに兩炭礦一日の採炭量五千トンに對應するため現在の石炭輸送鐵道を狹軌より廣軌に改めることにより輸送力を擴大することが計畫されつゝあつたがいよ〳〵具體化し十月末から工事に着手し遅くとも明春一月には完成を見ることに決定した。該計畫は石家莊から徽水まで現正太線の枕木をそのまゝ使用して狹軌の外側に廣軌用レールをつけ徽水より分岐して井陘に至る路線は狹軌を廢して廣軌となすもので全延長四十五キロでこれに伴つて單獨に正太線に接續してゐる正豐炭礦鐵道を廢して井陘線に接續合併して輸送を圓滑ならしめやうとするものである。

同蒲鐵道

本鐵道は山西省十年建設計畫案によつて建設されつゝある鐵道で山西省を南北に縱斷し北端は大同にて京包線に、南方は蒲州にて黃河を隔て隴海鐵道に連絡する幹線

延長八二五粁の狹軌鐵道（一米ゲーヂ）である。

民國二十一年十月二十日太原綏靖公署内に晉綏兵工築路局なるものを設け、極力建設費を節約する爲能ふ限り工事は軍隊を使用して行ふことゝし第六六、六九、七一、七二、の各師及び正太護路軍砲兵獨立第一旅の各工兵隊の一三、〇〇〇名を以つて築路敢隊を編成し、全線を數區に分ち二十一年十一月より測量に着手、翌二十二年五月より工事を開始し二十五年一月迄に太原風陵渡間の南段全部が開通した。

（一）北　段

（イ）太原—原平（一二二、七粁）民國二十三年九月路基完成し同年十二月忻口迄の軌條敷設を了し、二十四年春より橋梁工事を急ぎ同年七月に至り本區間の開通を見るに至つた。

（ロ）原平—朔縣（一〇五粁）原平より寧武に至る地方は峨々たる山脈地帶で、本工事中最難の區間とされてゐる。二十一年十一月測量に着手したが、二十三年六月漸く建設工事着手し、二十四年末原平より約二〇粁を完成せしめたのみである。當初の計畫は二十五年中に完成の豫定であたが相當遲延するものと見らる。

（ハ）朔縣—大同（一二六粁）太原、朔縣間の通車を俟つて工事着手の豫定で、材料並に諸計畫は既に準備完了し工事開始に至れば六箇月を以つて完成する見込みで、曾て閻錫山は全線の土工を二十五年十一月一日迄に完成せしむる豫定の下に徴工辦法を制定した。

（二）南　段

（イ）太原—介休（一四一・八粁）本鐵道中第一に工事に着手した區間で、二十二年五月土工に着手し、同年十二月より軌條を敷設、二十三年五月工事を完成し同年七月一日正式營業開始を見た。

（ロ）介休—臨汾（一三四・六粁）二十三年四月一日起工、同年十二月霍縣まで通車を見、二十四年三月臨汾迄の軌條敷設を了し、同年五月十日より臨汾太原間の直通運轉をなすに至つた。

（ハ）臨汾—風陵渡（二三〇粁）二十三年一月測量を開始、十月着工、二十四年五月軌條敷設を開始、八月一日臨汾侯馬間六〇粁の開通を見、以後專ら工事を急ぎ二十五年一月一日全線開通した。

（三）支　線

忻寧線（忻縣—寧武五〇粁）及平汾支線（平遥—汾陽三

四・二粁）太汾豫定線（太原—汾陽二〇粁）西山線（太原—白家莊一九粁）、煉鋼線、運茅豫定線等の支線があり、右の内忻寧線平汾支線、西山線、煉鋼線は既に工事完成し開通を見てゐる。

二十五年度は二月に共匪の侵入騒亂あり十二月には内蒙古との間に綏東戰勃發しこれが討伐又は對戰のため、總ての建設事業は停頓狀態に陷つた翌二十六年は前年の影響から金融硬塞し資金難に陷り本鐵道建設工事も遲々として進まず源平—大同間はなほ開通を見るに至つてゐない。事變後四月十六日から大同—朔縣假營業を開始した。十月初旬現在までは定期旅客運輸を行つてゐない。

京古鐵道

通州—古北口（滿支國境）間一二六粁の線路に、六月二十日から通州—北京間を加へて京古鐵道と改稱したもので旬年九月承古線（承德—古北口間）と共に着工され本年四月一日公式假營業を開始した承古線一〇六粁と合し二三二粁で從來の錦州—北を結ぶ山海關經由の奉山、京山線の外に古北口經由による滿支新ルートをもたらしたものである。承德—通州間の鐵道は約三十年前アメリカの手により計畫調査濟みであつたが支那を對手とするその後の列國の利害關係から停頓してゐたもので今事變は日本の手によりその急速な完成を實現せしめたものである。すなはち滿鐵では承古線の建設を委囑され直に通州建設事務所を設けて八月末調査に着手、續いて土木工事に移つたのであつたが所謂建設工事を材料輸送工事、給水工事、通信工事、建築工事に分ち請負業者と一體となつた協力の下に建設を進めた、古北口寄りの陰山々脈にかゝる約四千粁は山嶽地帶に屬して隧道も大林組請負區間に一個を穿ち多少の難工を見たがそれでも承古線の難工事に比し非常に樂なもので特に密雲邊りから通州までは殆ど平地に敷設すればいゝので經費も日數も僅少で進工することができた。建設中には犧牲者も出ず全く豫定通り諸設備の竣工を終り多少承古線側の手傳ひに出る程の好成績を示した。承德。通州間二百三十粁の建設經費は承古線の難路に於て多くを要してゐるが大體二千五百萬圓程度と推算される。着工より約六箇月後の二月末工事完成し、その超スピード建設は世界鐵道建設史に特記しうるもので三月一日から非公式に假營業を行つてゐたが承古線が四月一日から假營業を開始するに至つてそれと歩調を合せ四月一日から公式假營業を行つたものである。六月二十日から京古鐵道と改稱された。現在旅客列車は二往復。

北支鐵道計畫線

津石鐵道

本路線は京漢鐵道石家莊から東に走り天津を以て終端とすべく計畫されたものである。延長は三二〇粁、始めの計畫は石家莊、滄州間を結ぶ滄石鐵道として數年前土工の一部起工したのであるが津浦線との關係其他の事情によつて中止、昭和十一年秋北支開發の輿論に刺激せられ終點を天津に延長する津石鐵道の名に於て再登場正に風々の聲を揚げんとして流産したが、時局の安定と共に必ずや近く實現の運びに至ること疑ひあるまい。

京包鐵道の延長

京包鐵道の寧夏延長問題は西北開拓及國防建設に重大な關係あるものとして民國十四年同鐵路局は包頭より五原西磴口を經て寧夏に至る全長五五二粁の計畫を樹立し右を三區に分け經費三千百九十餘萬元を以て建設に着手せんとしたが資金難のため着手を見ず現在にまで至つたその建設豫定は第一階段として包頭五原間を着手することになつて居り、本工事に就ては建設費五百萬元を要する見込である。

イ、膠濟鐵道の延長即ち濟南より京漢鐵道の彰德に至る線

ロ、京包鐵道の延長即ち包頭より寧夏に至る線

ハ、京山鐵路唐山より通縣に至る線

ニ、厚和から黃河に沿ひ隴海線に至る線

鐵道一年

從業員逃走　今次事變勃發後北支諸鐵道支那側從業員の多くはその職場から逃避し、職場となつた地方およびその附近における鐵道交通は一時杜絶の已むなきに至つた。

特殊輸送開始　わが方の特殊輸送はこの間滿鐵より事變勃發後直ちに派遣された鐵道從業員を以て軍鐵道隊指揮の下に行はれた。當時滿鐵派遣員の經驗した辛苦については、世上傳へられたトピックとして天津襲撃事件、白河の氾濫により破壞流失せる線路の修復等があるがこれらは寧ろその活動の極めて小さい部分である。戰局の進展に伴ふ特殊輸送範圍の擴大により、その輸送業務は

益々繁忙となる一方、支那軍及び敗殘兵匪賊等による襲撃、鐵道輸送の妨害も愈々廣範圍に亘つて行はれるやうになつた。これに對する處置は、特殊輸送の重大性に鑑み一刻も忽せに出來ないことであるから鐵道從來員は鐵道鐵橋の修復、電線の修理その他建設復舊に不斷の危險に曝され乍ら從事して來たのである。

一般輸送開始　一般輸送は先づ京山線（當時北寧線）において天津事件後間もなく開始されたが特殊輸送の餘力を利用して行はれるのであるから極めて制限されて居り例へば天津、北京等における生活物資の補給等に使用されるに過ぎない狀態であつた京山線以外においては、もとより一般輸送など全然未だ考慮の餘地がない狀態であつた。

假營業開始　その後戰局が進展するに從ひ皇軍出動の眞意も支那一般民衆に諒解されるやうになると共に治安も漸次恢復するに至り、奥地の農村、小都市に於ける經濟も漸次平常化する一方邦人の進出亦旺んとなり加ふるに特殊輸送にも漸く餘力を生ずるに至つたので、初めて十月十五日豐臺、張家口間に滿鐵による假營業が開始されることとなつたのである。假營業區間の伸長の詳細に就ては各論の項で述べることとして、その概略を示す。

（一）京包線は前記豐臺、張家口間が十月十五日に開始されたに續いて十一月一日には張家口、大同間十二月十一日には大同、包頭間と全線に亘り。

（二）京漢線は十一月十五日北京、清苑縣（保定）間十一月二十日清苑縣、石家莊間、其の後邢臺縣より更に間四月十七日開始、次で安陽縣（彰德）、新鄕、豐樂鎭と、皇軍占據の跡を追ひ豐樂鎭から西方の六河溝に至る六河溝支線は四月十一日から開始。

（三）津浦線は十一月十五日に天津、滄縣間、十一月二十日には德縣今年二月十二日には濟南まで伸び濟南、徐州間は九月一日營業開始。

（四）膠濟線は三月二十一日に全線假營業開始。

（五）同蒲線は四月九六日より大同より滄縣（太原北方四十里）まで。

（六）京古線（通古線又は承京線）は四月一日より。

（七）待望久しかりし正太線石家莊太原間は六月二十日より開始、と云ふ急速な伸展を示してゐる。

改正貨物運賃率（京漢、津浦線）

（昭和十二年十一月十五日發表）

北支鐵道事務局では十一月十五日より京漢、津浦兩線の營業開始をなし同線の營業開始と共に貨物運賃率を左の如く改めた。

一車扱貨物基準運賃率表（一噸に付）

等級 / 粁程	一級品	二級品	三級品	四級品	五級品	六級品
一一〇粁	一・三四元	一・二二元	〇・八六元	〇・五六元	〇・四八元	〇・三七元
三〇粁	二・〇一元	一・八八元	一・二八元	〇・八四元	〇・七三元	〇・五六元
四〇粁	二・六八元	二・二三元	一・七一元	一・二二元	〇・九七元	〇・七四元
五〇粁	三・三五元	二・七九元	二・一四元	一・四〇元	一・二二元	〇・九三元
六〇粁	四・〇二元	三・三五元	二・五七元	一・六八元	一・四五元	一・二二元
七〇粁	四・六九元	三・九一元	三・〇〇元	一・九五元	一・六九元	一・三〇元
八〇粁	五・三六元	四・四七元	三・四三元	二・二三元	一・九四元	一・四九元
九〇粁	六・〇三元	五・〇三元	三・八五元	二・五一元	二・一八元	一・六八元
一〇〇粁	六・七〇元	五・五九元	四・二八元	二・七九元	二・四二元	一・八六元
一五〇粁	九・七二元	八・一〇元	六・二一元	四・〇五元	三・五一元	二・七一元
二〇〇粁	一二・七三元	一〇・六二元	八・一三元	五・三〇元	四・六〇元	三・五四元
二五〇粁	一五・四一元	一二・八五元	九・八四元	六・四二元	五・五七元	四・二八元
三〇〇粁	一八・〇九元	一五・〇九元	一二・五六元	七・五三元	六・五四元	五・〇三元

（以下略）

備考　本表は基準運賃率表にして普通運賃率を算出する場合は本運賃率に一割五分を加算すればよい。

東方旅行社　一方滿洲事變以來中絶してゐた日支間交通事業（通車業務）はその實行機關として滿鐵ならびに北寧鐵路局雙方協約の下に昭和七年七月生れた東方旅行社の介在により奉天、京山線間のみに復活したが、北支治定の安定に伴ひ滿支間交通は著しく緊密の度を加へ、十三年一月には滿洲國から北支に發送される物資は一日平均一車扱貨物のみでも二十車を下らず、旅客もまた一日二千人を突破する驚異的數字を示すに及び東方旅行社はその存在の意義漸次薄弱となり、かゝる中間的機關が介在することはかへつて滿支間交通の圓滿なる發達に支障を來す現狀を齎らすに至つたので四月一日から右東方旅行社の介在を排除し、同旅行社は單に名稱のみをとゞめて山海關東方賓館の經營に當らしめ通車業務は新たに鐵道總局北寧鐵路管理新規程を設けて兩者において直接にこれを管掌することに決定した。

通車業復活　これに伴つて懸案の滿支間車輛直通および貨物ならびに旅客手小荷物聯絡運送實施も四月一日から行はれた。右に關する新規卽は同月十五日鐵道總局から發表されたが、その內特に。

一、從來仲介的機關たる東方旅行社の手によつて經營されて來た滿支直通旅客列車は總局、北寧鐵路局間の直接經營とする。

一、從來旅客通車の場合その取扱範圍が奉山線および北寧線（現京山線）各主要驛相互間に限定されてゐたものを社線、國線、北鮮線および北寧線各主要驛相互間に擴張されたこと。

一、商取引の圓滑をはかるため新たに貨物の直通聯絡、運送を開始したこと。

一、荷主の利益を考慮し直通荷物に對し代金引換制度を設けたこと。

などは滿支間における商取引の圓滑、滿洲國內生產品の北支進出などに多大の貢獻をなすものである。

滿鐵各線小口貨物取扱開始　滿鐵では五月十日から假營業中の京包、京漢、津浦、膠濟四線では一齊に小口貨物取扱を開始した。右は從來國際運輸で取扱つてゐたのであるが爾後國際は荷卸委託事務のみを取扱ふ事になつた。

日滿支運輸協定準備會　しかし右は事變の進展、新支那政權の强化に伴ひ、さらにこれが强化を要望せらるゝに至り、滿支間聯絡を日滿支聯絡に擴張するため「日滿支運輸協定準備打合會」が鐵道省、鮮鐵、大阪商船、近海郵船、大連汽船、滿鐵北支事務局、鐵道總局等からの代表者によつて六月六日から開催された。その結果各代表者間に一致せる意見に基き鐵道總局において聯運協定書を起草、各關係方面と今年中に協定を結ぶことになつたが、その內容はさきに滿鐵線と北寧鐵路局線との間に實施せられた滿支貨客聯絡運送規則を根幹として、これに鐵道省、鮮鐵その他汽船會社をも參加せしむるもので、今後の推移に伴ひさらに京包、津浦、京漢の各線にも適用せらるゝに至るものと見られてゐる。

貨客輸送實施　貨客取扱規則は北支の情勢に對應して今日まで四度の改正を見てゐるがそのうち特筆すべきは六月十日より割期的英斷のもとに一般貨物及び手小荷物の負責輸送が實施されるやうになつたことである。戰時狀態に置かれてゐた北支に於ては鐵道輸送の安全化を圖るためあらゆる努力が拂はれてゐたとはいへその萬全を期すことは殆ど不可能でありこれがため負責輸送を行ひ得なかつたのであるが、最近漸く之が實施の運びとなつたのは、北支治安の恢復、輸送機構の整備に著しい進歩が見られた結果である。この負責輸送によつて北支經濟のより一層な安定が見られることは言を俟たない。すなはち荷役不足や貨車の不圓滑のために天津などは倉庫並びに碼頭に最大時約百二十萬噸の滯貨が山をなしこれ

に對しスパイ乃至共產系の怪火が頻々と起り、國際運輸等でも荷主側が貨物陸上げ後十日間ぐらゐの保險を附することが最も安全だと苦慮してゐた折柄滿鐵北支事務局が右英斷の下に破損滅失貨物の全面的責任を負ふに至つた組果、殊に奧地運行の貨物におよぼす影響は至大であり、ひいては內地との間にスルービル發行も可能となつて來るので右負責輸送開始は荷主の一大福音として迎へられた。その規定は左の如くである。

一、負責の範圍　滅失毀損に因る損害賠償範圍とし引渡遲延に因る損害、運送關係書類記載事項に基く責任は貨物引換證の發行、代金引換の委託及要償額の實施の場合に併せて考慮することゝし當分これを見送る。

一、負責程度　原則として全面的責任を負ふが假營業の特殊事情に基因する場合及一般的不負責事項は之を除外する即ち例へば

（イ）治安狀態、輸送情況等を考慮し其運送に甚だしき危險を伴ふおそれある區間は除外する場合を豫期せねばならぬ。

（ロ）不可抗力、荷主の過失及齎來の鐵道不負責貨物は除外

（ハ）使用貨車の構造上特有の危險に因るものを除外。

（ニ）荷物が所定期間內に引取られざる場合を除外。

（ホ）假營業中特有の事情に照し已むを得ざる事由に基因するものと認めたる場合を除外。

一、引取期間の設定　負責運送は保管責任の發生を伴ふため到着貨物の引取期間を設定、而して引取期間は無料として保管の責任を負ひ期間經過後は留置料を徵收する。

一、留置料率　貨物留置料率は從來のものは不統一且つ規定の無いものがあるためこれを機會に滿鐵鮮鐵の料率までを對照として一定し且つ從來の等級別制を廢して危險品、普通品共各一本とし多少の料率引下げを行なふ規定。

鐵道事務所改め鐵路局　これに後るゝこと五日、すなはち六月十五日滿鐵北支事務局では管下四鐵道事務所の機制改正を發表、大陸鐵道一貫經營の根本方針のもとに滿洲國線の機構と全く同樣な各鐵路局（北京、天津、濟南、張家口）を六月二十日から實施した。

滿支一元北　同時に四鐵路局に新古に副局長制を置き

さらに各局内の各處長（いづれも從來の班長）の下には副處長（いづれも從來の班長）を新設して滿洲事變以來華々しく活躍した第一線の人物が各重要の地位を占め名實共に在滿鐵路局と同一體制となし滿支鐵道一元化の實をあぐるに至つた。

邦人驛長 この間北寧鐵路局では邦人のすさまじい進出と、一二等乘客の大半が日本人であるのに鑑み職員に邦人を續々採用する方針を採りまづ日本人の乘降客の最も多い天津東站（現天津站）驛長に齋藤順治を採用し引續き北寧線その他にその方針を續けた。

全面的ダイヤ改正 また殺到する旅客のために列車の增發ならびに運轉時刻の變更を四月十日から行ひ奉天、北京間に急行一本を增發、所要時間も一時間短縮し、奉天、北京間列車は「あじあ」「のぞみ」「ひかり」その他滿洲國內主要列車に直接接續することになり、一方張家口鐵路局では京包線のスピード・アップおよび客車の增發を企畫し七月一日から客貨車ダイヤの全面的改正を斷行して北京、包頭間を四時間短縮、これによつて京包線は一躍近代鐵道としての面目を一新した。同時に膠濟線は濟南、青島において約一時間を短縮、なほ近く（九月上旬現在）北京を中心とする北支各鐵道小口貨物輸送計畫を實施すべくその結果これが輸送日數は北京、山海關間二日、北京、天津間一日、北京、濟南間二日、北京、石家莊間一日、北京、承德間二日、北京、張家口間一日、北京、大同間二日、天津、山海關間二日、天津、青島間二日、天津、濟南間一日、天津、徐州間二日、天津、張家口間二日、天津、石家莊間二日各日數の短縮を見る筈である。

京古線開通 前記四月一日開通した通古線（通州、古北口間—滿支國境所在—）を六月二十日改稱したもので承古線（承德、古北口間）と合し承京とも稱せられこれが開通により北京、奉天間は聯絡を見たものである。

中央標準時採用 さきに四月二十日午前零時を以て軍當局が一時間の時差が聯絡上その他に煩雜のゆゑを以て中央標準時を採用したのに呼應し滿鐵もこれと同時に時間の切替を行つた。

線名驛名改稱 六月二十日には各道路局の新設と共に北寧線を京山線、京綏線を京包線、通古線を京古線と改稱し、左の各驛名を改稱した。

舊稱	改正
天津東站	天津站

天津總站	天津北站
北戴河海濱站	海濱站
前門站	西陽門站
清苑縣	保定
邢臺縣	順德
安陽縣	彰德
通縣站	通州南站
通州東站	通州站

乘車券乘車規則改正 又同日改正した乘車券乘車規則は左の通りである。

一、從來購入した乘車券の指定列車以外の列車には乘車出來なかつたが何れの列車にでも通用する。

一、片道乘車券は二日間の通用期間があり尙二百粁以上は二百粁を增す毎に一日を加へる。

一、往復乘車券の通用期間は片道通用期間の二倍。

一、旅客は乘車券の通用期間內に於ては地方的乘車券を以て任意の驛に下車出來るが當該乘車券を驛長に提示し其證明を受けなければならぬ。再乘車の際にも乘車券を站長に提示して證明を受け乘車する事。未使用區間の旅客運賃は拂戻しの請求をする事が出來ない。

一、旅客は乘車券發賣の日より通用期間內に於ては何時なりとも乘車することが出來るが通用期間の最終日の二十四時迄に旅程を終へなければならない。

尙內地、滿洲においては乘車券發賣の日より通用期間の最終日に乘車して乘車中に於て通用期間が完了しても有效であるが京山線區內に於ては通用期間の最終日に旅程を完了しなければならぬ樣になつて居る點が特に留意を要する。

新貨物等級表制定 なほ北支各鐵道の貨物輸送は從來京山線を除いてはことごとく北支の假營業規定によつて暫行貨物等級法が實施されてゐたが、事變一周年を迎へるに當つて北支交易の振興度、運賃賦課表の合理化を期し新貨物等級表を制定し、北支全鐵道に對し七月十五日からこれを實施した。改正商品貨物等級は五部門五十六品目に別れてゐるが、從來の貨物輸送には事變中の過渡期のため等級表のごときも右の改定表のごとく明細、合理的なものでなく大類別の極めて大雜把なものであつたため荷物によつては價格の安いものでもまた現地の情勢上必需品であつても高級品扱をうけて貨物取扱上非常な無理があつて地方必需品の輸送上一支障をなしてゐた

が、右の全般的改正によつて此分は著しく除去されて業者に非常な利便を與へる其となつたが右の改正によつて最も利益を受くるものは品物表の細別化によつて復興資料、必需品の運送價が著るしく合理化されたことである。なほ新規則による普通品貨物等級表は左の通普である。

一、鑛產部門　1石炭、骸炭、2泥、砂、3石類、4鑛および鋼物、5金屬原料、6金屬材料、7礦油、8その他

二、農產部門　1穀類、2果實、3種子、4茶、5蔬菜6栽培用植物種子類、7植物製油、8植物粕油、9植物製藥劑、10綿および麻類、11その他

三、森林部門　1植物種子（非栽培用）、2木材、3その他

四、禽畜部門　1禽畜類、2水產類、3蓋蔔類、4皮革類、5毛髮類、6その他

五、工藝部門　1金屬製品（銅および鐵を除く）、2銅および鐵製品、3漆製品、4木、竹、篠および草製品、5皮、帆布、骨、ゴム製品、6絹、綿、毛、麻などの製品、7衣服および身廻品、8化粧品、9食料品、10タバコ、酒類、11家具類、12骨董品および美術品、13玩具、樂器、運動用品、14印刷物、紙および文具、15化學器具、16機械器具、17電氣機械、18鑛材および冶金機械、19鐵道材料、20建築材料、21農具、22顏料、塗料、23藥品、24化學藥品、25銃砲および火藥類、26車輛、船舶、飛行機および部分品、27その他

黃河鐵橋開通　なほ特記すべきことは、六月三十日に黃河鐵橋が完成し翌七月一日から開通したことである。黃河鐵橋は世界有數の大鐵橋でかつて三年有餘の歲月を費して完成せるものであつたが昨年十一月皇軍の猛追におそれをなし津浦線に沿うて南下雪崩のやうに敗走する支那軍はわが前進を阻止する目的を以てこれを爆破してから八箇月、鐵道省鐵道研究所第四科および滿鐵工務所が代表する世界に誇るわが鐵道界最高の設計技術の粹と軍の緊密な協力と間組の工事請負と三者が渾然一體となり晝夜決死的の努力の結果、工事延人員十數萬、警備兵二名とともに七名の犧牲者さへ出し僅々半歲有餘にして六月二十一日全長四百二十五米、以前にも勝る構造及び耐久力の一大鐵橋が完成、同三十日試運轉を行ひ、七月一日開通式を行つて南北の交通はこゝに一貫性を强化するに至つたものである。先是四月二十七日わが大本營陸

軍部は北支鐵道の復舊狀況に關し左の發表を行つた。

大本營陸軍部二十七日發表　皇軍の神速果敢、その端倪を許さざる作戰により各所に敵の大軍を擊破しあるは既に世界の驚異とするところなるも一面作戰の動脈をなす北支鐵道の機宜に應ずる神速なる整備ぶりもまたまさに特筆に値するものあり、しかして今や皇軍の北支において利用しある鐵道は總延長約四千キロにしてわが青森鹿兒島間の二倍に相當する距離となれり、戰場における鐵道はいたるところ敵の巧妙にして大規模なる破壞を受け、ことに中要なる鐵橋は悉く根柢より破壞せられたるも、わが勇敢なる鐵道隊および滿鐵、鐵道省などより派遣せられたる諸機關その他の適切なる處置と不眠不休の努力によりたちまち回復し敵をして啞然たらしめあり、ことに敵の徹底的に破壞せる黃河の鐵橋の如きはかつて支那側が外國技術の粹により三年有餘の歲月を費し建設せるものなるが、一度わが軍の手に入るや疾風迅雷、二月末早くも應急運行をなし、同時に永久的再建に著手し、近々その開通の運びとなれり、かくして北支鐵道は軍のあらゆる要求に應じあるのみならず、逐次民需をも充足しありて各鐵道沿線には善良なる支那民衆が加速度的に復歸して安んじて生業に從事し、舊從事員もまた目下三萬人以上復歸しわが優秀なる鐵道技術に信頼しかつ手厚き給與に喜びてわが鐵道機關の指導に服しつゝあり、上述のごとく河北、山東の三鐵道は著々常態に復しなかんづく北寧線のごときは事變前よりも良好なる收益をあげありて北支の明朗化に貢獻するところ大なるものあり。

京包線大改良　大同炭二千五百萬瓲、龍烟鐵鑛三百萬瓲の開發を目標とする蒙疆振興四箇年計畫遂行のため蒙疆交通輸送問題の根本的解決に關し差當り京包線の改良による輸送量の增加を圖る事となり約一千萬圓を投じて京包線各驛の擴張改良に努めてゝあり明年（昭和十四年）初めには現在の輸送量二十萬瓲を一躍四百八十萬瓲に增加し得る見込みである。右完成の曉は明年度に豫定されてゐる二百六十萬瓲の大同炭對日輸出も容易に行はれる外龍烟鐵鑛の大々的な八幡向け輸出その他貨物の輸送は一段と促進されるわけである。

京包線に診療列車　張家口鐵路局では物品の缺乏に惱む沿線從業員、軍警あるひは一般民衆のために一箇月三回の巡廻配給列車を運行して多大の利便に供してゐるがさらに完備した診療車を右配給列車に連結し醫療機關に

惠まれぬ前記從業員、鐵道愛護村民に溫い醫療の手をさしのべることになり醫師一、助手一、看護婦一合計三名を乘せ毎月一日から十日目毎に北京を出發包頭に至るもので七月一日初のスタートを切つた。

皇軍制壓下粁數　なほ六月上旬現在皇軍制壓下における揚子江以北諸鐵道は左の如くである。

（鐵道名）	（本支線粁數）	（皇軍占領粁數）	（蒋政權下粁數）
京漢線	一、三二九	八〇〇	五二九
津浦線	一、一〇五	一、一〇五	—
京包線	八七八	八七八	—
京山線	四六六	四六六	—
膠濟線	四五三	四五三	—
隴海線	一、三三六	八一	一、二四五
正太線	二七八	二七八	—
道清線	一五二	一五二	—
同蒲線	一、〇一三	一、〇一三	—
淮南線	二二四	二二四	—
合計	七、一〇四	五、四四〇	一、六六四

最近の業績　北支の各鐵道は最近著しい成績を擧げ始め特に天津鐵路局管内の到著、發送貨物は何れも七十萬瓲を超える殷盛振りでこの鐵道收入が一日十萬圓に上ることもある。この十萬圓はあたかも滿洲國鐵が創業當時の一日平均數字と殆んど同額で、これよりも粁數の短い天津鐵路局管線の右成績は如何に優秀なものであるかを示すものに外ならぬ。

北支交通會社　設立過程中の北支交通會社と滿鐵との關係は大陸における交通分野の將來に一つの大きな示唆を與へてゐる。今事變を契機として人事、技術、資材の交通を通じ實質的に滿鐵は北支鐵道をその運營下に置きこれによつて全面的北支進出を企て、全北支の鐵道はもちろん、港灣、炭礦の經營から產業開發に至る尨大なその案も時の政治的情勢からわが政府の容れるところとならなかつたが、しかし滿鐵は支那軍に破壞された鐵橋、路線の修理ならびに軍の輸送に不朽の功績を殘した。この偉業を基礎とする滿鐵の發言權は大きい。だから目下設立準備中にある北支交通會社に對する滿鐵の要望は、滿鐵にとつて十分とは行かなくてもまがりなりにもその大部分は具體化されつゝある。すなはち滿鐵は北支交通會社に對しそのイニシアティヴを要求し、その主體たることを不言の裡に期してゐる。たゞ主體たり得るにしてもはじめから滿鐵が要望してゐたことゝは非常な懸隔がある。新會社々長には宇佐美寛彌氏が內定してゐる。資

本總額は三億圓、親會社たる北支開發會社がその半額一億五千萬圓（現物出資）は內定してゐるが殘額出資率は未だ判明せず滿鐵出資は大體一億二千萬圓程度に落付くものと見られ民間出資に關しては第一回拂込四分の一乃至五分の一の方針で四・五箇年間に完了の筈である。

長城炭礦鐵道假營業開始　冀東の東拓炭礦地區から秦皇島に通ずる全長十七哩全線は九月十日假營業を開始した。

濟南—徐州間假營業開始　津浦線濟南—徐州間二五〇粁は九月一日假營業を開始した。旅客および貨物取扱驛左の如し。

△旅客手小荷物取扱驛

濟南徐州間各驛

濟寧線各驛

臨城棗莊間（鄒塢、齊村を除く）各驛

△貨物取扱驛

泰安、大汶口、曲阜、兗州、鄒縣、藤縣、臨城、柳泉

徐州東站、濟寧、棗莊

津浦・隴海線に貨車二千車運轉　特殊輸送の一段落と特殊輸送の一段落津浦線—濟南—徐州間、徐州—開封間の假營業開始による貨物出廻り增加に備へ九月一日から輸送に關し飛躍的增送計畫を樹立した。即ち各鐵路局別に見る毎日の貨車使用數は（單位三〇瓲貨車）

天津鐵路局九八四車、北京鐵路局四四〇車、張家口鐵路局二四四車、濟南鐵路局三三〇車、計一、九九八車、瓲數六〇、〇〇〇瓲

で特に石炭は各地山元よりの積出し要望に基き前記の配車計畫中各炭坑別に一日平均

開灤四九〇車、門頭溝七六車、坨里三〇車、口泉一二〇車、六河溝二五車、井陘八車、下花園八車、棗莊二〇車、博山二〇車—である。

濟南鐵路局假營業開始　隴海線徐州—開封間二二七粁を所管する同局は九月十一日假營業を開始した。旅客および貨物取扱驛左の如し。

△旅客取扱驛

楊廊、黃口、碭山、馬牧集、張閣、商庭、柳河、內黃

開封

△貨物取扱驛

黃口、碭山、商庭、柳河、開封

濟南・徐州・開封間新ダイヤ　九月十一日假營業豫定